

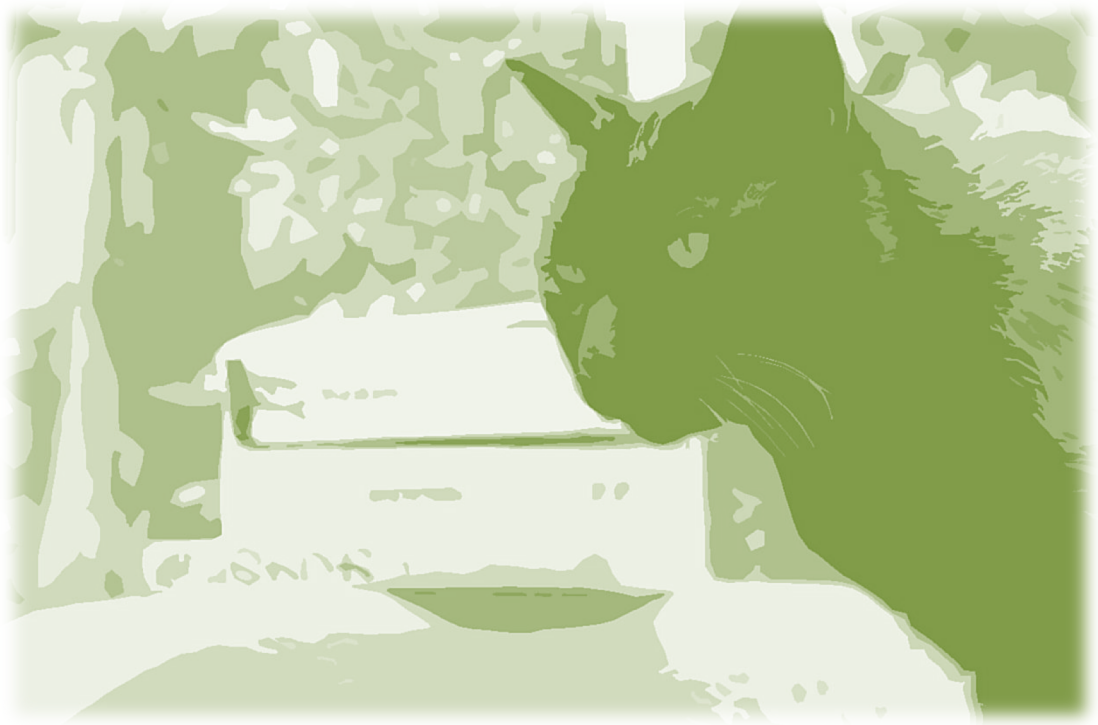
Title	村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (4)
Author(s)	イーヴァソン, 房枝; リンドソコグ, セバスティアン; 劉, 翔 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/79003">https://doi.org/10.18910/79003</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

村上春樹翻訳調査プロジェクト  
報告書(4)



2021年3月

研究代表者  
金水 敏

## 巻 頭 言

金水 敏  
(大阪大学)

『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書』の第4号をお送りする。本プロジェクト設立の経緯については、報告書第1号をご覧ください(第1号～第3号は大阪大学リポジトリ「OUKA」で無償公開されている。アクセス方法については本頁の下欄参照)。

第4号には、イーヴァソン房枝氏、セバスティアン・リンドソコグ氏、劉翔氏と金水の4本の論文を取めることができた。イーヴァソン氏の論文は、日本のマンガ作品『SPY×FAMILY』に登場する「アーニャ」の発話とその英訳を、『海辺のカフカ』の「ナカタさん」の発話およびその英訳と対照したものである。リンドソコグ氏の論文は、『1Q84』に登場する「ふかえり」のスウェーデン語訳について分析し、「—」(ダッシュ)の使用によって独特な拍子の取り方を表現していること等について述べている。劉翔氏の論文は、『騎士団長殺し』の「騎士団長」および「顔なが」の発話とその中国語版(林少華訳・簡体字版)を対照し、とくに「騎士団長」の話し方に高い文化教養を感じさせる工夫等について述べている。金水の論文は、村上春樹氏の小説作品に見られる関西弁の特異な位置付けに着目し、氏の郷里や父親に対する距離の取り方がそこに反映されていることを述べている。この論文は中村三春(監修)・曾秋桂(編集)『村上春樹における移動』(淡江大学出版中心、2020年)に掲載されたものに加筆修正を行った増補版である。

本号は科学研究費助成事業「「役割語・キャラクター言語の翻訳可能性・翻訳手法についての研究」(2019～2021年度、研究代表者:金水 敏)の予算によって編集・発行を行った。※『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書(1)～(3)』が収められている大阪大学リポジトリ「OUKA」のURLは下記の通り。

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

また、googleなどの検索エンジンで「大阪大学リポジトリ 村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書」で検索すれば、直接アクセスすることが可能である。

※本プロジェクトの活動は、随時下記ブログで公表されるので参照されたい。

「SKの役割語研究室」: <http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/>

## 目 次

巻頭言..... 金水 敏（大阪大学）

### 目次

- 1 特異な主要キャラクターのキャラクター言語に見られる過剰性と逸脱性  
—アーニャ（『SPY×FAMILY』）とナカタさん（『海辺のカフカ』）の日英対照—  
..... イーヴァソン房枝（ヨーテボリ大学） 1
  - 2 『1Q84』のふかえりによる日瑞訳の話し方について  
..... セバスティアン・リンドソグ（大阪大学） 49
  - 3 『騎士団長殺し』におけるキャラクターの言語表現及び中国語訳の分析について  
..... 劉 翔（大阪大学） 63
  - 4 村上春樹と関西方言について—遠心的／求心的な移動とポリフォニー—  
..... 金水 敏（大阪大学） 79
- 著者情報（2021年3月現在） ..... 91

# 特異な主要キャラクターのキャラクター言語に見られる

## 過剰性と逸脱性

—アーニャ（『SPY×FAMILY』）と  
ナカタさん（『海辺のカフカ』）の日英対照—

イーヴァソン 房枝  
（ヨーテボリ大学）

### 1 はじめに

本稿では、超常的な能力と限られた知性により物語の展開に大きな影響を与えるキャラクターの話し方とその英訳について考察する。2019年より連載中の遠藤達哉のマンガ『SPY×FAMILY』<sup>1</sup>に登場する特異な主要キャラクターであるアーニャの特徴的な言語表現について、役割語とキャラクター言語の観点から整理し、英語翻訳版における対応を分析し、さらに、2002年に書かれた村上春樹の小説『海辺のカフカ』に登場する特異な主要キャラクターであるナカタさんについて先行研究（山木戸 2019）で明らかにされている特徴および英訳における対応と比較する。

本稿のケーススタディとして焦点が当てられるアーニャは、スパイ任務遂行のために形成された仮初めの家族（父はスパイ、母は殺し屋、娘は超能力者）の日常とスパイアクションをコミカルに描いたマンガ『SPY×FAMILY』の準主人公であり、知識や理解力には乏しいが、人や動物の心が読めるという超能力を有する幼女である。父・母・娘は互いに正体を隠しているが、心を読める娘のアーニャだけは全てを知っている。アーニャとの比較の対象となるのは、『海辺のカフカ』の偶数章の主人公であり、読み書きができないなどの知的なハンディキャップがあるが、猫と会話ができる等の超常的な能力を備えた初老の男性・ナカタさんである。各作品の表立った主人公である『海辺のカフカ』の田村カフカと『SPY×FAMILY』の父役のスパイ・黄昏（たそがれ）が「ヒーロー

---

<sup>1</sup>本稿では、作品の基本設定のほか、日本語版第5巻（遠藤 2020c）・英訳版第3巻（Endo 2020c）までの単行本ならびに遠藤（2021）に収録された台詞を含む内容に断片的に触れている。作品未読の方はその点お含み置きいただければ幸いである。

の役割語」とも言える没個性的な標準語を話すのに対し、異能の持ち主であり各作品の第二の主人公とも言えるアーニャとナカタさんの話し方は、非常に特徴的である。

『海辺のカフカ』のナカタさんの特徴的な話し方が各国語にどのように翻訳されているかについての研究は近年増えつつあるが（金水（編）2018、2019 他）、中でも山木戸（2018、2019）は、ナカタさんの話し言葉の特徴を役割語とキャラクター言語の観点から論じ、その英語翻訳版における対応を深く考察している。本稿では、山木戸（2019）のナカタさんの話し言葉についての分析に沿う形で、まずアーニャの台詞の役割語的・キャラクター言語的特徴と英語翻訳版における対応を分析し、次にアーニャとナカタさんの各結果を比較する。さらに、作者・ジャンル・執筆年代等、多くの点で異なるこれら2作品におけるキャラクターを比較しその共通点と相違点を検討することにより、日本語のフィクションにおける特異な主要キャラクターを特徴付ける役割語とキャラクター言語、ならびに翻訳上の問題について考察し、その一般的な傾向を見出す手がかりとして提示したい。

## 2 役割語とキャラクター言語

金水（2003）は、役割語を以下の通り定義している。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。（*ibid.*、p. 205）

日本語のフィクション作品の多くは、この役割語を利用して登場人物の属性を受け手に効果的に伝えている。役割語には、その描写する人物像に応じて<男ことば>、<老人語>、<幼児語>などの様々な分類があるが<sup>2</sup>、その人物像と「ステレオタイプ的に結びつけられる話し方」の「知識はその言語共同体の多くの話者によって共有されていなければならない」（金水 2016、山木戸 2019、p. 18-19）とされる。話者の人物像とステレオタイプ的に結びつけることのできる特徴的な話し方であっても、言語共同体のごく一部の話者にしか結びつきが認められない場合、その話し方は、役割語ではなくキャラクター言語と呼ばれ

---

<sup>2</sup>本稿では、金水（2003、2014）に倣い、役割語の分類名を< >内に表示する。

る<sup>3</sup>。本稿でも「役割語」と「キャラクター言語」を区別して分析を進め、またそれらの翻訳についても検討する。翻訳は常に原文の尊重と訳文読者への配慮のせめぎ合いであるが (Klingberg 1986)、役割語とキャラクター言語の英訳に関しては、それにいっそう拍車がかかる。日本語の役割語とキャラクター言語が、その複雑でかつ自由度の高い人称体系や表記体系、多彩な文末表現等を駆使したものである以上、それらを「人称詞に強い制限があり、文末表現に乏し」く (山口 2007、p. 9)、しかもアルファベット表記限定である英語で表そうとするのは至難の技であると言わざるを得ない。

### 3 作品および分析対象の登場人物の説明

#### 3.1 『SPY×FAMILY』について

『SPY×FAMILY』は遠藤達哉による日本のマンガ作品である。集英社のマンガ雑誌アプリ／ウェブコミック配信サイトにおいて 2019 年 3 月より日本語版と英訳版が同時隔週連載されており<sup>4</sup>、2021 年 1 月現在、日本語版単行本が第 6 巻まで、英訳版単行本は第 3 巻までが発行されている<sup>5</sup>。本稿では、特に言及がない限りは、対照の可能な日本語版第 3 巻までと英訳版第 3 巻までを調査資料とする。

物語は、利害の一致した 3 人が互いに正体を隠しながら諜報活動のための擬似家族として暮らすというスパイアクション／ホームドラマ／シチュエーションコメディである。旧東西ドイツをモデルにしたと思しき冷戦状態の架空の二国“東国 (オスタニア)”と“西国 (ウェスタリア)”を舞台とし<sup>6</sup>、その街並み・服装・生活様式等は 1960 年代の欧州を意識したものになっている<sup>7</sup>。両国の地名はドイツ語を、人名は英語やロシア語を想起させるものが多いが、学校制度は英国風であり、作中の看板・新聞・書類上の表記は日本語版においても英語が用いられている。基本設定は以下の通りである。

---

<sup>3</sup>役割語とキャラクター言語の詳しい違いについては Kinsui and Yamakido (2015) および金水 (2016) を参照されたい。

<sup>4</sup>掲載アプリ／サイトは、日本語版が『少年ジャンプ+』 (<https://shonenjumpplus.com>)、英語版が『MANGA Plus by SHUEISHA』 (<https://mangaplus.shueisha.co.jp/updates>) である。

<sup>5</sup>日本語版：遠藤 (2019a、2019b、2020a、2020b、2020c、2020d)、英訳版：Endo (2020a、2020b、2020c)。

<sup>6</sup>東国・西国の地図の国境 (遠藤 2019a、p. 6) が旧東西ドイツのそれに酷似している。

<sup>7</sup>主人公<黄昏>が冒頭で読んでいる新聞の日付が November 23 1962 と読める (遠藤 2019a、p. 13)。

西国の敏腕諜報員である主人公・黄昏は、「東国の要人の子息が通う名門校に子どもを通わせ、子どもの親の立場で要人と継続的に接触し東国の不穏な動きを探る」という任務のため東国に潜入し“精神科医ロイド・フォージャー”として急遽家族を作る破目になる。孤児院で賢そうな女兒（アーニャ）を引き取り、独身であることを周囲から訝しまれ困っていた女性（ヨル）と偶然出会い偽装結婚した黄昏＝ロイド（以下「ロイド」もしくは「ロイド・フォージャー」に統一）は、実はアーニャがテレパスであることもヨルが殺し屋であることも知らぬまま、任務の遂行を目指す。ヨルは、ロイドとアーニャの正体もスパイ任務のことも知る由もなく、市役所勤務で医者妻という表向きを隠れ蓑に組織の指示による“売国奴”の暗殺に従事しつつ、良き妻・母であろうと努力する。両親の心を読んで全てを知っているアーニャは、テレパスであることを悟られないようにしながら、スパイ任務の遂行に協力しようとする。

### 3.2 アーニャの人物像の説明

アーニャは、東国の「とある組織の実験によって偶然生み出され」（遠藤 2019a, p. 24）たテレパスである。肉声が聞こえる程度の範囲にいる人の心の声を聞いたり動物の思念を読んだりできるが、自分の思念を視覚や聴覚によらずに相手に伝達する能力はない。組織の施設での訓練の日々を嫌って逃亡した末、孤児院で暮らす。年齢は不明。推定 4～5 歳だが、孤児院を訪れたロイドの心を読み、彼が 6 歳（就学年齢）以上の子を養子にするつもりだと知り、孤児院の劣悪な環境から逃れたかったアーニャは、6 歳と自称する。人の心を読んで正解を盗み見る（聞く）ことにより優秀さを装うことができるため、ロイドに賢いと判断され引き取られたが、実力では簡単な読み書きもおぼつかず、発話にも幼児的な不正構音や言い間違いが多い。テレビのスパイアニメのファンで、自己の希求する家庭的な生活の維持には任務の継続が不可欠であること、また任務の遂行が東西間ひいては世界の平和につながることを、幼いなりに理解している。

ロイドの任務である“要人との接触”の方法は 2 つしかなく、アーニャが名門校イーデンで優等生と認められ、要人親子の参加する優等生集団の懇親会に親子で参加するか、要人の子息と親しくなり親子で要人宅に招かれるかである。入学は果たしたものの、アーニャの学力では優等生になるのは至難の業であり、クラスメートである子息との相性も悪く、前途多難である。

## 4 アーニャの言葉遣いの特徴

本項では、アーニャの言葉遣いの特徴を二つに分けて分析する。一つは彼女の社会的な人物像をステレオタイプ的に表す「役割語」的特徴、もう一つは彼女独特のキャラクター



性を示す「キャラクター言語」的特徴である。例示する文は、別途記載のない限り、日本語版第1～3巻（遠藤 2019a、2019b、2020a）からの引用である。

#### 4.1 アーニャの言葉遣いに観察される役割語(<幼児語>)的特徴

アーニャは、その低身長とあどけない外見から、孤児院を訪れたロイドに「どう見ても4～5歳」（遠藤 2019a、p. 22）と推定される<sup>8</sup>。実年齢は不明であるが、彼女の言葉遣いには、役割語としての<幼児語>の特徴が顕著である。<幼児語>をマンガを中心に調査・分析した岡崎・南（2011）に倣い、本項ではアーニャの使用する<幼児語>の特徴を語彙・音声・文法・表記の観点から分類し考察を行なっていく。

##### 4.1.1 アーニャの<幼児語>の語彙上の特徴

岡崎・南（2011）はマンガ中の<幼児語>の語彙を「オノマトペがベースのもの（「ワンワン」「アーンする」等）」、「成人語彙の変化形（「寝る」→「ねんねする」等）」、「接頭辞・接尾辞の付加によるもの（「おくち」「ねこちゃん」等）」に分類している。アーニャの<幼児語>中では「オノマトペ」タイプと「接頭辞・接尾辞」タイプの例が観察されたため、本項ではこれら2タイプの文例を挙げていく。

###### ① オノマトペ由来のもの

アーニャの使用するオノマトペはほぼ全て、特に<幼児語>とは看做されないもの（ベーコンの食感描写「カリカリ」、期待で心が弾む「わくわく」、「イチャイチャする」等）であり、オノマトペを呼称として用いる<幼児語>的な使用例は、以下に示す(1)のみであった。なお、「」内の通常体の引用文はそれが発話であることを、斜体のものは思考であることを示す。引用文中のスペース追加（作品内での文中の改行箇所を示す）と下線は引用者によるものである。これ以降の引用文についても同様である。

(1) 「モジャモジャ せいかくが わるいひと？」（遠藤 2020a、p. 178）

---

<sup>8</sup>作画的にも、四頭身に大きな目と小さな鼻と口でアーニャの幼さが強調されている。また、のちの身長計測により孤児院滞在時の身長は99.5cm未満であったことが判明するが（遠藤 2019b、p. 33）、近年の日本の女児の平均では、100cmは4歳児または小柄な5歳児の身長に相当する（[https://www.fgs.or.jp/pdf/11\\_booklet/305\\_booklet.pdf](https://www.fgs.or.jp/pdf/11_booklet/305_booklet.pdf)）。

フォージャー家をしばしば訪れるロイドの同僚諜報員兼友人のフランキーを、アーニャは彼のまとまりの悪いカーリーヘアからつけた愛称である「モジャモジャ」と呼んでいる。(1)の発言はフランキーに対して二人称的に使用したものである。「モジャモジャ」というオノマトペ自体は特に幼児らしさを感じさせるものではないが、愛称として用いている点が「犬の鳴き声『ワンワン』で犬を指す」に類する幼児性を感じさせる。

② 接頭辞・接尾辞を付加したもの

岡崎・南 (2011) は、「『お+体の一部』『動物・無生物+ちゃん』『職業+さん』等と、大人のことばにおいては付加する必要がないと考えられる対象にまで」(ibid., p. 199) 接辞を用いる点を<幼児語>の特徴としている。実際の幼児の言葉とも共通するこれらの接辞は、「表現のやわらかさ・あどけなさ、対象に対する愛着等を表している」(ibid.) とし、また「マンガにおける『幼児語』では、さらに過剰に使用することで、より強く幼児らしさを示している」(ibid.) と推察している。

● 接頭辞の付加

無生物・動物・体の一部に接頭辞「お」が付加されている。

- (2) a. 「おしろで たすけられ ごっこ！」 (遠藤 2019a, p. 23)  
 b. 「みんな おうち かえった」 (ibid., p. 179)  
 c. 「おさかな一つ」 (遠藤 2019b, p. 176)  
 d. 「ふみだすちからと こしのひねりを おててにつたえて  
 そんでおてては なーとなーと…」 (遠藤 2020a, p. 109)

● 接尾辞の付加

職業・動物に接尾辞「さん」が付加されている。

- (3) a. 「ちち一つ ゆうびんやさん きたー」 (遠藤 2019a, p. 69)  
 b. 「…うしさん こわがってる…？」 (ibid., p. 177)  
 c. 「アーニャ ぱんださん<sup>9</sup> のりたい」 (遠藤 2019b, p. 158)  
 d. 「……ペンぎんさんの こころよむの むずかしい…」 (遠藤 2019b, p. 180)  
 e. 「…アーニャ かわいい いぬさんが ほしい…」 (遠藤 2020a, p. 155)

<sup>9</sup>デパート屋上のパンダ型の乗り物を指しているもので、実際は無生物である。

- 接頭辞と接尾辞の付加

無生物に接頭辞「お」と接尾辞「さま」が付加されている。

(4) 「アーニャ おほしさま<sup>10</sup> いっぱいって ちちのにんむ おてつだい！」

(遠藤 2020a, p. 93)

(2) a のごっこ遊び、(3) c のデパート屋上の乗り物などに見られるように、幼児らしい文脈で使用されており、岡崎・南 (2011) の指摘通り、話者であるアーニャのあどけなさや対象への愛着が表されている。

#### 4.1.2 アーニャの<幼児語>の音声上の特徴

岡崎・南 (2011) は、マンガ中の<幼児語>の音声上の特徴を、原因別に「省略」（「イヌ (inu)」→「イウ (iu)」等）、「置換」（「オサラ」→「オチャラ」等）、「付加・倒置」（「イラナイ」→「イランナイ」、「テレビ」→「テベリ」等）の3種に分け、例を挙げている (pp. 196-197)。アーニャの<幼児語>中には「省略」、「置換」およびその混合例が観察された。本項ではタイプ別にその文例を挙げていく。

##### ① 省略

「いってきます」「だいじょうぶ」「もういっかい」等、主に語中の促音や長音が省略される例が観察された。

(5) a. 「いってきます」

(遠藤 2019b, p. 89)

b. 「だいじょうぶな きがする…」

(ibid., p. 96)

c. 「もっかい のる！」

(ibid., p. 158)

##### ② 置換

「フォージャー」→「ホージャー」、「びじゅつかん」→「びずつかん」、「おでかけ」→「おでけけ」のように、構音点が近い子音同士または母音同士の置換が起こることが多い。

---

<sup>10</sup>この「おほしさま」は、夜空の星ではなく、イーデン校で優等生候補に与えられる星形のバッジを指す。

- (6) a. 「アーニャ・ホージャー です」 (遠藤 2019a, p. 69、ibid., p.193)  
 b. 「びずつかんいったり おぺらたべたり…」 (ibid., p. 193)  
 c. 「アーニャこのまま おでけけしたい」 (遠藤 2019b 47)

なお、(6) b は、入試面接の際に「美術館に行ったり、オペラを見たり、レストランで食べたり」と言うつもりが、緊張のため言い間違えたものである。

### ③ 省略+置換

一つの文中に省略と置換の両方（または混合例）が観察されるものもある。以下にそれらの例を挙げ、[→ ] 内に本来の構音による表記を示す。

- (7) a. 「アーニャんちへ いらさいませ」 (遠藤 2019a, p. 129)  
 [→ アーニャのうちへ いらっしゃいませ]  
 b. 「べねじくそ・あばん・ぐっどへらー さん」 (ibid., p. 194)  
 [→ ベネディクト・アイヴァン・グッドフェラー さん]  
 c. 「いてらさい」 (遠藤 2019b, p. 39、p. 163)  
 [→ いってらっしゃい]  
 d. 「しゅじゅちゅしつ いてくる」 (遠藤 2020a, p. 125)  
 [→ しゅじゅっしつ いってくる]  
 e. 「うい」 (遠藤 2019a, p. 91 他多数)  
 [→ はい]

(7) e に関し、アーニャは「はい」と返事すべきところで「うい」と言う。作中には特にフランス語の素養があるという描写はないので、フランス語の *oui* ではなく、「はい」の子音 /h/ の省略と母音置換 /ai/ → /ui/ の混合例であろう。また、促音や長音の脱落や拗音の置換（「しゃ」→「さ」等）は規則的に必ず生じるものではなく、(6) b 「いったり」の促音、(6) a 「ホージャー」の長音・拗長音のように本来の発音ができている場合もあるので、特定の語中もしくは緊張が原因で起こるものと考えられる。

#### 4.1.3 アーニャの<幼児語>の文法上の特徴

岡崎・南 (2011) は、マンガ中の<幼児語>の文法上の特徴として、助詞の脱落を取り上げている。現実の成人の話し言葉においても助詞の脱落は頻発するが、マンガの台詞

は話し言葉ではあるが書かれたものなので助詞は脱落しないのが無標であるとした上で、小学生以上の児童の台詞と比較しても幼児の台詞は助詞の脱落が多いことを指摘し、幼児らしさの表現のためであると考察している（岡崎・南 2011）。アーニヤの台詞においても助詞の脱落は多数観察される。本項ではその主な文例を挙げていく。引用文中の\_（下線＋スペース）の部分は、助詞の脱落部分を示すため引用者が付加したものである。

- (8) a. 「アーニヤ\_これ\_すき」 (遠藤 2019a, p. 26)  
b. 「アーニヤ\_ベンキョーしなくても てすと\_できるもん！」 (ibid., p. 33)  
c. 「ああ～～ アーニヤ\_ はは\_いなくて さみしい～～」 (ibid., p. 97)  
d. 「れすとらん\_ ゆうかいはん\_ いない？」 (遠藤 2019b, p. 37)  
e. 「はは\_うそつき えがお\_ やくにたたない」 (ibid., p. 75)  
f. 「アーニヤ\_ まもって くれた...? おまえ\_ いいやつ？」  
(遠藤 2020a, p. 107)

(8) e の「やくにたたない」の格助詞「に」は脱落していないように、全ての助詞が脱落するわけではない。読者の意味理解を妨げない範囲で幼児らしさを強調するために多用されていると推察される。

#### 4.1.4 アーニヤの<幼児語>の表記上の特徴

岡崎・南 (2011) は、マンガ中の<幼児語>の表記上の工夫を以下の通りに二分している。一つは、「ほとんどの台詞がひらがなまたはカタカナで表記され、漢字の使用は比較的簡単なものに限られること」で、「就学前の『幼さ』」を表す、としている (ibid., p. 207)。もう一つは、「ふきだし・コマの分割による発話速度の遅さ、『...』による言い淀み、および『きのうー、ほいくえんでー、...』のような『ー』の付加による文節語尾の長音化」であり、「幼児の『片言らしさ』」を表す、としている (ibid.)。本項では、これらの特徴がアーニヤの台詞の表記に当てはまるかどうかを検証していく。

##### ① ひらがな・カタカナ・漢字の使用状況

準主人公的ポジションであるアーニヤの台詞は、発話・思考ともに量が多く、通常漢字で書かれるべき漢語系語彙やカタカナ表記が標準の外来語も頻出する。しかしそれらは、「こじいん」、「にんむ」、「すばい」、「ふれっしゃー」等、ほとんど全てがひらがなで書かれている。この手法は日本語のマンガ作品やその他のフィクションの書き

言葉において話し手が意味を理解していない、または「用字を知らない」ことを表し、幼児の発話に多く用いられる（金水 2018a、p.83、イーヴァソン 2019）。アーニャの台詞中、例外的に漢字あるいはカタカナで表記されているものは、第1～3巻中15例のみであった（表1参照）。

(表1) アーニャの台詞中のカタカナ・漢字表記一覧

	作中表記	説明
1	アーニャ (遠藤 2019a、2019a、2020a)	自称詞
2	アーニャ・ホージャ (遠藤 2019a、p. 69)	本人の氏名 (正しい姓は「フオージャー」)
3	アメちゃん (ibid.、p. 153)	飴をくれた老婦人の言葉を復唱したもの
4	イチャイチャ (ibid.、p. 152) (遠藤 2019b、p. 149)	
5	鬼ごっこ (遠藤 2019a、p. 62)	
6	カリカリ (ibid.、p. 29)	ベーコンの食感描写
7	子 (ibid.、p. 90)	
8	ダメ (遠藤 2020a、p. 66、190)	
9	テレビ (遠藤 2019a、p. 26)	
10	バーリント (ibid.、p. 193)	東国の首都（フオージャー家の住所の一部としての台詞）
11	バレたら (ibid.、p. 40)	
12	ボス (ibid.、p. 194) (遠藤 2019b、p. 66)	
13	ボンドマン (ibid.、p. 147)	スパイアニメの主人公の名
14	モジャモジャ (遠藤 2019a、p. 90) (遠藤 2020a、p. 174、178)	父・ロイドの同僚兼友人であるフランキーの愛称
15	ロイドマン (遠藤 2019b、p. 24)	スパイごっこ遊び中の父・ロイドの役名 「ロイドマン」への呼びかけ

(五十音順)

上記 15 例中、漢字の使用例は 5・7（「鬼ごっこ」・「子」）のみである。これらが現れるのは第 1～3 巻に収録の全 19 話<sup>11</sup>中の最初の 2 話に限られ、その後は漢字の使用例が観察されていないため、「アーニャの台詞の表記には漢字を使用しない」という基本方針が連載初期には徹底されていなかった可能性が強い。

カタカナ表記 13 例の内訳は、欧風の人名・地名（1・2・10・13・15）が 5 例、オノマトペ由来の語もしくはカタカナ表記が慣用化した俗語的な表現（3・4・6・8・11・14）が 6 例であり、通常の外来語でカタカナ表記が使用されているのは 9・12（「テレビ」・「ボス」）の 2 例のみである。そのうち、「テレビ」は第 1 話中に一度使用されたきりだが、「ボス」は第 5 話と第 8 話の二度にわたって使用されている。作中ではそれぞれ「そしきのボス」・「あくのボス」となっており、格助詞「の」に続いている。ひらがな表記の「そしきのぼす」・「あくのぼす」にした場合、一目で「ぼす＝ボス」であると分かりづらくなるため、あえてカタカナで「ボス」と表記されているのではないかと推察される。

そのほか、例外として、欧風の固有名詞であるにもかかわらずひらがな書きされているものも 2 例観察された。

- (9) a. 「いでんのせいと きけんが**い**っぱいって わかった」 (遠藤 2019b, p. 55)  
b. 「きゃさりんを しあわせに してやれ…」 (遠藤 2020a, p. 191)

(9) a は名門校イーデンへの入学前に制服を試着して出かけた際に追い剥ぎに遭いそうになった時の台詞、(9) b の「きゃさりん」は、アーニャがレストランで遭遇した元テロリストの心を読んで知った、彼の同棲相手キャサリンを指す。表 1 の例から推測される「欧風の固有名詞はカタカナ表記」の原則からは外れるが、カタカナ表記のひらがな化は話者の意味不理解を示唆する効果があるため、固有名詞でもアーニャにとって馴染みの薄いものはひらがなで表記されていると推測される。

以上から、アーニャの台詞表記の原則は、「漢字不使用」と「カタカナの限定的使用」にまとめられ、岡崎・南（2011）の指摘するマンガ中の<幼児語>のひらがな・カタカナ・漢字の使用状況にほぼ合致していると言える。

---

<sup>11</sup>MISSION 1～17 および EXTRA MISSION 1・2。

## ② ふきだし・コマの分割と「…」・「一」の付加

一つの台詞を複数のコマに分割する例は見られなかったが、以下の2種の分割はそれぞれ複数例観察された（引用文中、分割箇所を斜線「/」で示す）。

- 同一コマ内の背景に一つの台詞（思考）を人物の左右に分けて書く

(10) 「そしたら アーニャ / まんてん まちがいなし...！」（遠藤 2020a, p. 118）

- 複数のふきだしに一つの台詞（発話）を分けて書く

(11) 「ちちとはは / なかよくしないとダメ」 （遠藤 2020a, p. 66）

(12) a のような「…」の付加による言い淀みは多数観察されたが、「一」の付加による語尾の長音化は、文節ごとにはではなく、呼びかけの語末や文末に付加されたもの（(12) b 参照）が多かった。

(12) a. 「…アーニャ かわいい いぬさんが ほしい…」 （遠藤 2020a, p. 155）

b. 「ちちっ ゆうびんやさん きたっ」 （遠藤 2019a, p. 69）

## 4.2 アーニャの言葉遣いに観察されるキャラクター言語的特徴

4.1 中の引用文(1)～(12)にも散見されるが、一般的な<幼児語>の範疇に収まりきらないアーニャの言葉遣いの「キャラクター言語」的な特徴は、以下の五点に集約される。

- <幼児語>の過剰使用（接頭・接尾辞の付加、不正構音、助詞の脱落、ひらがな表記）
- 自称詞「アーニャ」の使用
- 「です・ます形」の誤用
- 書き言葉的表現の多用
- <男ことば>的要素の使用

これらの点につき、4.2.1～4.2.5 で例示・分析する。

### 4.2.1 <幼児語>の過剰使用

4.1 で検証した通り、アーニャの言葉遣いには、接頭辞「お」・接尾辞「さん」・「さま」の付加、不正構音、助詞の脱落、漢字の不使用・カタカナの限定的使用といった<幼



児語>の特徴が顕著である。マンガにおいては幼児らしさの強調のため<幼児語>が過剰に使用されがちであることは岡崎・南（2011）により指摘されているが、アーニャの言葉遣いも例外ではない。級友の台詞の特徴と対比してみると、彼女の<幼児語>使用の過剰性がより明らかになる。アーニャは私立の名門校イーデンへの補欠入学をやっとのことで果たし小学1年生になるが、級友らは厳しい入試と面接を突破した上流家庭の優秀な子女ばかりであり、その言葉遣いには幼児らしい特徴は見られない。また、<幼児語>には性差の反映が少ないものであるが（金水 2014）、級友らの話し言葉には性差が如実に現れている。比較の対象となる最初の例は、アーニャと入学初日から敵対するダミアン・デズモンド（任務の標的である要人の次男）の台詞である。<男ことば>的要素とカタカナには筆者がより下線を施してある。

- (13) a. 「おまえん トコは？ 親は何の仕事\_\_してんだ？  
 レベルによっちゃ おまえを友達に 加えてやっても いいぞ？」  
 (遠藤 2019b、p. 71)
- b. 「オレに 逆らう者など 誰一人として いなかった」 (ibid.、p. 97)
- c. 「兄貴にさえ ぶたれたこと なかったのに…」 (ibid.)
- d. 「初めて味わわされたぜ」 (ibid.)

ダミアンの台詞には、発話にも思考にも幼児的な不正構音はなく、助詞の脱落は多少あるが、話し言葉としては通常の範囲内である。自称詞「オレ」、二人称代名詞「おまえ」、「兄貴」や、終助詞「ぞ」・「ぜ」等、粋がった感じや指揮権の強さを表すタイプの<男ことば>（金水 2014）の要素で構成されている。表記も通常の漢字・仮名混交文であり、(13) a の「トコ」と(13) b の「オレ」のような限られたカタカナ表記も、軽さやぐだけた感じを出すためのものであると思われる。

次は、アーニャの友人となる大富豪の令嬢、ベッキー・ブラックベルのアーニャに対する発話と思考の例である。<女ことば>的要素とカタカナには筆者が下線を施してある。

- (14) a. 「あたしベッキー あなたは？」 (遠藤 2019b、p. 67)
- b. 「ガキっぽい子 世話役ぐらいには してあげても いいかしらね」 (ibid.)
- c. 「まあ!!」 (ibid.)
- d. 「あなた 情けないわね 少しは言い返し なさいよ」 (ibid.、p. 73)
- e. 「あなた 意外とオトナなのね！」 (ibid.、p. 74)

- f. 「人間ってアサハカよね ヒョーメン的な 情報でしか  
物を見れない っていうか」 (ibid., p. 95)
- g. 「でも大丈夫！ あたしは アーニャちゃんの 味方だから！」 (ibid.)

ベッキーの台詞についても、発話・思考ともに語彙・音声・文法面で幼児的な点は特に見出せない。女性性の強い自称詞「あたし」や終助詞「わ」を用い、感動詞「まあ」、終助詞「かしら」等、<お嬢様ことば>の特徴も見られる。特に「まあ」は、話者が「子供であれば、ませた性格や家が裕福であることを表す」ものであり（金水 2014, p. 176）、ベッキーの属性に合致している。アーニャに対する二人称としては「あなた」・「あんた」・「アーニャちゃん」を用い、やはり女性的な印象を与える。表記面では、俗語やくだけた感じの「ガキ」・「オトナ」のほか、「浅はか」・「表面」のような大人びた語彙がカタカナで表記されている。これらの語は自信ありげな様子で正しく使用されているので、「その表現の意味を理解しないまま」（金水 2018a, p.83）というより、「用字を知らない」（ibid.）ことを示唆するものと思われる。ひらがな表記が標準となっている<幼児語>に比べると、カタカナ表記は学童以上の話者の台詞に使用される印象が強い。

ダミアンとベッキーは重要なサブキャラクターであり台詞も多いが、登場回数の少ない級友や他のクラスの1年生も皆大人びた言葉遣いである。彼らに比較して、アーニャは4.1で検証したような過剰なまでの<幼児語>を話し、その幼児性はクラスメートとの対比によりさらに強調されている。これは、6〜7歳の大人びた子供たちに対して推定実年齢4〜5歳のアーニャの特異性や疎外感の表現として効果的であると言える。

#### 4.2.2 自称詞「アーニャ」の使用

4.1の例文の多くが示す通り、アーニャの自称詞は「アーニャ」である。第1〜3巻中観察される唯一の例外は、サングラス等で変装したアーニャが母・ヨルの命を狙う元テロリストを撃退した際に発する捨てゼリフである。

- (15) 「これにこりたら にどとアーニ...わたしたちに ちかづいてはダメ」  
(遠藤 2020a, p. 190)

「アーニャたち」と言いかけて、正体を知られないよう名前を出すべきではないと気づき、「わたしたち」と言い直しているため、アーニャの本来の自称詞ではないことは明白である。

自称詞としての名前や愛称（「みか」・「たっくん」等）の使用は話者の幼さを印象づけるものであるが、岡崎・南（2011）のマンガにおける<幼児語>の分類には含まれていない。しかし、実際の幼児の発話には高頻度で観察される特徴である。

長野市およびその近郊の保育園・幼稚園の園児（0～6歳）1576人の年齢別・性別の自称詞使用状況を調査した守（2015）によれば、幼児が園内で用いる自称詞としては名前・愛称がまず観察され（2歳児で84%が名前・愛称を使用）、一人称代名詞の使用が観察され始めるのは3歳以降である。年長（5～6歳）になると、男児では「名前・愛称」32%、「ぼく」30%、「おれ」35%、と代名詞派が3分の2を占めるが、女児では逆であり、「名前・愛称」は63%と依然高く、代名詞派は「わたし」35%、「うち」1%にとどまっている<sup>12</sup>。その理由として、守（2015）は、男児は「おれ」と「ぼく」の使い分けで男性性の誇示・仲間意識の強化・従順さの表出等の印象操作が可能であるが、女児の人称代名詞はほぼ「わたし」一択であり、「わたし」はそのフォーマリティの高さゆえに敬遠され、そのため、未熟なかわいさを演出できる、慣れ親しんだ「名前・愛称の使用」からの移行が遅れるのではないかと考察している。

4.2.1 で示した通り、アーニャのクラスメートのダミアンの自称詞は「オレ」、ベッキーは「あたし」である。傲慢不遜な性格のダミアンは、それにふさわしい「オレ様」を用いる場合もある。

(16) 「このオレ様がこんな 庶民の女に…」

(遠藤 2019b, p. 108)

他のクラスの1年生たちも「ボク」のような通常の一人名代名詞を使用している<sup>13</sup>。6～7歳の、しかも名門校の入試を突破したような子どもたちであれば、自称詞が早々に「名前・愛称」から一人称代名詞に移行していることは想像に難くない。守（2015）の調査結果から見ると、女児の場合は5～6歳でも自称詞としての「名前・愛称」の使用が6割以上なので、推定実年齢4～5歳の女児であるアーニャが名前を自称詞とすること自体は奇異なことではない。しかし4.2.1と同様に、自称詞の点でも、大人びた学友たちとの対比によりアーニャの幼さがことさら際立つのである。

#### 4.2.3 「です・ます形」の誤用

---

<sup>12</sup>守（2015）の調査中の使用が観察された一人称代名詞は「わたし・ぼく・うち・おれ・おら」であり、どの年齢層にも「あたし」が含まれていない。

<sup>13</sup>学友のビル・ワトキンス（6歳）は自称詞「ボク」を用いる（遠藤 2020a, p. 98）。

4.1 の例文(1)～(12)に見られる通り、アーニャの発話の大多数が常体の短文であり、不正構音や助詞の脱落も多い。だが、入試面接のリハーサルや一家の暮らしぶりを語る隣人への弁明の際には、理路整然とした敬体の長文の台詞を淀みなく喋れる場合もある。

(17) a. 「ちちにるすばんを めいじられるので ひとりさみしく てれびをみえています」

(遠藤 2019a、p. 134)

b. 「あそびにつれてってくれるちちも ちちにやさしい ははも

とってもいいひとです！ アーニャんちは とっても

ふつうだとおもいます！」

(遠藤 2019b、p. 172)

しかし、緊張時などに敬体で喋ろうとすると「です・ます形」に誤用が目立つ。

(18) a. 「だいじょうぶます がんばるます」

(遠藤 2019a、p. 157)

b. 「こまってるひとがいるます！ たすけます！」

(ibid.、p. 169)

c. 「はんかち あげるます」

(ibid.、p. 170)

d. 「おはやいます」

(遠藤 2020a、p. 57)

(18) a については、「だいじょうぶ」の後は「です」であるべきところを、「ます」で代用している。また「がんばるます」は、「がんばります」の母音の置換 (ri → ru) である可能性もあるが、(18) b、(18) c の「いるます」、「あげるます」と同様に、「ます」の前が連用形となるべきところを終止形で代用しているとも考えられる。同じ台詞内でも (18) b の「いるます」に続く「たすけます」では連用形が正しく使用できているので、誤用が起りやすい動詞とそうでないものがあるように見受けられる。また、(18) d の「おはやいます」は、「おはようございます」の「ござい」が省略され、連用形ウ音便の「おはよう」が終止形「おはやい」に置き換わったものようである。これは寝起きに眠い目をこすりながらの発話であるが、第4巻 (遠藤 2020b、p. 143) では朝の教室内で「おはよう アーニャちゃん」と挨拶するベッキーに対して普通に「おはやいます」と返しているため、この言い間違いは緊張や寝ぼけが原因ではなく、過去の言い間違いが化石化して定着してしまったものであろう<sup>14</sup>。

<幼児語>においては敬体の使用自体が限られており、岡崎・南 (2011) の挙げる使用例でも「～でしゅ」「～まちた」「～まちえん」等、サ行音「す・し・せ」の音声置換で幼

<sup>14</sup>第4巻には「あざぎます」 (= 「ありがとうございます」) の例があり (遠藤 2020b、p. 83、132)、アーニャは語末が「ございます」の挨拶が苦手のようなのである。

児の片言らしさを表すもののみである。(18)の各例のような個性的な「です・ます形」の誤用は、アーニャの幼さに独特なキャラクター性を加味するものである。

#### 4.2.4 書き言葉的表現の多用

4.2.1～4.2.3 の特徴は総じて幼児らしさを効果的に強調するものであったが、それに相反する「幼児らしからぬ書き言葉的表現の多用」も、アーニャの独特のキャラクターを印象付ける特徴の一つである。アーニャの用いる書き言葉的表現は、「高難度な漢語系語彙の多用」と「固有名詞代わりの属性呼称の使用」に二分される。

##### ① 高難度な漢語系語彙の多用

アーニャは、幼児はもとより小学生でもあまり使わないような難しい漢語系語彙を比較的頻繁に用いる。

- (19) a. 「はは そんざいしない」 (遠藤 2019a, p. 69、71)  
b. 「ちちー！ アーニャのながさ はんめいしたー！」 (ibid., p. 96)  
c. 「ざんだんすう はちぶんのに」 (遠藤 2019b, p. 147)  
d. 「ちちー ははー アーニャ きかんしたー！」 (遠藤 2020a, p. 87)

(19) a は、母となるヨルと出会う前の、父ロイドとの父子家庭であった時期の台詞である。(19) b は身長計測直後の台詞であり、身長を「ながさ」と言うのは幼児らしいが、「判明」の使い方は正しい。(19) c は、「残弾数 8 分の 2」の意である。視聴中のスパイアニメの主人公の装弾数 8 発の銃の弾丸が残り 2 発になった時にアーニャがすかさず発した台詞で、分数の授業は苦手だが、アニメに例えると理解が早いことを描写するものである。(19) d は学校から帰宅した際の「帰還したー」であり、普通なら「ただいまー」と言うべきところである。語彙としては、(19)の例文にある「そんざい」「はんめい」「ざんだんすう」「きかん」のほかにも、「にんむ」「かくせんそう」「そしき」といった、スパイアニメを見たりロイドの心を読んだりして覚えたと思われる語彙が多いのも特徴である。このように、意味を理解して正しい文脈で使用しながらも、表記は幼児性を強調するひらがなであり、そのギャップが可笑しみを誘う。ベッキーも同様な高難度の語を使う場合があるが、4.2.1 で見た通り、ベッキーのそれは(14) f の「ヒーメン」のようにカタカナ表記であり、スパイ関連の語彙というわけでもない。「耳で覚えた大人びた語彙を使うませた子ども」の域を出ないベッキーに比べ、アーニャは「なぜか高難度な漢語系語彙を言葉の端々に挟んでくる奇妙な幼児」という印象を読者に抱かせるのではないだろうか。

## ② 固有名詞代わりの属性呼称の使用

アーニャの言葉遣いのもう一つの書き言葉的特徴は、固有名詞の代わりに親族呼称や動物の属名を用いることである。「お父さん」や「ママ」のような語であれば、呼びかけにも二人称・三人称にも用いることはごく普通だが、アーニャは(19) a、(19) b、(19) dのように「ちち」・「はは」という語を用いている点が異色である。(20)は、ロイドがアーニャを引き取り、書類上も世間的にも彼の実子ということにして暮らし始めた際の二人の会話である。

(20) 「オレのことは お父さまと 呼ぶように 上流らしく<sup>15</sup>」

「ちち！」

「よし」

(遠藤 2019a、p. 25)

「お父さま」と呼ぶよう指示されたにもかかわらず、アーニャは「ちち」と呼び替え、ロイドもそれを上流らしいと判断してか、容認している。母親についても、アーニャは当然のように「ちち」に呼応する呼称「はは」を使うようになる。「父」・「母」は敬意や愛着の接頭・接尾辞を含まない親族呼称であり、小学校高学年以上の話者が自分の父母のことを三人称として謙譲的に用いるのが一般的であろう。それを「幼児が」「呼びかけとして」使うのはかなり奇異な印象を与える。

「ちち」・「はは」のほかに、アーニャは母・ヨルの弟・ユーリのことも接尾辞なしの親族呼称「おじ」で呼んでいる<sup>16</sup>。

(21) 「アーニャも おじ おでむかえ」

(遠藤 2019b、p. 150)

これも、「おじさん」、「おじちゃん」等であれば普通であるが、幼児が自分の叔父を「おじ」と称するのは違和感がある。

---

<sup>15</sup> 「上流らしく」の部分のみ、ふきだし内の手書き文字による補足的な台詞である。

<sup>16</sup> (21)の例は三人称だが、第5巻では二人称としても用いている(遠藤 2020c、p. 75)。

アーニャはまた、自分の親族だけでなく、要人の次男であるクラスメートのダミアンに対しても、「じなん」を用いる<sup>17</sup>。

(22) 「アーニャじなんに あやまらないと！」 (遠藤 2019b, p. 99)

これは、入学式で初めてダミアンを見たときに同席していた父・ロイドの心の声「標的ドノバン・デズモンドの次男・ダミアン」(遠藤 2019b, p. 64)を聞き、ダミアンを「じなん」として認識して以来、名前である「ダミアン」に移行することなくそのまま呼称として使っているものである。

4.1.1 (3) b～(3) e の例の通り、アーニャは、動物に対しては「うしさん」・「いぬさん」のように「属名+さん」を呼称として用いる。フォージャー家では第4巻でアーニャの希望で犬を飼い始めるが、その犬に愛着があるにもかかわらずアーニャには名前をつけるという概念がなく、「いぬさん」と呼び続けていた。その後、ダミアンに犬の名前を問われ、「いぬ」と答えたところ不興を買ったため、好きなスパイアニメの主人公「ボンドマン」にちなんで「ボンド」と名付けるに至った、という経緯がある。アーニャが固有名詞または愛称で呼ぶ他者は、友人のベッキー<sup>18</sup>、飼い犬のボンド、父の友人フランキー(呼称はアーニャ考案の愛称「モジャモジャ」)のほかは、アニメの主人公のボンドマンぐらいである<sup>19</sup>。「ちち」・「はは」・「おじ」・「じなん」を使い続けているのも「名前で呼ぶ」という概念がなく、誰かに要請・指摘されない限りは固有名詞を使う必要性を感じていないものと推察される。また、動物の属名には接尾辞「さん」をつける一方で親族呼称にはつけないのは矛盾するようであるが、前者は幼児性の強調、後者は独特なキャラクター性の演出のためではないだろうか。

#### 4.2.5 <男ことば>的要素の使用

アーニャのキャラクター言語の最後の特徴は、女兒であるアーニャの属性をステレオタイプ的に表すのにそぐわない<男ことば>的要素である。<男ことば>の語彙の代表的なもの

---

<sup>17</sup>(22)の例は三人称だが、第5巻では呼びかけとしても用いている(遠藤 2020c, p. 48)。

<sup>18</sup>アーニャはベッキーのことも当初は「おまえ」と呼んでいたが、本人からの「おまえじゃなくてベッキーって呼んでよ！」(遠藤 2019b, p. 95)という再三の要請により「ベッキー」と呼ぶようになった。

<sup>19</sup>お気に入りのぬいぐるみでさえ、「きめらさん」(遠藤 2020c, p. 46)、「ぺんぎんさん」(遠藤 2020c, p. 190)という「属名+さん」の呼称を用いる(「キメラ」はギリシア神話に登場するライオン・ヤギ・ヘビを組み合わせた怪物の名である)。

は自称詞「ぼく」・「おれ」、終助詞「ぞ」・「ぜ」、感動詞「おい」、命令形全般であるが(金水 2014)、本項では、アーニャ用いる<男ことば>的要素として、①「おれ」に対応する二人称「おまえ」の使用、および②命令形の多用について例示・分析する。

#### ① 二人称「おまえ」の使用

二人称代名詞「おまえ」は、代表的な<男ことば>である一人称代名詞「おれ」に対応するものであり、<男ことば>的表現の一つである。(23)の3例は、アーニャによる「おまえ」の使用例の抜粋である。[→ ]内の名前は「おまえ」と呼ばれた相手を示す。

(23) a. 「アーニャおまえんち あそびにいきたい」 [→ ダミアン]

(遠藤 2019b, p. 72)

b. 「おまえ あたま いいひと...?」 [→ ベッキー] (ibid., p. 95)

c. 「おまえは きれいさっぱり わるものをやめて

きゃさりんを しあわせにしてやれ...

[→ 母・ヨルの命を狙う元テロリスト]

(遠藤 2020a, p. 191)

また、第4巻でのちに飼い犬となるボンドに出会った際にも、二人称として「いぬさん」と「おまえ」を交互に使っている(遠藤 2020b)。しかし、父、母、叔父、フランキー(=「モジャモジャ」)を「おまえ」と呼ぶことはなく、ベッキーの呼称も親しくなっただけからは「おまえ」から「ベッキー」に移行している。以上のことから、アーニャが二人称「おまえ」を使うのは、自分と同等かそれより下と見做す相手および/または敵対する相手に対してであると考えられる。

#### ② 命令形の多用

命令形は<男ことば>的表現の一つであり、<女ことば>においては通常は「て形」を用いた依頼形で代用されることが多い(金水 2017)。しかし、アーニャの台詞には命令形が多数観察される。(24)の4例はアーニャの命令形の使用例の抜粋である。[→ ]内の名前は命令形が向けられた相手を示す。

(24) a. 「ぴーなつ かいこんどけ」 [→ 父・ロイド] (遠藤 2019a, p. 100)

b. 「とりあえず このなわ ほどけ」 [→ 父・ロイド] (遠藤 2020a, p. 123)

c. 「“すたーらいと アーニャ”とよべ」 [→ ベッキー] (ibid., p. 145)



d. 「きゃさりんを しあわせに してやれ...」

[→ 母・ヨルの命を狙う元テロリスト]

(ibid., p. 191)

自分と同等以下または敵対する相手に向けられていた「おまえ」と異なり、命令形はアーニャが敬愛する父・ロイドにも向けられている。しかし、母・ヨルに対しては命令形は使わず、「～ほしい」「～したい」のような自己の欲求として伝えるか、(25) a のような「て形」の依頼形を用いる。「のむな」のような否定命令形も避け、(25) b のように「親しい相手に禁止の意を伝える語」(Ordbok 2021) としての「だめ」を用いる。

(25) a. 「ははアーニャに とっくんして」 [→ 母・ヨル] (遠藤 2019b, p. 55)

b. 「ははのんでは だめえ---!!」 [→ 母・ヨル] (遠藤 2020a, p. 184)

(25) a は、アーニャが追い剥ぎに遭いそうになった際に（凄腕の殺し屋ならではの）高い戦闘能力を発揮して自分を守ってくれた母に対し、護身術の特訓を乞う場面での台詞、(25) b は、命を狙われている母が、毒入りと知らずにカクテルを飲もうとしたときの台詞である。

アーニャは父を有能でカッコいい、母を強く優しいと評価し<sup>20</sup>、彼らを愛しているが、二人に対する命令形の使用状況は異なっている。その理由は、「殺し屋としての母の殺傷能力の高さを知っているアーニャが母を畏怖しているから」とも考えられるが<sup>21</sup>、父母の口調を反映してのことではないかと推察される。ロイドは、普段は没個性的な標準語を話し、場面・状況に応じて様々な口調を使い分けるものの、心の声では、またフランキーやアーニャのような同等かそれ以下の親しい相手には、一人称は「オレ」を用い、常体で話し、「行ってこい」・「寝ろ」のような命令形も多用する。現代の男性主人公としては、乱暴過ぎず丁寧過ぎない普通の言葉遣いである。しかしヨルは、感覚や言動が一般とは少しズレた、いわゆる「天然」な性格で、誰との会話でも、心の声でさえも、常に敬語表現を駆使した超丁寧語である。夫と娘のことも、常に「ロイドさん」、「アーニャさん」と呼ぶ<sup>22</sup>。ロイドも偽装結婚の相手であるヨルには遠慮があるらしく、彼女を「ヨルさん」と呼び、「です・ます形」で話しかけ、命令形を使うこともない。父母に対するア

<sup>20</sup>第4巻（遠藤 2020b, p. 173）参照。

<sup>21</sup>アーニャが飼い犬のボンドに向かって「ははを おこらせたら ころされるから きをつける」と言う台詞がある（遠藤 2021, p.8）。

<sup>22</sup>ヨルは飼い犬のボンドのことも常に「ボンドさん」と呼ぶ（遠藤 2021）。

アーニャの言葉遣いも、おそらくはそれに対応しているのであろう。アーニャが意識しているかどうかは不明だが、彼女の心の中では以下のようなロジックが働いているのではないだろうか。

- 父は自分に対しては命令形を多用する。  
→ 自分も父に対しては命令形を用いる。
- 母は自分に（というか誰に対しても）常に丁寧語で話しかけてくる。  
父も母に対しては丁寧語で話しかけ、命令形は使わない。  
→ 母に対して自分が命令形を使うのは不適切だと感じ、より丁寧な表現を用いる。

#### 4.3 アーニャの言葉遣いのまとめ

4.1 で例示・分析した通り、「幼女」というアーニャの一般的な人物像は、以下の役割語的特徴によりステレオタイプ的に表現されている。

- 幼児性に結びつくオノマトペ系語彙の使用
- あどけなさ・対象への愛着を感じさせる接頭・接尾辞の多用
- 片言らしさを表す不正構音、助詞の脱落
- 未就学児らしさを演出するほぼ総ひらがなによる表記

これらの特徴から導き出されるのは、アーニャの表向きの身分である「小学1年生」よりもむしろ、推定実年齢に近い「4～5歳の幼児」であろう。

一方、4.2 で例示・分析したアーニャのキャラクター言語的特徴は、彼女の「幼女」という人物像を過度に強調する【過剰性】と、人物像から外れた（相反する）要素から成る【逸脱性】の二つのキーワードで読み解くことができる。

【過剰性】（級友との対比による幼児らしさの過度な強調）

- ① <幼児語>の過剰使用
- ② 「です・ます形」の誤用
- ③ 自称詞「アーニャ」の使用

【逸脱性】

- ① 書き言葉的表現の多用（幼児らしさからの逸脱）

② <男ことば>的要素の使用（女兒らしさからの逸脱）

まず、キャラクター言語的特徴における【過剰性】は、級友との対比による幼児らしさを過度に強調し、「4～5歳にして小学1年生」というアーニャの外在的な特異性を際立たせるものだと考えられる。また、【逸脱性】については、「『心が読める超能力者』という内在的な特異性に起因するものである」との説明が可能である。4～5歳の幼児であるにもかかわらず多用する書き言葉的表現は、周囲の大人の「心の声」を聞いて身に付けたものである可能性が高い。また、「心の声」の聞き手は通常は話者自身であるため、敬語表現を含まず、二人称「おまえ」や命令形を使う<男ことば>的要素の強いものであることが多いのではないだろうか。

表2は、アーニャの役割語・キャラクター言語的特徴に以上の考察を加えてまとめたものである。

（表2）アーニャの役割語・キャラクター言語の特徴

分析対象: アーニャ・フォージャー 日本語版 『SPY×FAMILY』			
表現したい印象など	言葉遣いの特徴		表現される印象や表現効果
人物像（属性）	<役割語>		幼児
4～5歳の幼児	語彙	オノマトペ由来の愛称 「モジャモジャ」	幼児性
		接頭・接尾辞の付加 「おてて」「いぬさん」	あどけなさ・対象への愛着
	音声	省略 「いてきます」「もっかい」	片言らしさ
		置換 「びずつかん」「おでけけ」	
		省略+置換 「いらさいませ」「いてらさい」	
	文法	助詞の脱落 「アーニャ__これ__すき」	未就学児らしさ
	表記	台詞の分割 「…」言い淀み	
		漢字・カタカナのひらがな化 カタカナの限定的使用	
特異なキャラクター性	<キャラクター言語>		
4～5歳にして小学1年生	過剰性	<幼児語>の過剰使用	級友との対比による幼児らしさの強調
		「です・ます形」の誤用	
		自称詞「アーニャ」の使用	幼女らしさの強調
心が読める超能力者	逸脱性	書き言葉的表現の多用 ①高難度な漢語系語彙の多用 「はんめい」「きかんした」	幼児らしさからの逸脱

	②固有名詞代わりの属性呼称の使用 「ちち」「はは」「じなん」	
	<男ことば>的要素の使用 ①「おまえ」の使用 ②命令形の多用	女兒らしさからの逸脱

(山木戸 2019、p.48 の表 1 を参考に筆者が作成)

## 5 アーニャの言葉遣いの特徴への英訳版の対応

アーニャの言葉遣いの役割語的特徴が表現する人物像とキャラクター言語的特徴が示す独特のキャラクター性は、『SPY×FAMILY』の英訳版においてはどのような形で表現されているのだろうか。山木戸 (2019) では、『海辺のカフカ』のナカタさんの話し方の特徴の英語翻訳における対応 (翻訳シフト) について<sup>23</sup>、英語母語話者を対象としたアンケート結果をもとに論じているが、本研究においては英語母語話者対象のアンケートは実施していないため、日本語版からの引用文例に該当する英訳版の文例を引用し、筆者の対訳分析をもとに考察するものとする<sup>24</sup>。本項では、4.3 にまとめられたアーニャの言葉遣いの特徴について、翻訳者 Casey Loe 氏によりどのような対応がとられているかを分析する。日本語版と英訳版の巻数とページ数は一致しているため、日本語の引用箇所英訳版においても同巻・同ページからの引用となる。

### 5.1 役割語的特徴への対応

日本語版におけるアーニャの語彙・音声・文法・表記上の役割語的特徴は、彼女の幼児らしさを表現するものである。各特徴に該当する箇所の英訳を 5.1.1～5.1.4 で検討する。

#### 5.1.1 語彙上の特徴への対応

日本語版でオノマトペ由来の「モジャモジャ」の愛称でアーニャに呼ばれていたフランキーは、英訳版では SCRUFFY HEAD もしくは単に SCRUFFY と呼ばれている。形容詞 *scruffy* /skrʌfi/ は「みすぼらしい、よれよれの、無精な」を意味するので、「ボサボサ頭」、「ボサボサ」といったところであろう。形容詞 *scruffy* は、形容詞 *scurfy* /skɜ:rfi/ (「フケだらけの」) の転じたものである。オノマトペ由来の語ではないが、語末の母音が /i/ であり、英語の幼児語彙の特徴の一つである指小辞 (親愛や小ささを表す) の付いた *doggie* /dɔ:gi/ (ワンちゃん)、*kitty* /kíti/ (ネコちゃん) などに通じ幼児語らしい響きがあるため、訳語としては適当であると思われる。

<sup>23</sup>本稿では、山木戸 (2019) に倣い、「二言語のテキスト間で翻訳シフトが認められる箇所」(ibid., p. 35) に「対応」という語を当てている。

<sup>24</sup>筆者は英語を第 2 言語として学んだ日本語母語話者である。

もう一つの語彙上の特徴である「おてて」、「いぬさん」等の接頭・接尾辞の付加については、4.1.1の(2)・(3)・(4)の引用文中の10語<sup>25</sup>のうち、英語の幼児語彙としての対応が見られたのは「おさかな」の訳語としての fishies のみであり、他の語は home、hand、dog などの通常語彙を訳語としていた。

### 5.1.2 音声上の特徴への対応

アーニヤの言葉遣いの音声上の特徴である省略や置換による片言らしさが英訳版でどのように表されているのだろうか。4.1.2で挙げた音声上の特徴を含む引用文(5)～(7)とその英語対訳を表3にまとめ、分析する。番号部分がグレーでマークされたものについては何らかの対応が見られる。なお、英訳版の引用文における大文字・小文字の別は、本文の表記に従ったものである。これ以降の引用文についても同様である。

(表3) アーニヤの役割語の音声上の特徴のある文例とその英訳

番号		日本語版	英訳版	該当箇所
(5)	a	<u>いて</u> きます	Bye, Papa.	遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 89
	b	<u>だいじょぶ</u> な きがする...	... <i>I THINK IT'S GONNA TURN OUT OKAY.</i>	ibid., p. 96
	c	<u>もっかい</u> のる!	I <u>WANNA</u> RIDE IT AGAIN!	ibid., p. 158
(6)	a	アーニヤ・ <u>ホー</u> ジャーです	I'M ANYA FORGER.	遠藤 2019a/Endo 2020a, p. 69
	a'	アーニヤ・ <u>ホー</u> ジャーです	MY NAME IS ANYA <u>HOLGER.</u>	ibid., p.193
	b	<u>び</u> ずつかんいたり おぺらたべたり...	I LIKE WATCHING AT RESTAURANTS AND EATING THE OPERA.	ibid., p. 193
	c	アーニヤこのまま <u>お</u> でけけしたい	I WANT TO WEAR THIS ALL DAY!	遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 47
(7)	a	アーニヤ <u>ん</u> ちへ <u>いら</u> さいませ	WELCOME TO ANYA'S HOUSE!	遠藤 2019a/Endo 2020a, p. 129
	b	べね <u>じく</u> そ・あ <u>ばん</u> ・ ぐ <u>っど</u> へ <u>ら</u> ーさん	<u>BENDERDICK</u> I'M-A- <u>GOOD-FELLOW. MISTER SIR.</u>	ibid., p. 194
	c	<u>いて</u> らさい	BYE-BYE!	遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 39
	c'	<u>いて</u> らさい	BYE-BYE, PAPA!	ibid., p. 163
	d	し <u>ゅ</u> じ <u>ゅ</u> ち <u>ゅ</u> しつ <u>いて</u> くる	I'LL GO FIND A <u>SURJ-REE</u> ROOM!	遠藤 2020a/Endo 2020c, p. 125

<sup>25</sup>(2)の例:「おしろ・おうち・おさかな・おてて」、(3)の例:「ゆうびんやさん・うしさん・ぱんださん・ぺんぎんさん・いぬさん」、(4)の例:「おほしさま」)。

e	うい	OKAY 'KAY YEAH SURE など	遠藤 2019a/2020a、 p.91 他多数
---	----	---------------------------------	-----------------------------

(5) b 「だいじょぶ (大丈夫) 」と(5) c 「もっかい (もう一回) 」については、それぞれの訳語である okay と again には特に手を加えず、代わりに going to を gonna、want to を wanna とする縮約形を用いることで対応している。「だいじょぶ」も「もっかい」も特に幼児らしさを強く感じさせるタイプの省略ではないため、幼児に限らずくだけた会話に頻繁に使われる gonna、wanna という縮約形を用いたものと思われる。

(6) a はアーニャ宅に配達に来た郵便局員、(6) a' は入試面接の試験官に対しての言葉である。(6) a は、日本語版で「フォージャー」が置換により「ホージャー」になっているにもかかわらず、英訳版では「フォージャー」という姓の正しい綴りである Forger になっている。一方、(6) a' では、「ホージャー」の発音を反映した Holger という綴りになっている。

また、「びじゅつかん」→「びずつかん」の置換がある(6) b では、「美術館」という語自体がなくなり、「オペラたべたり」を元にしたらしい「レストランで観たりオペラを食べたり」という意味のユーモラスな言い間違いに置き換えられている。

(7) b は入試面接で校長の氏名を問われ答えたものであるが、日本語版での置換・省略の入り交じった言い間違いは、「マラプロピズム (malapropism) 」 (語感の似た滑稽な言い間違い) を用いたものに置き換えられている<sup>26</sup>。

(7) d の「しゅじゅちゅしつ (手術室) 」は、「手術」に当たる surgery /sə:rdʒ(ə)ri/ を「視覚方言 (eye dialect) 」 (正書法からは逸脱しているがその示す発音は標準から逸脱していない綴り) を用いて、かつ音節ごとにハイフンで区切り、SURJ-REE /sə:rdʒri/ としたものである。しかし、同文中の「いてくる (行ってくる) 」の促音省略への対応は特に見られない。視覚方言は、方言や外国語の訛りのほか、話者の無教養さを示すために使われるも

<sup>26</sup>Benedict Ivan Goodfellow (ベネディクト・アイヴァン・グッドフェロー) が Benderdick I'm-A-Good-Fellow (bender 「男性同性愛者」 (卑語)、dick 「間抜けな奴」、I'm a good fellow 「俺はいい奴」) になっている。Benderdick は男性名 Benedict のマラプロピズムとして使われている例がインターネット上で多数観察される ([https://www.reddit.com/r/funny/comments/309fzk/ok\\_reddit\\_how\\_badly\\_can\\_you\\_mispronounce\\_benedict/](https://www.reddit.com/r/funny/comments/309fzk/ok_reddit_how_badly_can_you_mispronounce_benedict/)) ほか)。最後の Mister sir. は、校長の氏名に付加した「さん」ではなく、面接官への敬語表現 sir (男性に対する発話の文末に付加され丁寧語「です」に相当) に、不要な Mister を添えたものである。

のである (Walpole 1974、Rickford & Rickford 2000、Picone 2016、イーヴァソン 2019)。  
また、音節ごとの区切りはたどたどしさや意味の無理解といった印象を表出し、視覚方言  
と音節分割の組み合わせは<幼児語>への効果的な対応であると言える。

(6) a'・(6) b・(7) b に対応が見られるのは、これらが入試面接での発話であり、「アー  
ニャが緊張により練習通りの話し方ができていない」というはっきりした設定を示すため  
であると考えられる。

「はい」に相当する(7) e の「うい」については特に対応は見られず、okay  
(「OK」)、'kay (「OK」の省略形)、yeah (「うん」)、sure (「いいよ」) など、  
その状況で最も自然な受け答えの語に訳されている。「うい」は音声の省略・置換を含む  
ため役割語的特徴に分類されているが、一風変わった肯定の返答である。それを頻繁に使  
うキャラクターには独特のキャラクター性が表出されるが、英訳版ではキャラクター性よ  
りも文脈上の自然さのほうが優先されたようである。

### 5.1.3 文法上の特徴への対応

アーニャの言葉遣いの文法上の特徴である助詞の脱落を含む文は英訳版ではどう表現さ  
れているのだろうか。4.1.3 で挙げた音声上の特徴を含む引用文(8)の各例とその英語対訳を  
表 4 にまとめる。

(表 4) アーニャの役割語の文法上の特徴のある文例とその英訳

番号	日本語版	英訳版	該当箇所
(8) a	アーニャ__これ__すき	MY FAVORITE!	遠藤 2019a/Endo 2020a、p. 26
b	アーニャ__べんきょーしなくて も てすと__できるもん!	I DON'T NEED TO STUDY!	ibid.、p. 33
c	ああ～～ アーニャ__ はは いなくて さみしい～～	<u>WAAAH!!!</u> I'M SO SAD THAT MAMA'S GONE!	ibid.、p. 97
d	れすとらん__ ゆうかいはん いない?	DO KIDS GET TAKEN AT RESTAURANTS?	遠藤 2019b/Endo 2020b、p. 37
e	はは__うそつき えがお やくにたたない	MAMA LIED. SMILING DOESN'T HELP AT ALL.	ibid.、p. 75
f	アーニャ__ まもって くれた ...? おまえ__ いいやつ?	YOU ... PROTECTED ME? ARE YOU... NICE?.	遠藤 2020a/Endo 2020c、p. 107

日本語版に見られる助詞の脱落は、特に幼児らしさを強く感じさせるタイプの省略では  
ないためか、英訳版においても単純な構文や日常的な言葉選びでくだけた感じの表現にな  
っているにすぎず、幼児性が強調されている印象はない。

#### 5.1.4 表記上の特徴への対応

日本語のマンガの文字表記は、一般的に、「ふきだし内の台詞」と「ふきだし外の思考」の表記には印刷書体、「ふきだし内外の補足的な台詞」は小さな手書き文字、「背景上の効果としてのオノマトペ」は手描きのデザイン文字が用いられ、『SPY×FAMILY』日本語版もそれに准じている。

一方、『SPY×FAMILY』英訳版のほうは、英語のコミックの多くがそうであるように、原則として「ふきだし内の台詞」と「ふきだし外の思考」が全て手書き（または手書き風フォント）のアルファベット大文字、「背景上の効果としてのオノマトペ」は全て手描きのアルファベット大文字（デザイン文字）で書かれている。「ふきだし外の補足的な台詞」は、この原則的総大文字表記の例外であり、「文頭語と固有名詞の語頭字のみ大文字、それ以外は小文字」という通常の英文表記の形態で書かれている。また、回想シーンの台詞は斜体字による通常の英語文表記になっている。

この大文字・小文字の使い分けを応用し、「日本語版においてはほぼ総ひらがな表記であるアーニャの台詞を、英訳版では全てアルファベット小文字で表記する」等の方法をとれば、日本語版におけるアーニャの言葉遣いの表記上の特徴を英訳版でも表現することができそうであるが、それは行われていない。

日本語のマンガの台詞表記では、意味の不理解や幼児性の強調といった一定の印象を表すため漢字仮名混交文の総ひらがな化が比較的頻繁に行われる（イーヴァソン 2019 他）が、英語コミックの総大文字の台詞の総小文字化が行われることは稀であり、行われたとしても「発話の声が小さい」などの印象を表出し、幼児性とは特に結びつかないため、『SPY×FAMILY』英訳版においても行われていないものと推察される。

4.1.4 にまとめたアーニャの言葉遣いの表記上の特徴のうち、「ふきだし・コマの分割と『…』・『一』の付加」については英訳版でも忠実に再現されていたが、漢字の不使用・カタカナの限定的仕様についてはほとんど対応が見られない。アーニャの台詞では固有名詞以外の外来語はひらがな表記であるが、固有名詞でありながら例外的にひらがな表記になっている「いでん」「きゃさりん」（引用文(9) a・(9) b 参照）についても、英語の標準表記である *Eden*、*Catherine* が使用されている。

アーニャの台詞においては、漢字もしくはカタカナ表記が標準の語はほとんど全てひらがなで表記されているが、それについて何らかの対応が見られるものもいくつかある。



(19) c 「ざんだんすうはちぶんに (残弾数 8 分の 2) 」

→ TWO EIGHTHS OF AM-YOO-NISH-UN (遠藤 2019b/Endo2020b、p. 147)

(26) 「ちち アーニャ ぼらんていあ へたくそだし やっぱり---

→ PAPA, I KNOW I WAS A BAD VOL-IN-TEER... (遠藤 2020a/Endo 2020c、p. 129)

(19) c・(26)は、5.1.2 の(7) d の例と同じく、視覚方言と音節分割の組み合わせにより片言らしさを強調したものである。(19) c では「弾薬、弾丸」を意味する ammunition を、am-yoo-nish-un、(26)では「ボランティア (volunteer)」を vol-in-teer と表記している。

こういった英語表記上の対応は山木戸 (2019) の調査においても観察され、それについて山木戸が実施した英語母語話者対象のアンケート調査の回答の中でも、効果的な手法であることが確認されている。

... 「語を音としてでしか理解していない」「自分に関わりのないような抽象的な意味が理解できない」「流暢に話せない」「語を音節ごとに区切らなければ発音できない」など、母語を獲得中の子どものイメージとも結びつくと報告されている。(ibid., p. 47)

## 5.2 キャラクター言語的特徴への対応

日本語版におけるアーニャのキャラクター言語的特徴への英訳版の対応はどうであろうか。【過剰性】型特徴と【逸脱性】型特徴に分け、5.2.1 と 5.2.2 で検討する。

### 5.2.1 【過剰性】への対応

本項では、アーニャのキャラクター言語的特徴の【過剰性】を体現する以下の3点につき、順に確認していく。

- ① 級友との対比により際立つ「<幼児語>の過剰使用」
- ② 「『です・ます形』の誤用」
- ③ 「自称詞『アーニャ』の使用」

#### ① 級友との対比により際立つ「<幼児語>の過剰使用」

アーニャと級友の言葉遣いの対比のため、ダミアンとベッキーの台詞の英訳を検討する。表 5 は、ダミアンとベッキーの台詞の引用文例とその英訳をまとめたものである。

(表5) ダミアンとベッキーの台詞の引用文例とその英訳

番号		日本語版	英訳版	該当箇所
ダミアン				
(13)	a	おまえんトコは？ 親は何の仕事__してんだ？ レベルによっちゃ おまえを友達に 加えてやってもいいぞ？	SO WHAT DOES YOUR DAD DO? IF HE'S IMPORTANT ENOUGH, YOU COULD BE MY FRIEND TOO.	遠藤 2019b/Endo 2020b、 p. 71
	b	オレに 逆らう者など 誰一人として いなかった	NEVER IN MY WHOLE LIFE HAS ANYONE DENIED ME.	ibid.、 p. 97
	c	兄貴にさえ ぶたれたことなかったのに...	EVEN MY OLDER BROTHER HAS NEVER STRUCK ME.	ibid.
	d	初めて味わわされたぜ	SHE GAVE ME MY FIRST TASTE OF IT.	遠藤 2019b/Endo 2020b、 p. 37
ベッキー				
(14)	a	あたしベッキー あなたは？	MY NAME'S BECKY. WHAT'S YOURS?	遠藤 2019b/Endo 2020b、 p. 67
	b	ガキっぼい子 世話役ぐらいには してあげてもいいかしらね	LOOK AT THIS IMMATURE BABY. I'D BETTER SHOW HER THE ROPES <sup>27</sup> .	ibid.
	c	まあ!!	HEY!	ibid.
	d	あんた 情けないわね 少しは言い返し なさいよ	ARE YOU JUST GONNA STAND THERE LIKE A LOSER? SAY SOMETHING BACK!	ibid.、 p. 73
	e	あなた 意外とオトナなのね！	YOU'RE ACTUALLY PRETTY GROWN-UP!	ibid.、 p. 74
	f	人間ってアサハカよね ヒョーメン的な 情報でしか 物を見れないっていうか	PEOPLE ARE SUPERFICIAL. THAT OR THEY JUST BELIEVE ANY DUMB THING THEY HEAR.	ibid.、 p. 95
	g	でも大丈夫！ あたしはアーニャちゃんの味方だから！」	BUT IT DOESN'T MATTER! YOU HAVE ME ON YOUR SIDE NOW!	ibid. p. 99

<sup>27</sup> 「コツ／やり方を教える」という意味の show (someone) the ropes という表現は、「世話役にしてあげる」とは異なるものの、作中の状況的には辻褄の合う訳である。

日本語版における二人の台詞は、軽さやくだけた印象はあるものの、共に<幼児語>的な特徴のない大人びた口調である。また、ダミアンには<男ことば>の、ベッキーには<お嬢様ことば>の特徴が色濃く見られるという如実な性差も、<幼児語>には見られない特徴である（4.2.1 参照）。

二人の台詞の英訳には、子供の語彙に比較的多く見られる(13) a の dad、(14) e の grown-up などの語も使われているが、全体的には特に幼さを感じさせるスタイルではないようである。むしろ、ダミアンの(13) b における倒置構文の使用や、ベッキーの使う(14) b の immature、(14) f の superficial といった、子供には難しそうな3音節以上の語が、視覚方言や音節分割という手法なしに標準的に表記されていることから、彼らの発話スタイルに幼児らしさがないことが窺える。

発話スタイルの男女差については、英語の場合、一人称代名詞や終助詞で明示される日本語と異なり、それほど顕著ではない。しかし、女性的な発話スタイルとしてよく指摘されるものには、「断定・主張を避ける疑問文・付加疑問文の使用」・「特定の評価的形容詞（charming・lovely・sweet等）の頻用」などがある（Lakoff 1973 他）。ダミアンと比較すると、ベッキーの発話は(14) d の「情けないわね」という終助詞の付加により和らげられた主張が疑問文の形で訳されていること、また女性が頻用するとされる形容詞の一つである PRETTY が(14) e で（副詞としてであるが）用いられていることなどから、全体的に女性的な印象を与えるスタイルになっているようである。

したがって、級友との対比により際立つアーニャの「<幼児語>の過剰使用」は、英訳版においても効果的な対応がなされていると推察される。

## ② 「です・ます形」の誤用

アーニャの「です・ます形」の誤用部分については英訳版ではどのような対応がなされているのであろうか。表6は、該当する引用文例とその英訳をまとめたものである。

（表6）アーニャの「です・ます形」の誤用文例とその英訳

番号		日本語版	英訳版	該当箇所
(18)	a	だいじょうぶ <u>ます</u> がんば <u>る</u> ます	I <u>AM</u> SPEAK LIKE A PROPER LADY, <u>MISTER</u> SIR!	遠藤 2019a /Endo 2020a、 p. 157
	b	こまってるひとが <u>いる</u> ます！たす <u>け</u> ます！	THAT BOY IS IN TROUBLE! LET'S SAVE HIM!	ibid.、 p. 169
	c	はんかち <u>あげ</u> るます	HERE, USE MY HANKIE.	ibid.、 p. 170
	d	おは <u>や</u> います	G'MORBINGH...	遠藤 2020a/Endo 2020c、 p. 57

(18) a は入試面接に出かける際の言葉遣いの最終確認の場面での台詞であり、この後に父・ロイドの「...不安しかないが やれることはすべてやった」(遠藤 2019a, p. 157) という心の声が続くため、シークエンスの整合性上、英訳版においても明らかな誤用表現を用いる必要がある。そのため、誤用なしであれば *I will speak like a proper lady, sir!* とでもするところを、*will* を *am* で代用し、丁寧形にするために付加する *sir* の前に *mister* を挿入している。(18) b・(18) c は、面接会場へ向かう途中のセリフであるが、シークエンス上は誤用なしでも問題ないため、誤りのない表現で訳されている。(18) d は、寝起きで目が覚め切っていない場面の台詞であるため、表略・置換・付加を含む不正構音として表現されている。以上から、シークエンス上必要な場合に限り、文脈上自然でかつ英語話者にありがちな誤用表現が用いられているものと推察される。

### ③ 自称詞「アーニャ」の使用

英訳版におけるアーニャの自称詞は、*Anya* ではなく一人称代名詞 *I・my・me* が使用されているが、これは、英語において名前を自称詞として用いた場合、代名詞の概念を理解できていない2歳児ぐらいのイメージになり、アーニャの年齢には幼すぎるためであると思われる<sup>28</sup>。

また、日本語と英語の人称体系が異なることも、自称詞 *Anya* 不使用の理由の一つであろう。英語のフィクションで固有名詞を人称代名詞代わりに用いて役割語的效果をあげている例として、山口(2007)は小説 *Harry Potter and the Chamber of Secret* (『ハリー・ポッターと秘密の部屋』) (Rowling 1998) に登場するしもべ妖精 (*house elf*) ドビーの言葉遣いを取り上げている。ドビーの言葉遣いで特徴的なのは、自分が畏敬するハリーと話す際、一人称に *Dobby*、二人称に *Harry Potter* という固有名詞を用い、それらを受ける動詞を共に三人称形にするという点である<sup>29</sup>。山口はこれについて「1人称と2人称を避けることにより、対話者とは対等に話すことはできないという立場を表している」(ibid., p. 17) と分析している。日本語における自称詞「アーニャ」の使用により表現される印象は「話

---

<sup>28</sup>現実の英語母語話者においては、言語獲得の初期段階では名前を自称詞として用いるが、通常3歳までには一人称代名詞を使うようになり、4歳になっても代名詞に切り替わらない場合は言語療法士に相談すべきとのことである。

<https://www.whattoexpect.com/toddler/language-development/using-the-third-person.aspx>

(Accessed: 2021-01-29).

<sup>29</sup>用例: 'Dobby knows it, sir.' (Rowling, 1998, p. 18)、'Then Harry Potter leaves Dobby no choice.' (ibid., p. 20) (共にハリーに対するドビーの台詞)。

者の幼さ」であるため、「対話者への敬意」が連想される可能性のある対応は避けて正解であろう。山口はまた、「人称代名詞が固定的な英語において」「固定化された人称の体系をスライドさせて使うこと」(ibid., p. 19)により獲得した特徴的な文体の使用の持つ役割語的インパクトの大きさを指摘している。このことから類推すると、アーニャが英訳版において自称詞として Anya を使った場合、同様なインパクトを感じさせるものになると予想される。そのようなインパクトは、役割語的には「人間以外」(金水 2014)に分類されるしもべ妖精の「人ならざるもの」らしさを表すにはふさわしいが、超能力者とはいえず歴とした人間であるアーニャには不適切である、という理由からも、自称詞としての Anya の使用は採用されなかったのかもしれない。

### 5.2.2 【逸脱性】への対応

本項では、アーニャのキャラクター言語的特徴の【逸脱性】を体現する以下の2点につき順に確認していく。

- ① 書き言葉的表現の多用 (幼児らしさからの逸脱)
- ② <男ことば>的要素の使用 (女兒らしさからの逸脱)

#### ①書き言葉的表現の多用 (幼児らしさからの逸脱)

- 高難度な漢語系語彙の多用

アーニャは、ひらがな表記ではあるが、高難度の漢語系語彙を比較的頻繁に用いる。

表7はその文例と英訳のまとめである。

(表7) アーニャの高難度の漢語系語彙を含む文例とその英訳

番号		日本語版	英訳版	該当箇所
(19)	a	はは <u>そんざい</u> しない	THERE IS NO MOMMY.	遠藤 2019a/Endo 2020a, p. 69, 71
	b	ちちー！ アーニャのながさ <u>はんめい</u> したー！	PAPA! I GOT MEASURED!	ibid., p. 96
	c	<u>ざんだん</u> すう <u>はちぶん</u> のに	TWO EIGHTHS OF <u>AM-YOO-NISH-UN</u> .	遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 147
	d	ちちー ははー アーニャ <u>きかん</u> したー！	PAPA! MAMA! I'M HOME!	遠藤 2020a/ Endo 2020c, p. 87

表7の文例を見る限りでは、表記上の特徴への対応として5.1.4で取り上げた(19)cの「ざんだんすうはちぶんのに(残弾数8分の2)」以外には難度の高い語彙は含まれてお

らず、日本語版における「過剰なまでの<幼児語>的特徴の中に高難度語彙を挟むギャップの面白さ」は英訳版では読者に伝わりそうにない。

- 固有名詞代わりの属性呼称の使用

次に、4.2.4 で取り上げた「固有名詞代わりの親族呼称・動物の属名の使用」について検証する。例文(20)で父・ロイドから上流らしく「お父さま」と呼ぶように指示されたにもかかわらずアーニャが「ちち」と呼び替えた際の訳語は、「お父さま」が Father、「ちち」は Papa になっており、それ以降もずっと呼びかけとしての「ちち」は Papa である。「はは」については、ヨルが母として家族に加わる以前の台詞である(19) a の時こそ Mommy であるが、ヨルが母となつてからの呼称は Papa に対応する Mama である。英語での親への呼びかけとしては、Father/Mother はフォーマル度が高く、Dad/Mom/Mum が一般的であり、小児は Daddy/Mommy/Mummy をよく使うが、Papa/Mama という語は、米語ではくだけた雰囲気もしくは小児が使うイメージ、英語では古風なイメージであるとのことである (Ordbok 2021)。アーニャのような幼児が使つて不自然でなく、古風なイメージから上流らしさも多少あるということで、Papa/Mama の使用は対応としてはおそらく適切であろうと思われる。日本語版では「ちち」・「はは」が呼びかけだけでなく二人称・三人称としても常に用いられているが、英訳版では Papa/Mama の使用は呼びかけと三人称に限られており、二人称としては代名詞 you が用いられている。フォーマル度の高い「ちち」・「はは」を幼児が常用することによって醸し出される日本語版のアーニャの奇異な印象は、英語版においては、訳語の選択と使用頻度の低さのせいでかなり目減りしているように感じられる。

日本語版のアーニャは叔父・ユーリについても三人称として接尾辞なしの親族呼称「おじ」を用いているが (4.2.4 (21)参照)、英訳版の訳語 uncle は三人称として用いても自然であり、この点でも日本語版における奇異な印象は伝わらなくなっている。

(21) 「アーニャも おじ おでむかえ」

→ I WANNA GREET UNCLE... (遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 150)

アーニャはまた、要人の次男である級友のダミアンのことも「じなん」と呼ぶが (4.2.4 (22)参照)、英訳版でのダミアンの呼称は sy-on boy である。Sy-on は「(名門・資産家の)子孫、末裔、御曹司」(Ordbok 2021)を意味する文語 scion (/sá(i)ən/)の視覚

方言を音節分割したものである<sup>30</sup>。小学1年生の級友の呼称としては全くそぐわないフォーマルな「じなん」の訳語に文語由来の *scion* を用いており、また、ひらがな表記の演出するたどたどしい印象を視覚方言・音節分割の手法で表すというやり方であり、上手い対応だと言える。

②<男ことば>的要素の使用（女兒らしさからの逸脱）

- 二人称「おまえ」の使用

英語の人称システム固定の壁は強固であり、英訳版においては、アーニャの使う二人称代名詞「おまえ」も、ベッキーの使う「あなた」や「あんた」も、秘密警察に扮したロイドとフランキーの使う「キサマ」（遠藤 2020a, pp. 73-73）も、英語では全て *you* で訳されている。したがって、<男ことば>的表現である「おまえ」を幼女であるアーニャが使うことの「標準からの逸脱性」は英訳版では表現できない。また、「アーニャが二人称『おまえ』を使うのは、自分と同等かそれより下と見做す相手もしくは敵対する相手に対してである（4.2.5 参照）」といった細かな点を英訳版読者に伝えることも当然できない。

- 命令形の多用

アーニャの台詞に多数観察される命令形が英訳版ではどのように訳されているかを表8にまとめた（[→ ] 内の名前は命令形が向けられた相手を示す）。

（表 8）アーニャの命令形関連の文例とその英訳

番号		日本語版	英訳版	該当箇所
(24)	a	ぴーなつ <u>かいこんどけ</u> [→ 父・ロイド]	STOCK UP ON PEANUTS!	遠藤 2019a/Endo 2020a, p. 100
	b	とりあえず このなわ <u>ほどけ</u> [→ 父・ロイド]	BUT... CAN YOU GET THIS OFF ME FIRST?	遠藤 2020a/Endo 2020c, p. 123
	c	“すたーらいと アーニャ”と <u>よべ</u> [→ ベッキー]	I GO BY “STARLIGHT ANYA” NOW.	ibid., p. 145
	d	きゃさりんを <u>しあわせに</u> <u>してやれ...</u> [→ 母・ヨルの命を狙う元テロリスト]	GO HOME AND MAKE CATHERINE HAPPY.	ibid., p. 191
(25)	a	ははアーニャに <u>とっくん</u> <u>して</u> [→ 母・ヨル]	TRAIN ME, MAMA!	遠藤 2019b/Endo 2020b, p. 55

<sup>30</sup>cereal3friend

（[https://www.reddit.com/r/SpyxFamily/comments/h0tmrp/why\\_does\\_anya\\_call\\_damien\\_syon\\_b\\_oy\\_just\\_wondering/](https://www.reddit.com/r/SpyxFamily/comments/h0tmrp/why_does_anya_call_damien_syon_b_oy_just_wondering/)）の指摘に基づく。

	<b>b</b>	ははのんでは だめえー!! [→ 母・ヨル]	MAMA, NO!! DON'T DRINK IT!!	遠藤 2020a/Endo 2020c、p. 184)
--	----------	---------------------------	--------------------------------	--------------------------------

命令形を含む(24)の4文例中、英訳でも命令形が用いられているのはaとdのみであり、bは疑問文、cは平叙文である。一方、命令形の代わりに依頼形・禁止表現を用いた(25)の2文例は、命令形・否定命令形を使って訳されている。それぞれ文脈にふさわしい自然な英語表現ではあるが、日本語の命令形は高圧的な印象が強く、上位者や男性が使うことが多いものであり、その命令形をあえて多用する幼女アーニャの独特なキャラクター性を伝えることはできない。また、「母に対しては命令形を使わない」という彼女の発話スタイルのディテールが示す母との関係性(4.2.5 ②参照)も英語版では読み取ることはできない。

### 5.3 英訳版におけるアーニャの言葉遣いのまとめ

5.1・5.2では、日本語版のアーニャの言葉遣いの役割語的・キャラクター語的特徴について英訳版でどのような対応が取られているかを分析・考察した。その結果を表9にまとめて示す。



(表9) アーニャの役割語・キャラクター言語の特徴への英訳版の対応

日本語版『SPY×FAMILY』		英訳版 <i>SPY×FAMILY</i>	
表現したい印象など	言葉遣いの特徴		対応
人物像 (属性)	<役割語>		
4～5歳の幼児の ・あどけなさ ・片言らしさ ・未就学児らしさ	語彙	オノマトペ由来の愛称	○ 類似表現の使用
		接頭・接尾辞の付加	△ 1例のみ指小辞使用
	音声	省略、置換、省略+置換	△ シークエンス上必要な場合にマラプロピズムを使用
	文法	助詞の脱落	△ 単純な構文と日常的な語彙の使用
	表記	台詞の分割・言い淀み	◎ 日本語版の通り
ほぼ絵ひらがな表記		△ 多音節語に視覚方言+音節分割を使用	
特異なキャラクター性	<キャラクター言語>		
4～5歳にして 小学1年生 ・過剰な幼女らしさ (対比で強調)	過剰性	<幼児語>の過剰使用	○ 級友の大人びた台詞 ・控えめながら性差あり ・マラプロピズム不使用 ・視覚方言/音節分割の不使用
		「です・ます形」の誤用	△ シークエンス上必要な場合に不正構音を使用
		自称詞「アーニャ」の使用	× 一人称代名詞を使用
心が読める超能力者 ・幼女らしさからの逸脱	逸脱性	書き言葉的表現の多用 ①高難度な漢語系語彙の多用 ②固有名詞代わりの属性呼称の使用	△ 可読性・整合性を損なわない程度に使用 ・多音節語における視覚方言+音節分割 ・マラプロピズム
		<男ことば>的要素の使用 ①「おまえ」の使用 ②命令形の多用	× ・二人称代名詞を使用 ・文脈に応じた命令/依頼表現等

注: ◎: 英訳版にそのまま適用

○: 適用されているが、英語の特性に従い調整

△: 英語の特性によってそのまま適用できないが、他の方法で補われている

×: 適用されていない

(山木戸 2019、p.48 の表 1 を参考に筆者が作成)

表9の英訳版の対応欄に付した記号が示す通り、日本語版における役割語的特徴については何らかの形で英訳版に適用されているが、キャラクター言語的特徴については適用度が低いようである。翻訳者は文脈に適した自然な英語表現と読みやすさを優先させたものと思われる。二言語間の人称体系や表記体系の違いにより無理が生じやすい人称詞や文字種についてはあえて調整や適用を避け、シークエンスの整合性上必要な場合において英語のフィクションで用いられるマラプロピズム・視覚方言・音節分割等の手法を駆使して日本語版における特徴を自然な形で伝えようとする方針が感じられる。

## 6 考察

本項ではまず、アーニャの役割語・キャラクター言語の特徴への英訳版の対応と、山木戸(2019)の『海辺のカフカ』の「ナカタさんの話し言葉の特徴と英語翻訳版における対応」を比較し、共通点と相違点を探る。次に、「特異な主要キャラクターを特徴付ける役割語・キャラクター言語」について考察し、それに基づいて翻訳上の問題点を検討する。

### 6.1 アーニャとナカタさんの役割語・キャラクター言語の共通点・相違点

本項では、山木戸(2019)の「(表1) ナカタさんの話し言葉の特徴と英語翻訳版における対応」(ibid., p. 48)を転載し、5.3の「(表9) アーニャの役割語・キャラクター言語の特徴への英訳版の対応」と比較しながらアーニャとナカタさんの役割語・キャラクター言語の特徴および英訳版での対応における共通点・相違点を探る。ナカタさんの話し言葉の特徴については適宜取り上げていくが、詳細については山木戸(2019)本文を参照されたい。

(表 10) 「ナカタさんの話し言葉の特徴と英語翻訳版における対応」

(山木戸 2019、p48 (表 1) を転載)

(表1) ナカタさんの話し言葉の特徴と英語翻訳版における対応

ST: 『海辺のカフカ』(日本語)		TT: <i>Kafka on the Shore</i> (英語)	
表現したい印象など [☞: 読者に与えた印象]	特徴的な言葉づかい	対 応	
I. 人物像(属性)	<役割語>		
年齢: 初老 [初老らしさ] ☞	i. 俗語・若者言葉の使用なし	◎	俗語の使用なし
	ii. <老人語>(語彙, 語法)の使用(ごく僅か)	○	古風な語句・表現の使用(語法なし)
礼儀正しさ [礼儀正しさ] ☞	敬語の使用	△	→丁寧度の高い謝罪・感謝・依頼・許可表現の使用
II. すこし風変わりな話し方	<キャラクター言語>		
[会話の聞き手に対する敬意・忠誠・服従の念] ☞	i. 「であります」の使用	×	
	ii. 自称詞「ナカタ」の使用	○	(“I” も並行して使用)
[純粹さ・世間を知らない, 話し言葉にやわらかさが加わる] ☞	iii. <幼児語>「～さん」の使用	×	
[言語能力・言語運用が一般的な大人と異なっていること] ☞	iv. カタカナ表記の使用	○	(一般名詞: 誤った綴り, マラプロビズム; 固有名詞: 音節ごとにハイフンで区切る)

注: ◎: 英語版にそのまま適用

○: 適用されているが、英語の特性に従い調整(調整の内容は括弧書き)

△: 英語の特性によってそのまま適用できないが、他の方法を取り入れて補われている(「他の方法」は「→」以下に示す)

×: 適用されていない

アーニャの場合と同様に、ナカタさんの話し言葉においても、「礼儀正しい初老の男性」という彼の一般的な属性が役割語的特徴によって表現されている。また、「すこし風変わりな話し方」(山木戸 2019、p. 48)と称される彼のキャラクター言語的特徴は、①「聞き手に対する敬意・忠誠・服従の念」を感じさせる「であります」と自称詞「ナカタ」の使用、②純粹・世間知らずでやわらかい印象になる<幼児語>「～さん」の使用、③一般的な大人と異なる言語能力・言語運用を示すカタカナ表記の使用である(ibid.)。

役割語によって表現される人物像としては、発音や文法的な誤りの多い幼女であるアーニャと、折り目正しい流暢さをもって話す初老の男性ナカタさんは、ほぼ真逆に位置して

いる。しかしながら、彼らのキャラクター言語的特徴には重層的な共通点と相違点が存在する。表層的な共通点3つとそれらに内在する共通点・相違点について以下に考察する。

(表 11) アーニャとナカタさんの役割語・キャラクター言語の共通点・相違点

	アーニャ	ナカタさん
共通点	① 自称詞に名前を使うこと	
相違点	名を使用 →幼女らしさを強調	姓を使用 →聞き手への敬意・忠誠・服従を表出
共通点	→一般的属性(幼女/礼儀正しさ)の過度な強調	
共通点	② 動物・無生物に接尾辞「～さん(～さま)」を使うこと	
共通点	「うしさん」「いぬさん」 「おほしさま」 →あどけなさ・対象への愛着、純粹無垢・やわらかさ	「猫さん」「犬さん」 「雷さん」「石さん」 <sup>31</sup>
相違点	→一般的属性(幼女)の過度な強調	→一般的属性(初老男性)からの逸脱
共通点	③ 漢字語の仮名表記化	
相違点	全ての漢字語とほとんどのカタカナ語をひらがなで表記 「じなん(次男)」 「ぼらんていあ(ボランティア)」	抽象度の高い漢語と馴染みの薄い固有名詞のみカタカナで表記 「キンユウロン(金融論)」 「カラスヤマ(烏山)」
共通点	→読み書き能力の低さ/欠如を演出、限られた語義理解を示唆	
相違点	→一般的属性(幼女)の過度な強調	→一般的属性(初老男性)からの逸脱

共通点①の「自称詞に名前を使うこと」については、名と姓のどちらを使うかで与える印象が大きく異なるが、それにより生じる効果としては、名を使用するアーニャも、姓を使用するナカタさんも、「幼女」「礼儀正しさ」というそれぞれの「一般的属性の過度な強調」である。

共通点②の「動物・無生物に接尾辞『～さん(～さま)』を使うこと」はあどけなさや純粹無垢といった似通った印象を与えるが、幼女であるアーニャの一般的属性はそれにより強調され、反対に初老男性であるナカタさんの属性からは逸脱するという効果をもたらすことになる。

共通点③の「漢字語の仮名表記化」については、共通の印象を与えるため異なった手法がとられている。アーニャはその幼さゆえ読み書き能力や理解力が発展途上にあり、ナカタさんは少年時代の出来事のため「読み書き能力など重要な知的能力を失」い(金水 2018b)、抽象語彙の理解も十分ではない。二人の読み書き能力や抽象語彙の字義の理解

<sup>31</sup>山木戸(2019, p. 30)、村上 2002a, pp. 77-78、ibid., p. 213、ibid., p. 215、村上 2002b, p. 129、ibid., p. 142

力は近いレベルにあるが、彼らの台詞の表記形態には差がある。アーニャには幼さを感じさせるひらがなが選ばれ、ひらがなはマンガの台詞のように分かち書きされていれば比較的読みやすいためもあり、彼女の台詞はほぼ全てひらがな表記である。一方、大人であるナカタさんの「すこし風変わりな」（山木戸 2019）感じを出すためには、カタカナが採用されている。しかし、総カタカナ表記では読みにくく、漢字部分を全てカタカナに置き換えたカタカナひらがな混交文にするのも「すこし」ではなく「とても」風変わりになりかねないためか、カタカナ表記は彼が語義を理解できない抽象的な漢語や固有名詞に限られている。可読性と与える印象への配慮により手法は違うが「読み書き能力の低さ」の演出は共通したものであり、それにもかかわらず、幼女であるアーニャにとっては一般的属性の過度な強調、反対に初老男性であるナカタさんの属性からは逸脱するという効果をもたらしている。

これらの重層的な共通点・相違点の根底に見出される大きな共通点は、4.3でも言及した二つのキーワード【過剰性】と【逸脱性】である。

アーニャもナカタさんも、役割語で「幼女」、「礼儀正しい初老の男性」という一般的人物像が描き出された上で、その属性を過度に強調したり、人物像に相反する属性を付加したりという、【過剰性】と【逸脱性】を帯びたキャラクター言語的特徴を与えられ、彼らの独特のキャラクター性が創造されていると言える。

また、英訳版の対応においても共通点がある。アーニャもナカタさんも、役割語的特徴のほうが英訳版でも何らかの形で適用されている度合いが大きく、キャラクター言語的特徴についての適用の度合いはそれよりも小さいということである。役割語とは、話し手の人物像と「ステレオタイプ的に結びつけられる話し方であり、その知識はその言語共同体の多くの話者によって共有されていなければならない」（金水 2016）ため、英語の言語共同体の多くの話者にとっても認識しやすい特徴である可能性が高い。しかし、キャラクター言語は「話し手の社会的属性とステレオタイプ的な結びつきが認められるものの、言語共同体のほんの一部の受容者にしか認知されていない話し方」（山木戸 2019）であるため、英語話者にとっても認識のしやすさは劣るものと考えられる。したがって、この役割語とキャラクター言語の定義上の違いが、英訳における適用の度合いに影響していると推察される。

## 6.2 特異な主要キャラクターを特徴づける役割語・キャラクター言語

### 6.2.1 アーキタイプとキャラクター言語

それぞれの作品の「特異な主要キャラクター」であるアーニャとナカタさんの特徴づける役割語とキャラクター言語は、彼らの物語中のアーキタイプとどのように関連している

のだろうか。本項では、金水（2017）に基づくフィクション作品中のキャラクターの重要度と役割語の使用についての分類と、金水（2018b）における「『海辺のカフカ』登場人物のアーキタイプと言語」（ibid.、p. 8）の分類を参考にして考察を展開する。

金水（2017）は、フィクション作品中のキャラクターを、重要度と役割語の使用に基づいて以下の3つクラスに分類している。

- クラス 1:  
主人公および準主人公。標準語を基調とし、役割語度は低いことが多い。
- クラス 2:  
重要なキャラクター。典型的な役割語または標準語が多い。あるいは、通常の役割語の変形型もしくは独特のユニークな話し方。
- クラス 3:  
ほぼ1回のみでの登場で無名の（またはそれに近い）人物。基本的に、役柄に応じた典型的または無難な役割語(標準語)を使用。

上記のクラス分類に基づき、金水（2018b）では、『海辺のカフカ』の登場人物のアーキタイプ（archetype）<sup>32</sup>と言語をまとめている。準主人公的キャラクターであるアーニャとナカタさんのアーキタイプを主人公との比較を通じて検討するため、作品の表立った主人公である田村カフカと偶数章の主人公であるナカタさんを金水のまとめから抜粋し、さらに『SPY×FAMILY』の主人公ロイド・フォージャー（暗号名・黄昏）と準主人公的キャラクターであるアーニャを加えたものが表 12 である。この表をもとに、彼らのアーキタイプと言語について考察する。

---

<sup>32</sup>物語を主人公の成長の旅路になぞらえ、登場人物の果たす役割を象徴的な意味から分類した元型を指す（金水 2017、Vogler 2007）。

(表 12) 『海辺のカフカ』と『SPY×FAMILY』の主要登場人物のアーキタイプと言語

『海辺のカフカ』		
名前	田村カフカ	ナカタさん
分類	クラス 1	クラス 2
細分	---	クラス 1 に近い
アーキタイプ	主人公	トリックスター+メンター
自称詞	僕	ナカタ
言語	<男ことば> 寡黙	超丁寧語
『SPY×FAMILY』		
名前	ロイド・フォージャー (黄昏)	アーニャ・フォージャー
分類	クラス 1	クラス 2
細分	---	クラス 1 に近い
アーキタイプ	主人公	トリックスター+同調者
自称詞	オレ	アーニャ
言語	<男ことば>	<幼児語>

(金水 2018b, p.8 の表 3 を参考に筆者が作成)

田村カフカは、内省的で寡黙だが行動力も兼ね備えた 15 歳の少年である。ロイド・フォージャーは敏腕スパイであり、30 歳前後と思われる。分類上「クラス 1」の主人公である彼らは、彼らの人物像にふさわしい、標準語を基調とした<男ことば>を話す。主人公が標準語を話すのは、「読者が最も自己同一化しやすいという理由によるもの」とされるが(金水 2003、2007、p. 106)、主人公という立場上台詞量が多いため、読みやすさが重要になり、読者への配慮としての「(普段から書き言葉として読み慣れている)標準語は読みやすい」という理由も多少あるかもしれない。

この「読みやすさ」という観点は、「クラス 1 に近いクラス 2」に分類される準主人公的ポジションであるアーニャとナカタさんの台詞にも適用できる。彼らの台詞もかなりの量になるため、アーニャの分ち書きされた総ひらがなの台詞と、ナカタさんの台詞における漢語の限定的なカタカナ化は、読みやすさにも配慮したものと思われる。

一方、ナカタさんは偶数章では主人公を務めるものの、アーキタイプとしては「メンター」的側面を併せ持つ「トリックスター」とされる(金水 2018b)。また、アーニャは登場頻度とプロット上の重要性においては準主人公的ポジションであるが、「同調者」的側面を併せ持つ「トリックスター」的キャラクターである。

物語のアーキタイプとしての「トリックスター」・「メンター」・「同調者」は以下のような性質・役割を持つ。

- トリックスター (Trickster)

道化的に場を和ませたり、悪戯めいた行動で状況に変化をもたらしたりする。

- メンター (Mentor)  
主人公を教え、護り、旅に必要なもの (知恵や道具など) を授ける。
- 同調者 (Ally)  
主人公の旅に同行し、様々な役割を果たす。

(金水 2017、Vogler 2007)

トリックスターはまた、賢者と愚者の二面性を併せ持つことも多い。ナカタさんとアーニャも、「猫と話せる／心が読めるという特異な能力」と、「失われた／発展途上の知的能力」という、ステレオタイプ的な賢者と愚者の二面性を備えている。ナカタさんとアーニャに共通する「独特なキャラクター性」は、この二面性によって物語の展開に変化をもたらす、トリックスター的性質であると言える。

さらに、重要な知的能力を失い「空っぽの人間」(金水 2018b、p. 7)として人生の大半を過ごしてきたナカタさんは、風変わりな言動で時に読者を困惑させながらも、「依り代」のような存在として行動し、結果的に主人公を護り導くことになるというメンターの側面も備えている。またアーニャは、作品の第1話からほぼ全話に登場し、主人公から指示されて (または心を読んで) 彼の任務遂行の重要な協力者として活躍する同調者的な役割も担っている。

6.1 で考察したアーニャとナカタさんのキャラクター言語における【過剰性】と【逸脱性】は、彼らのこのトリックスターとしての性質を際立たせるために有効であると推察される。【過剰性】のもたらすアーニャの強調された幼さやナカタさんの度を越した丁寧さは時としてコミックリリーフ<sup>33</sup>として機能し、【逸脱性】による特殊な言葉遣いや表記は、彼らの異能を印象付ける手立てとしての有効性を感じさせる。

## 6.2.2 英訳版における対応

6.2.1 で論じた通り、アーニャとナカタさんは、物語のプロット上重要な位置を占める、トリックスター的な主要キャラクターである。しかしながら、6.1 で言及したように、そのようなキャラクター性を効果的に表している日本語のキャラクター言語的特徴を英訳において適用することは困難が伴う。翻訳の究極の目標が翻訳版の読者に母語読者が原著を読んだ際に得られるのにできるだけ近い読みやすさと正確な内容理解を提供することであるとしたら、シークエンスの整合性と訳文表現の自然さ・読みやすさが優先されるのはやむを得ない。『海辺のカフカ』も『SPY×FAMILY』も、その上で、可能な部分は英語とし

<sup>33</sup> (劇中の) 笑いを誘う息抜き場面 (Ordbok 2021)。



て無理のないよう調整を施した上でキャラクター言語的特徴を訳語に適用し、ナカタさんとアーニャのキャラクターの魅力を増すことにつながっていると見える。

## 7. まとめと今後の課題

本稿では、マンガ『SPY×FAMILY』の特異な主要キャラクターであるアーニャの言葉遣いの役割語・キャラクター言語的特徴を整理し、その英訳版における対応を分析した。次に、『海辺のカフカ』の複数章の主人公で特殊な能力を持つナカタさんについて先行研究で明らかにされている特徴と英訳版における対応を、アーニャの分析結果と比較し、両者の共通点と相違点を明らかにした。さらに、それに基づいて、アーニャとナカタさんのアーキタイプとキャラクター言語の関連性を考察し、英訳上の問題点を論じた。

### 7.1. 結論

アーニャの幼女という社会的属性は、その言葉遣いにおける役割語（<幼児語>）的特徴により表現されている。彼女のキャラクター言語的特徴は、【過剰性】と【逸脱性】というキーワードで読み解くことができる。すなわち、役割語の表す幼女という属性を過度に強調したもの、あるいはそれから外れた属性を付加したものが、キャラクター言語的を構成しているのである。日本語版におけるこれらの言葉遣いの特徴は、英訳版においては、英語として不自然にならない範囲で適用するという対応がとられている。英訳版における適用度は、キャラクター言語的特徴よりも役割語的特徴のほうが高いが、それは役割語の言語共同体内での認知度の高さを反映してのことだと推察される。

アーニャとナカタさんの比較では、役割語・キャラクター言語的特徴については共通点と相違点が重層的に存在していることが明らかになった。また、キャラクター言語における【過剰性】と【逸脱性】ならびに英訳版における対応については、アーニャとナカタさんのケースは同様の傾向を示していることがわかった。

アーニャとナカタさんは、物語におけるキャラクターのアーキタイプとしてはトリックスターの性質を共有し、彼らのキャラクター言語が表す独特のキャラクター性はトリックスターのそれであると結論づけられる。

### 7.2. 特異な主要キャラクターの創造の助けに

『SPY×FAMILY』のアーニャと『海辺のカフカ』のナカタさんの言葉遣いの特徴には、多くの興味深い共通点と関連性が観察された。2作品の1名ずつのキャラクターの分析であるため、これをもって「日本語のフィクションにおける特異な主要キャラクターの言葉

遣いとその英訳全般について傾向である」とは到底言えない。しかし、作者・ジャンル・執筆年代等、多くの点で異なる2作品に共通する傾向であるため、一般的な傾向を見出す手がかりの一つにはなるものと思われる。また、共に高い評価と多大な人気を博している作品であるため、これらの言葉遣いの特徴を応用すれば、特異な主要キャラクターの言語を効果的に構築することができそうである。「異能与ハンディキャップの二面性」、「コミックリリーフ的要素とストーリーの牽引力」などのトリックスターの性質を持つキャラクターを創造し、そのキャラクターの人物像を役割語で描写した上で、【過剰性】と【逸脱性】を加味し、属性を過度に強調する、あるいはそれから外れた属性を付加することにより、そのキャラクターにふさわしいキャラクター言語を創り出すことができるのではないだろうか。

### 7.3. 今後の課題

本研究は、日本語原文と英訳文を非英語母語話者である筆者が対照分析した見解に基づくため、英語母語話者ならではの気づきや意見が反映されていない。また、翻訳者の意図とは異なる推察が行われている可能性も少なからずある。今後は本研究を発展させ、

『SPY×FAMILY』の翻訳者 Casey Loe 氏へのインタビューや、英語母語話者を対象としたアンケートを実施し、知見を広げ考察を深めたい。

また、本研究はわずか2作品中の1名ずつのキャラクターの分析であるため、その結果により一般的な傾向を見出す手がかりの一つを提示したに過ぎない。日本語のフィクションにおける役割語・キャラクター言語に特化した翻訳上の問題を取り上げた先行研究は、文学作品についても多くはなく、マンガ作品ではさらに少ないため、今後はマンガ作品における役割語・キャラクター言語翻訳のケーススタディを増やすことに努めたい。また、本研究のようなマンガ作品と文学作品の比較研究も並行して行い、日本のマンガ作品の翻訳の質の向上とさらなる国際化に貢献することを目指したい。

#### 資料文献

- 遠藤達哉 (2019a) 『SPY×FAMILY <1>』 東京: 集英社.
- 遠藤達哉 (2019b) 『SPY×FAMILY <2>』 東京: 集英社.
- 遠藤達哉 (2020a) 『SPY×FAMILY <3>』 東京: 集英社.
- 遠藤達哉 (2020b) 『SPY×FAMILY <4>』 東京: 集英社.
- 遠藤達哉 (2020c) 『SPY×FAMILY <5>』 東京: 集英社.
- 遠藤達哉 (2020d) 『SPY×FAMILY <6>』 東京: 集英社.

遠藤達哉 (2021) 『SPY×FAMILY』 第 40 話

<https://shonenjumpplus.com/episode/13933686331802605789>. (Accessed: 2021-01-25).

村上春樹 (2002a) 『海辺のカフカ <上>』 東京: 新潮社.

村上春樹 (2002b) 『海辺のカフカ <下>』 東京: 新潮社.

Endo, T. (2020a) *SPY x FAMILY, Vol. 1* (C.Loe, Trans.). San Francisco: VIZ Media.

Endo, T. (2020b) *SPY x FAMILY, Vol. 2* (C.Loe, Trans.). San Francisco: VIZ Media.

Endo, T. (2020c) *SPY x FAMILY, Vol. 3* (C.Loe, Trans.). San Francisco: VIZ Media.

Rowling, J. K. (1998) *Harry Potter and the Chamber of Secret*. London: Bloomsbury Publishing.

### 参考文献

イーヴァソン房枝 (2019) 「マンガに現れるヴァーチャル表記—日本語表記の特徴を生かした表現効果—」 M.Shimotori and F.Ivarsson (Eds.). *Kawauso: simmandes i språkströmmen*. Göteborg: Göteborgs universitet.47-70.

岡崎友子・南 侑里 (2011) 「役割語としての『幼児語』とその周辺」 金水 敏 (編) 『役割語研究の展開』 東京: くろしお出版 195-212.

金水 敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割後の謎』 東京: 岩波書店.

金水 敏 (2007) 「近代日本マンガの言語」 『役割語研究の地平』 東京: くろしお出版 97-107.

金水 敏 (2014) 『<役割語>小辞典』 東京: 研究社.

金水 敏 (2016) 「役割語とキャラクター言語」 金水 敏 (編) 『役割語・キャラクター言語研究 国際ワークショップ 2015』 私家版 大阪大学大学院文学研究科 5-13.

金水 敏 (2017) 「言語—日本語から見たマンガ・アニメ」 山田奨治(編) 『マンガ・アニメで論文・レポートを書く—「好き」を学問にする方法—』 ミネルヴァ書房 239-262.

金水 敏 (2018a) 「小説における仮名の一用法と翻訳—村上春樹作品を例に—」 『ことばと文字』 編集委員会 浜田盛男・茅島篤・青山文啓・河路由佳 (編) 『ことばと文字』 10: 83-89.

金水 敏 (2018b) 「【抜粋】 キャラクターとフィクション—宮崎駿監督のアニメ作品, 村上春樹の小説を ケーススタディとして—」 金水 敏 (編) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』 大阪大学 3-9.

金水 敏 (編) (2018) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』 大阪大学.

金水 敏 (編) (2019) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (2)』 大阪大学.

- 公益財団法人母子衛生研究会 (2015) 『子どもの成長・発達：一人ひとりの子どものために成長曲線を描こう』 第2版 [https://www.fgs.or.jp/pdf/11\\_booklet/305\\_booklet.pdf](https://www.fgs.or.jp/pdf/11_booklet/305_booklet.pdf) (Accessed: 2020-12-30).
- 守 秀子 (2015) 「幼児期の自称詞使用に関する実態調査」 『文化学園長野専門学校研究紀要』 7: 15-28.
- 山木戸浩子 (2018) 「日本語の文学作品における言語変種の英語翻訳-□村上春樹 (著) 『海辺のカフカ』 ナカタさんの話し言葉から考える-」 『通訳翻訳研究への招待』 19: 1-21.
- 山木戸浩子 (2019) 「ナカタさん(『海辺のカフカ』)の変わった話し方は英語でどのように翻訳されるのか」 金水敏 (編) (2019b) 『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書(2)』 大阪大学 18-50.
- 山口治彦 (2007) 「役割語の個別性と普遍性 一日英の対照を通して」 『役割語研究の地平』 東京：くろしお出版 9-25.
- Kinsui, S. and H. Yamakido (2015) “Role Language and Character Language.” *Acta Linguistica Asiatica* 5(2): 29-41.
- Klingberg, Göte (1986) *Children's Fiction in the Hands of the Translators*. Malmö: Liber/Gleerup.
- Lakoff, R. (1973) “Language and Woman's Place”. *Language in Society* 2 (1): 45-80.
- Ordbok (Accessed: 2021-01-30).
- Picone, M. D. (2016) “Eye dialect and pronunciation respelling in the USA” in Vivian Cook and Des Ryan (eds.) *The Routledge Handbook of the English Writing System*. Abingdon/New York: Routledge, 331–346.
- Rickford, J and R. Rickford (2000) *Spoken Soul: The Story of Black English*. New York: John Wiley & Sons.
- Vogler, C. (2007) *The Writers Journey: Mythic Structure for Writers*. Studio City: Michael Wiese Productions.
- Walpole, J. R. (1974) “Eye Dialect in Fictional dialogue”. *College Composition and Communication*, 25 (2): 191-196.

# 『1Q84』のふかえりによる日瑞訳の話し方について

Sven Sebastian Lindskog

(大阪大学)

## 1 はじめに

本稿の目的は、『1Q84』で登場する深田絵里子（通称「ふかえり」）という少女の話し方を分析することである。村上春樹作品の中に特有の話し方を持つキャラクターが多く出現し、以前の研究<sup>1</sup>では『海辺のカフカ』のナカタや『騎士団長殺し』の騎士団長というキャラクターの発話分析を行った。ナカタは、自称する際に「ナカタ」を用い、非常に丁寧な話し方をする老人であり、騎士団長は、単数形として二人称代名詞「諸君」や打消しとして「あらない」を用いるキャラクターであり、これらの特徴的な言葉遣いはスウェーデン語においてどのように翻訳されたかを分析した。そして、本稿の分析対象の『1Q84』で登場するふかえりも例外ではなく、彼女の話し方にはさまざまな特徴が見られ、どのような特徴があるかを取り上げたいと考える。ふかえりの特有な言葉遣いは日本語では豊富なバリエーションがあり、多彩な話し方になっているものの、日本語のような豊富な言語のバリエーションを持たないスウェーデン語に翻訳される際に、ふかえりの話し方をどのように訳すべきかは問題となる。そこで、本稿の目的は、原文におけるふかえりの言葉遣いからスウェーデン語にどのように置き換えられているかを分析することである。

## 2 先行研究

リンドソグ（2018）では、村上春樹の『海辺のカフカ』で登場するキャラクターの日本語とスウェーデン語の言語的な相違点・共通点に関する調査を行った。本調査の結果として、一人称代名詞について、日本語と異なり、スウェーデン語では、人称の一致があるため、日本語のように人称代名詞が省略できない場合があるという結論に至った。また、現在のスウェーデン語では、日本のような展開した敬語が存在していないため、『海辺のカフカ』の主人公であるナカタの「丁寧さ」がどのように翻訳されたかを調べる。その結果として、ナカタは、原文と同様にスウェーデン語による翻訳文でも、話し相手との人間関係に関わらず敬語を多用することが明らかになった。スウェーデン語の敬語を表すため、翻訳者は、さまざまな方法を用いた。例えば、現代スウェーデン語では滅多に使用されないものの、ナカタは、ほぼ誰に対してでも敬称

---

<sup>1</sup> リンドソグ（2018）と Lindskog（2019）

*fru/fröken/herr*<sup>2</sup>や、複数二人称代名詞 *ni/er* を単数として多用することが分かった。しかし、原文の話し方と異なり、ナカタは親友のホシノのみにより親しい話し方をする。例えば、ホシノの名前に敬称をつけず、丁寧な二人称代名詞 *ni* の代りに非丁寧な *du* を用いることも分かった。

また、『海辺のカフカ』の翻訳者の一人である Yukiko Duke 氏とのやり取りで、ナカタの話し方を翻訳した際に、どのようにお考えになったかを伺ったところ、Duke 氏は、以下のように答えてくださった。

- (i) (中略) 母と私は、作品を翻訳する際に、できるだけ原文に近い言語に翻訳する。(その所為で、英語版を読んだけど、日本語が話せない方から批判をうけた。スウェーデン語版は、英語版のようにヒップではないから。しかし、日本語話者は、スウェーデン語版は原文に近いと思っている。村上は、アメリカ人が翻訳するようにクールではない。) (中略)

ナカタは、少し古めかしい言葉遣いを用いるが、それは彼の丁寧な話し方の奇妙さに注目するためである。ナカタの話し方の古めかしさ以外、スウェーデン語の新しい敬語を作らず、翻訳した。

『海辺のカフカ』の翻訳者の Duke 氏は、できるだけ原文に近い言語に翻訳したが、日本語が話せない方からかなり批判を受けたと述べている。

Duke 氏が『海辺のカフカ』を翻訳して以来、村上春樹作品の翻訳者は、Vibeke Emond 氏に変わった。Emond 氏は、『1Q84』や『騎士団長殺し』を翻訳しており、Lindskog (2019) では『騎士団長殺し』で登場する騎士団長の話し方を分析した。上記にもあったが、騎士団長の特有な言葉遣いの中で、打消し「あらない」、二人称「諸君」と接続詞の訳し方は特徴的であった。また、騎士団長の話し方について、メールで直接に翻訳者の Emond 氏にお伺いしたところで、以下のように答えてくださった<sup>3</sup>。

---

<sup>2</sup> *Herr* は男性に対して用いる敬称であり、*fru* は既婚の女性に、*fröken* は未婚の女性に対して使う敬称である。

<sup>3</sup> 返事は、執筆者による翻訳である。原文は以下のようなものである。

Jag försöker därför behålla en artighetsnivå som liknar den japanska även om den är mindre vanlig på svenska. I vissa fall använder jag "ni" som tilltal eller "herr" och "fru" i andra fall har jag behållit japanska tilltal som namn + san/sensei/kun/chan etc. Vad gäller kommandörens språk i Murakamis roman ville jag få fram både det gammalmodiga i hans tal (till exempel genom att använda gammalmodiga ord som "ty") och det som var säreget och typiskt för honom och som lät märkligt på japanska också (som till exempel "aranai" som fick bli "ingalunda"). Som du påpekar säger kommandören "ni, mina

(ii) 日本人のキャラクターはどのようなものであるかを示すため、瑞訳では出来るだけ原文の言語を反映させた。原文のキャラクターの言語を反映させるため、スウェーデン語では普段より丁寧な言語を使わせている。場合によって、呼称として *ni* 及び、*herr* か *fru* を使わせたり、たまには日本語の呼称、いわゆる名前+「さん/先生/君/ちゃん」等を残したりした。

騎士団長の言葉遣いについてだが、小説の中で彼の話し方の古めかしいところを強調しながら (*ty* の使用によって等)、騎士団長にとって特有な話し方であり、日本語にも不思議な言葉遣いを示したかった (*ingalunda* となった「あらない」等)。指摘した通り、原文のように、騎士団長は一人の話し相手に向けて *ni, mina herrar* (諸君) を使っており、言葉遣いに特徴を付ける。このような場合ではキャラクターの話し方の奇妙な特徴を残すようにした。騎士団長の言葉を反映するため、なぜこれらの言葉 (*ni, mina herrar*) を選んだかは、覚えていないが、基本的に原文と同じスタイルや表現の仕方に適応させることを試みる。

Emond 氏と Duke 氏の返事で分かるように、村上春樹の作品を訳す際に、原文とできるだけ近い翻訳を試みる理念がある。この理念は、『1Q84』のふかえりの話し方にはどのように反映されているかを明らかにするのが、本稿の目的である。

### 3 調査結果

#### 3.1 原文（日本語）におけるふかえりの特徴

本節では、ふかえりの話し方にはどのような特徴があるかを示す。まずは、『1Q84』の主人公の一人である天吾のふかえりの話し方に関する描写を取り上げる。

---

herrar” i plural när han vänder sig till en enda person, och det är något han gör i det japanska originalet också och som även där låter egendomligt. I sådana fall låter jag det märkliga i en karaktärs sätt att tala vara kvar i översättningen. Jag kommer inte exakt ihåg nu hur jag valde ord som skulle återge just kommandörens sätt att tala men rent allmänt försöker jag anpassa stilnivån och uttryckssätten efter originaltexten.

(iii) 彼女の話し方にはいくつかの特徴があった。修飾をそぎ落したセンテンス、アクセントの慢性的な不足、限定された（少なくとも限定されているような印象を相手に与える）ボキャブラリー。（Q1-1-107<sup>4</sup>）

「センセイでショウセツを書いている」とふかえりは言った。どうやら天吾に向かって質問しているようだった。疑問符をつけずに質問をするのが、彼女の語法の特徴のひとつであるらしい。（Q1-1-109）

上記の描写によると、ふかえりの特徴として「修飾をそぎおとしたセンテンス」「アクセントの慢性的な不足」と「限定されたボキャブラリー」があり、「疑問符をつけずに質問をする」も大きな特徴となっている。ふかえりの話し方には、さまざまな特徴的があり、以下の（1-3）の下線部はその一つの「アクセントの慢性的な不足」の用例である。

(1) 「センセイでショウセツを書いている」（Q1-1-109）

(2) 「セキブンのはなしはおもしろかった。」（Q1-1-110）

(3) 「センセイがいつもきいている」（Q1-1-111）

本小説では、アクセントの不足の用例の一つとして、本来漢字で記された言葉は片仮名表記で表されることが取り上げられる。上記の用例のように、漢字語彙は、アクセントの不足の主な代表者となっており、このような片仮名表記は、他の村上春樹の作品にも見られる。用例として『海辺のカフカ』が取り上げられ、片仮名表記は発話者の言葉に対する理解度と繋がっている。本小説のナカタという老人は、片仮名表記の言葉を多用し、彼の言葉への不理解を表わす。そこで、上記のふかえりの話し方も「限定されたボキャブラリー」があるとされているので、片仮名表記はふかえりの言葉への不理解を表わすと考えられる。そして、小説の話が進むにつれ、ふかえりは、ディスレクシアの持ち主であり、読み書きは困難だと明らかになるので、語彙の不理解を表わす方法として漢字語の片仮名化や発言全体の平仮名化で表せると考えられる。

また、ふかえりの話し方には、用例（1）の「書いている」のような漢字表記が少し見られるものの、一つ以上の熟語のような言葉となれば、基本的に片仮名で表記される。また、ふかえり

---

<sup>4</sup> 107 はページ番号を表わし、『1Q84』は三部作であるので、Q1 はその一冊目という意味を表わしている。更に、『1Q84』の文庫本版には前編（1）と後編（2）もあるので、Q1 の後に記されている 1 とは、「前編」を意味しており、「後編」は 2 と記す。



のアクセントの不足をさらに強調するため、用例 (2-3) で見られるよう、形容詞「おもしろかった」や動詞「きいている」は単に平仮名で表記されることが多い。

ふかえりのもう一つの大きな特徴として「疑問符をつけずに質問をする」言葉遣いがある。以下の用例 (4) のように「どうして」の疑問詞が使われているものの、質問をしているのに疑問符が付けられていない。

#### (4) 「どうしてショウセツをかく」 (Q1-1-113)

小説を読む読者として「疑問符が付けられて」いないことが分かりやすいものの、「疑問符をつけずに質問をする」ことが実際に聞いている方 (以上の用例の天吾等) にとって分かりかねると考えられる。ふかえりは、「か」や「の」のような疑問の助詞の使用も非常に少なく、上記にも取り上げた「どうやら天吾に向かって質問しているようだった」という文章は何に指しているのだろうか。可能性として、普段の日常会話では「の」や「か」の疑問詞を用いない際に、文末の音調をより高く強調するものの、ふかえりの話し方には「アクセント不足」があるという設定になっているので、恐らく同じ音調を保つため、質問をしていることが分かりにくいと考えられる。

イーヴァソン (2019:53) は、用例として大人と子供の会話を取り上げ、大人のキャラクターは「主婦」と発言し、子供のキャラクターは答えとして「しゅふってなに」を出す。イーヴァソン氏は前述の発言について、「しゅふってなに」には幼児語の音声的な特徴である語音の省略・置換・付加・倒置等が一切含まれておらず、日本語の発音として誤りなく記載されているが、一読して、幼児のあどけない音声とたどたどしさを持った発話であるかのような印象を受ける読者が多いのではないだろうかと述べる。子供キャラクターの発言が平仮名化されているのは、語に対する理解度に繋がっていると考えられる。前述通り、ふかえりも「限定されたボキャブラリー」を持ち、言葉遣いが限定されているので、平仮名化され、彼女の話し方の幼稚さを強調すると考えられる。

### 3.2 スウェーデン語版におけるふかえりの特徴

原文のふかえりの話し方は特有であることは、前節の用例で分かる。ふかえりの奇妙な話し方に大きく貢献していることの一つは、文章の全体が平仮名化しているからである。イーヴァソン (2019:48) が述べるように、基本的に漢字仮名混じり文で書かれる日本語の文章を読みこなすには、まず平仮名 46 字・片仮名 46 字および仮名遣いのルールをマスターしなければならない。それに加えて、2000 を超える漢字を学びつつ、内容語 (名詞、動詞・形容詞の語幹等) は主に

漢字で、機能語（助詞、活用語尾等）は平仮名で、外来語は片仮名で書く、といった混交の基本ルールを身につけなくてはいけないとも述べる。また、レベルが進むにつれ、文脈や想定読者層に応じた使い分けへの対応も必要になり、*cherry tree*や*cherry blossom*等を意味する/sakura/という語を書く際、一般的な文脈では漢字で「桜の名所」、理系寄りの文章では片仮名で「サクラの品種改良」、幼児向けの絵本では平仮名で「さくらがさいた」というような書き分けが、日常的に行われているとイーヴァソン氏が述べる。日本語は、三種類の文字表記で成り立っており、文字の組み合わせによってさまざまな効果を生み出せる。ふかえりの発言を平仮名のみで表す効果として、言葉遣いはやや幼稚的なキャラクターに見える効果を生み出す。しかし、スウェーデン語を含めての西洋語は、基本的にローマ字で記されるので、ふかえりの幼稚的さを日本語のように表すことが出来ない。そこで、ふかえりの特徴的な話し方を表わすのに、別の方法を使わなければならない。その方法は、スウェーデン語版の『1Q84』では以下の(5-6)のように表現されている。

(5) Du pra-ta-de om in-te-gra-ler som nåt vik-tigt. (Q1-74)

(6) A-za-mi. (Q1-149)

用例(5)を見れば、スウェーデン語版のふかえりの話し方に視聽的な特徴を与えるため、翻訳者は、ふかえりを音節的に話させていることが分かる。その音節的な話し方の効果を生み出すため、音節の間に「-」（ダッシュ）が挿入されている。用例(6)のような音節文字を使う日本語の名前（固有名詞）等が使われる際に、ふかえりによる音節的な発音がより明らかになる。

「-」が挿入されている結果として、ふかえりはまさに拍子を取っており、話すテンポも遅く感じる。彼女のアクセント不足が強調されると考える。

しかし、ふかえりの話し方は、ほぼ視覚的に「-」のみで表されているので、彼女の特徴的な話し方が伝わらない時もある。例えば、以下の用例(7)のように一音節の語彙が用いられているなら、ふかえりの話し方には、特徴があまり無さそうに感じており、まさに標準語を使っているように見える。日本語版では以下の用例は「じゃあ、なにかホンをよんで」となっており、ふかえりの単純な話し方は、言葉の平仮名/片仮名化の働きで上手く表されているものの、スウェーデン語版では語彙は短いほどにその特有さが失われる。

(7) Läs nån bok då. (Q1-371)

以上の発言のような「ー」が入らない短い（一音節）言葉が使われるほど、ふかえりの特徴的な話し方を生かすこともより困難になり、他のキャラクターの言葉遣いとの区別をつけにくいと考える。

### 3.3 日瑞訳におけるふかえりの例外的な言葉遣い

原文の『1Q84』では、ふかえりの普段の話し方から外れた例外的な言葉遣いもあり、スウェーデン語版にもその言葉遣いが反映されている。例えば、以下の（8）の個所は日瑞訳では同じであり、特に日本語版では印象的であるため、日訳からの用例を取り上げる。

#### （8）Buß und Reu'

Buß und Reu'  
Knirscht das Sündenherz entzwei  
Buß und Reu'  
Buß und Reu'  
Knirscht das Sündenherz entzwei  
Knirscht das Sündenherz entzwei  
Buß und Reu'  
Buß und Reu'  
Knirscht das Sündenherz entzwei  
Buß und Reu'  
Knirscht das Sündenherz entzwei  
Daß die Tropfen meiner Zähren  
Angenehme Spezerei  
Treuer Jesu, dir gebären (Q1-2-125-126)

本用例ではふかえりはドイツ語でバッハの *Buß und Reu*（『マタイ受難曲』）を歌っている。ドイツ語自体は、ローマ字で記されており、ふかえりの完璧な発音を表わしており、日本の普段の表記文字とかなり異なるので、その異常に完璧な発音がさらに強調される。

上記通り、ふかえりは、ディスレクシアがあり、ドイツ語の意味はどれほど通じているかは不明であるものの、記憶力が強いようで、何回も聞いたおかげで外国語で歌われる歌の歌詞まで覚えらる。また、スウェーデン語版は、元々ローマ字で記されているので、ふかえりの発言はローマ字で表わせることが特別な意味を持たない。しかし、上記の通りにふかえりの特有な話し方

を表わすのに、音節の間に「-」が挿入されているものの、歌には「-」が使われていないので、結果としてスウェーデン語版のふかえりは、まさに標準的に話して（歌って）いるように見える。

続いて、ふかえりの尋常以上の記憶力がさらに強調されるのは以下の用例（9）で見られる。本用例のふかえりは、カセットテープで暗記した『平家物語』の「壇ノ浦の合戦」からの読み上げを行っている。下記は、ふかえりの通常の発言と異なり、言葉遣いは平仮名/片仮名化をしていないことが分かる。

(9) 源氏のつはものども、すでに平家の舟に乗り移りければ

水手・梶取ども、射殺され、切り殺されて

舟をなほすに及ばず、舟底に倒れ臥しにけり。

新中納言知盛卿、小舟に乗って、御所の御舟に参り

「世の中は今はいかうと見えてさうらふ。見苦るしからんものども

みな海へ入れさせ給へ」とて、ともへに走りまはり、掃いたり、のごうたり

塵ひろひ、手づから掃除せられけり。

女房たち、「中納言どの、戦はいかにや、いかに」と口々に問ひ給へば

「めづらしき東男をこそ、ごらんぜられさうらはんずらめ」とて

からからと笑ひ給へば、「なんでうのただいまのたはぶれぞや」とて

こゑごゑにをめき叫び給ひけり。（省略<sup>5</sup>）（Q1-2-235-238）

---

<sup>5</sup>二位殿は、このありさまをご覧じて、日頃思し召しまうけたることなれば

鈍色にぶのふたつぎぬうちかづき、ねりばかまのそば高くはさみ

神璽しんしをわきにはさみ、宝剣しゅしょうを腰なさし、主上をいだきたてまって、

「我が身は女なりとも、かたきの手にはかかるまじ。

君の御もとに参るなり。おんこころざし思ひまゐらせ給はん人々は

急ぎ続き給へ」とて、舟ばたへ歩みいでられけり。

主上、今年は八歳にならせ給へども

御としのほどより、はるかにねびさせ給ひて

御かたちうつくしく、あたりも照り輝くばかりなり。

御くじ黒うゆらゆらとして、御背中すぎさせ給へり。

あきれたる御さまにて、

用例（9）の大きな特徴として発言は、古い資料の読み上げであるので、古典日本語で唱えられていることが取り上げられる。下線部で引いた言葉は、古典日本語の選抜であり、ふかえりは普段使わない言葉遣いである。例えば、用例としてさまざまな文法的な古典日本語が使われ、「<sup>たは</sup>倒れ<sup>ふ</sup>臥しにけり」では用言の連用形に付く「けり」という過去の助動詞や「入れさせ給へ」の「給へ」という「与える」「くれる」の意の尊敬語で、その動作の主を敬う補助動詞等も見られる。更に、現代の日本語で使われておらず、『国語学大辞典』の項目によると「文中の連用語をうけ、その被修飾語である述語用言との結び付きを強める」の「こそ」という係助詞も見られる。他の用例も多数あるものの、ふかえりは、完璧に古典日本語を唱えている自体は、特有的で記憶力の素晴らしさを示していると考えられる。しかし、普段の話し方と大きな相違点がある。例えば、ふかえりは「たはれふしにけり」ではなく、「倒れ臥しにけり」と発言し、言葉遣いは平仮

---

「尼<sup>ぜ</sup>、われをばいづちへ具してゆかむとするぞ」とおほせければ

いとけなき君にむかひたてまつり、涙をおさへて申されけるは

「君はいまだしろしめされさぶらはずや。

<sup>ぜんぜ</sup>先世の十 <sup>じゅうぜんかいぎょう</sup>善戒行の御ちからによって、

<sup>ばんじょう</sup>いま万乗のあるじと生まれさせ給へども、悪縁にひかれて  
御運すでに尽きさせ給ひぬ。

<sup>ひんがし</sup>まづ東にむかはせ給ひて

伊勢大神宮に御いとま申させ給ひ

そののち西方浄土の来迎<sup>らいこう</sup>にあづからむとおぼしめし、  
西にむかはせ給ひて御念仏さぶらぶべし。

この国は粟散<sup>そくさむへんじ</sup>辺地とて、こころうきさかひにてさぶらへば  
極楽浄土とてめでたきところへ具しまゐらせさぶらふぞ」

となくなく申させ給ひければ、

<sup>やまばと</sup>山鳩色の御衣に、びんづらゆはせ給ひて

御涙におぼれ、ちいさく美しき御手をあはせ

まづ東をふしをがみ

伊勢大神宮に御いとま申させ給ひ

その後西にむかはせ給ひて、御念仏ありしかば

二位殿やがていただき奉<sup>たてまつ</sup>り、「浪の下にも都のさぶらふぞ」と  
なぐさめたてまつて、ちいろの底へぞ入給ふ。

名化していないことが分かる。また、上記の (1) の「ショウセツ」のように、漢音言葉は、基本的に片仮名化する傾向があり、彼女の奇妙な発音を表わす方法の一つとして使われるものの、以上の用例ではその方法は全く用いられていないので、彼女の完璧な発音を表わしていると考えられる。更に、ふかえりの言葉遣いとして、基本的に短い発言をしたり、一言で答えたりするものの、以上の用例は読み上げだからか、ふかえりにしては非常に長い発言である。ふかえりの読み上げを聞いている主人公の天吾は、彼女の話し方について以下のように述べる。

(iv) 目を閉じて彼女の語る物語を聞いていると、まさに盲目の琵琶法師の語りに耳を傾けているような趣があった。『平家物語』がもともとは口承の叙事詩であったことに、天吾はあらためて気づかされた。ふかえりの普段のしゃべり方は平板そのもので、アクセントやイントネーションがほとんど聞き取れないのだが、物語を語り始めると、その声は驚くほど力強く、また豊かにカラフルになった。まるで何かが彼女に乗り移ったようにさえ思えた。

(Q1-2-238)

ふかえりは、『平家物語』からの読み上げが終わると、普段の話し方に戻る。しかし、ふかえりは、恐らく普段の日常会話等にあまり自信がないため、ほぼ一言で喋っているものの、以上のバッハや『平家物語』の読み上げに大きな自信を持っているので、古典日本語や外国語まで完璧に覚えられると考える。

スウェーデン語版では、同じ箇所は以下のようなものである。特に注目したいところに下線部を引いた。

(10) Då Minamotoklanens mannar äntrade Tairaklanens skepp, blevo båtsmän och befälhavare dräpta av pilar eller hugna till döds, skeppen drevo vind för våg, och ombord lågo männen fallna.

Den nye mellerste rådgivaren Tomomori steg i en liten båt och begav sig till det kejserliga skeppet.

” Slik ter sig världen nu. Kasta dem som plågar vår syn överbord!” sade han, varpå han hastade omkring på skeppet och med egna händer begynte sopa, putsa, damma och röja upp.

Damerna ropade i mun på varandra: ” Ers excellens, Mellersta Rådgivare, hur avlöper slaget?”

” Nu skola ni få bekanta er med förunderliga män från öst” , sade han med ett rungande skratt.

” Hur kan Ers Excellens behaga skämta i en slik belägenhet?” ropade damerna högröstat om varandra.

Nunnan av andra rang var sedan åtskilliga dagar beredd på att denna dag skulle stunda. Hon svepte om sig sin dubbla dräkt med kåpa i sorgens mörkgrå färg, rullade upp benkläderna av blanksiden och med den heliga juvelen vid sin sida samt det heliga svärdet vid höften slog hon sina armar om Hans Kejsrerliga Höghet.

” En kvinna jag är, dock ämnar jag ej falla i fiendens hand. Jag går med Hans Höghet. Ni som hava samma vilja, följen mig skyndsamt” , sade hon och gick mot skeppets reling. (省略<sup>6</sup>) (Q1-371-373)

原文の日本語は、非常に古典的であり、スウェーデン語版は、その古典的な言語を反映するためにさまざまな手段を使っている。また、『平家物語』の正確な成立時期は知られていないものの、恐らく13世紀に成立され、用例(9)で見たように、古典日本語で記されている。しかし、スウェーデン語版は古典言語をあまり使っておらず、現代スウェーデン語と廢れている言葉遣い

---

<sup>6</sup> Hans Kejsrerliga Höghet var åtta år, dock tedde han sig långt mognare än vad som brukligt var i hans ålder. Han var vacker som en dag, och allt kring honom glänste. Hans böljande svarta hår räckte honom nedanför skuldrorna. Ängsligt sporde han: ” Ack, mormor, vart för ni mig?”

Nunnan av andra rang vände sig mot hans höghet, gossebarnet, och kvävde sina tårar. ” I din ringa ålder kan du väl ännu ej förstå det. Du föddes till ädel kejsare, tack vare hur du i livet före detta iakttog de tio buden, dock har ett ont karma nu ändat detta öde. Vänd dig först mot öster och tag avsked av Ises helgedom. Sedan åt väster med en bön till Buddha att han må föra dig till paradiset rena land i väst. Vårt land, som kallas det avsides lilla landet, har varit svårt att leva i, nu skola vi dock följas åt till det saliga paradiset” , sade hon med gråt i rösten.

Klädd i grågrön dräkt, och med håret samlat på ynglingars vis, knäppte Hans Höghet sina vackra, små händer, och med tårarna tillrande vände han sig först mot öst och tog avsked av Ises helgedom, därefter åt väst med en bön åt Buddha.

Nunnan av andra rang höll Hans Höghet i sin famn, och efter hennes tröstande ord: ” Under vågorna finns också en huvudstad” , sjönko de tillsammans ner i djupet.

の併用が見られる。13世紀初期のスウェーデン語は、まだルーン文字を使っており、1225年にキリスト教を通してローマ字が紹介されたものの、現代スウェーデン人にとって非常に難しく、あまり読めない言語なので、以上の用例で使われていないと考えられる。そこで、読みやすさのため、現代スウェーデンが主に使われ、古めかしい雰囲気を与えるため、古語的な要素が追加されていると考える。

古語的な要素として、下線部のような *blevo/drevo/lågo* が用いられている。これらの動詞は、古語の過去形を使用し、Bergman (2013:109) が述べるように、16世紀では動詞の複数過去形を表わすのに *-o* が語末に追加された。現代スウェーデン語では動詞の複数形が使われておらず、上記の語彙は一般的に *blev/drev/låg* のように記される。

命令表現の複数形も現れており、現代で使われている *följ* は古語的な *följen* (日本語の「急ぎ続き給へ」からの翻訳) に訳されており、*-en* が語末に追加されていることで複数形となっているものの、現在では命令表現の複数形が使われていない。命令形に *-en* 付きは16世紀の聖書等で見られ、Bergman (2013:92) は、その使用について1526年新約聖書の〈聖書語〉と〈官庁ことば〉の共通点もあり、Lukas 23 r. 32 f. で分かるように複数二人称の命令形は、*-er* (*gråter icke*) で終わり、より古い語尾の活用形 *-en* (*gråten icke*) は新約聖書で使われたと述べる。語末の *-en* 付きは、古い起源を持つと考えられるものの、現在に使われている文法形に似ているので、現代スウェーデン人が読める範囲に入っている。

言葉の面でも、古めかしい語彙や語形が使用されている。例えば、以上の用例では「そのような」という意の *slik* (現在は *sådan*) が使われている。『スウェーデン辞書』の項目によると、*slik* は、13世紀に起源を持ち、現代では古語として扱われる言葉である。

続いて、スウェーデン語では主に動詞の中で会話言葉的な短い形式と書き言葉的な長い形式の言葉がある。長い形式は、会話で短い方より使用が少ないものの、上記の用例では短い形式の *ha* ではなく、長い *hava* が用いられているので、少し書き言葉で、古語的な印象を与える。

文章を古語的にするのに、もう一つの方法として倒置文を発話者に使わせる用例もある。上記の下線部には *En kvinna jag är* (女だ、私は) という発話があるものの、このような言葉遣いは、かなり劇的であり、一般的な会話では ~~*En kvinna jag är*~~ → *Jag är en kvinna* (私は女だ) のようになるので、翻訳に古い雰囲気を与える。

上記のように日本語の古典を反映するために、古語的な要素が使われている上で、両訳にはふかえりの話し方の普段と変わっている要素をうかがえる。例えば、ふかえりの話し方にはほぼ常に現れる「-」が上記の用例で見られず、原文と同じくより標準的な発音の仕方に見える。ふかえりの話し方は普段「修飾をそぎ落したセンテンス、アクセントの慢性的な不足、限定されたボキ



ャブラリー」であるものの、上記の用例の両訳もそれぞれの方法で彼女の「修飾あるセンテンス、アクセント付き、豊富なボキャブラリー」を表わしていると考えられる。

## 4 終わりに

ふかえりの話し方の特徴として「修飾をそぎおとしたセンテンス」「アクセントの慢性的な不足」「限定されたボキャブラリー」や「疑問符をつけずに質問をする」があり、日瑞訳ではそれぞれの方法で表された。

日本語は、文字のさまざまな表記法を持っているので、村上春樹は、ふかえりの非標準的な発音を表わすのに、平仮名や片仮名の表記を利用したと考える。例えば、ふかえりの話し方には漢字があまり用いられておらず、動詞は基本的に「聞いている」ではなく「きいている」のように表記されることが多く<sup>7</sup>、熟語は「センセイ」（先生）のような片仮名表記で記されていた。平仮名と片仮名が多用されることで、ふかえりの話し方に少し幼稚的な印象を与えたと考えられる。

スウェーデン語は、文字表記としてローマ字しか使わないので、日本語版のようにふかえりの特徴的な言葉遣いを上手く表せない。その代わりに、ふかえりの発言の中に使用されるそれぞれの言葉の音節の間に「ー」（ダッシュ）が挿入された。また、「ー」挿入のことでふかえりは、話す際に、まさに拍子をとっているように見えたと考える。しかし、一音節語が多用された文章では「ー」を挿入できず、ふかえりの特徴的な話し方を表わせない用例もあったので、ごく普通のスウェーデン語を話しそうに見えた用例があった。

ふかえりの素晴らしい記憶力を示す用例もあった。例えば、ふかえりは、完璧なドイツ語でバッハの *Buß und Reu* を歌う場面があり、彼女の普段の話し方に現れる特徴を見出せなかった。また、外国語だけではなく、古典日本語も完璧に唱えられることが分かった。ふかえりは、『平家物語』の「壇ノ浦の合戦」からの読み上げを行い、普段の話し方の相違点として、文章は平仮名/片仮名化しておらず、漢字も多用され、普段の一言は長い発言に変更されていた。

スウェーデン語版のふかえりは、古典スウェーデン語を用いなかったものの、現代語と古語が組み合わせられ、結果として言葉遣いに古めかしい雰囲気を与えた。

『1Q84』の翻訳者は、原文のふかえりの話し方を反映させてみて、結果はさまざまであった。「ー」の挿入で彼女は普通の話し方をしないことが十分に伝わったものの、「ー」を使えないところもあったので、その機能を果たせないことがあった。しかし、『平家物語』の読み上げで、

---

<sup>7</sup> 「書いている」のような漢字で表せる例が的な場合もあったが、平仮名表記より少ない。

ずっと用いられた「一」が急になくなると、ふかえりはまさに普通のように話すことを上手く表現できたと考える。

### 参考資料

村上春樹 (2009) 『1Q84 BOOK 1 〈4月 - 6月〉前編 (1)』新潮文庫

村上春樹 (2009) 『1Q84 BOOK 1 〈4月 - 6月〉後編 (2)』新潮文庫

Murakami, Haruki (förf.) (2009), Emond, Vibeke (övers.) (2011), *1Q84 FÖRSTA BOKEN*, Falun

### 参考文献

イーヴァソン房枝 (2019) 「マンガに現れるヴァーチャル表記～日本語表記の特徴を生かした表現効果～」『言語の流れを自由に泳ぐ』Göteborgs universitet

リンドソグ、セバスティアン (2018) 「『海辺のカフカ』のキャラクターのスウェーデン語への翻訳について—村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書」『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』大阪大学大学院文学研究科

Bergman, Gösta 2013, *Kortfattad Svensk Språkhistoria*, Studentlitteratur AB

Lindskog, Sven Sebastian (2019) 「『騎士団長』のキャラクターのスウェーデン語への翻訳の仕方について」『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (3)』金水敏 (編)、大阪大学大学院文学研究科

### インターネット文献

『スウェーデン辞書』 (Svensk ordbok)

- ・ *slik* 項目、<https://svenska.se/so/?id=22267&pz=7> (2021-01-25 確認)
- ・ *hava* 項目、<https://svenska.se/tre/?sok=hava&pz=1> (2021-01-29 確認)

# 『騎士団長殺し』におけるキャラクターの言語表現及び

## 中国語訳の分析について

劉 翔

(大阪大学文学研究科)

### 1 はじめに

『騎士団長殺し』は2017年に新潮社より刊行された村上春樹の最新長編小説である。作品には、「騎士団長」というキャラクターが登場し、奇妙な喋り方をする。例えば、「とても良い質問だぜ、諸君。あたしとは何か？ しかるに今はとりあえず騎士団長だ。騎士団長以外の何ものでもあらない。」(第1部 p. 351。下線は引用者)のような台詞が見られる。このような特徴的な話し方に対して中国の翻訳者はどのような方法や手段を用いて翻訳しているのか、また中国語への翻訳が可能なのかなどは非常に興味深い点である。

本稿では、上記の「騎士団長」のほか、「顔なが」も加え、これらのキャラクターに見られる特徴的な言語表現がどのように中国語へ翻訳されているか、原作における人物像と一致するか、などを役割語<sup>1</sup>・キャラクター言語<sup>2</sup>の観点から考察する。

---

<sup>1</sup>金水(2003)は「役割語」について、以下のように定義している。

ある特定の言葉遣い(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物像(年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

(金水 2003 : 205)

<sup>2</sup> 金水(2016)は、「フィクションの中でキャラクターに割り当てられた特有の話し方を「キャラクター言語」と呼ぶ」ことが提案した。さらに、役割語とキャラクター言語の関係について、「社会的・文化的グループに基づく「役割語」は、キャラクター言語の部分集合と考えることができる。役割語はステレオタイプであるので、言語共同体の成員にその知識が広く共有されており、パターンもある程度限られているが、役割語ではないキャラクター言語は多様なパターンがあり得て、閉じたグループをなすとは言えない」と指摘している。

## 2 先行研究

金水 (2020) は『騎士団長殺し』の「騎士団長」のセリフにおける「あらない」という語法について、日本語史の観点から考察を行い、淵源を探っている。その結果は次の5点にまとめられる。①大槻文彦によって用例の存在が指摘された『おあむ物語』の「あらない」は、「お入りない」を語源に持つ「おりない」であった可能性が高い。②近世浄瑠璃床本に「あらない」の用例が見え、江戸時代、武家に使えた中間らが用いた「奴言葉」のなかで「あらない」も自然に溶け込んでいたと考えられる。このことから書写者には享保19年(1734年)以降であれば、武家にまつわる表現のなかに「あらない」があってもおかしくないという知識が存在したと言える。③神奈川方言において「仕方が無い」という意味である「ショーガンネー」という表現に「あらない」の痕跡が認められ、かつて関東方言に「あらない」という語形が存在していたことをうかがわせる。④徳富蘇峰の重々しい文体の中に「あらない」がしばしば用いられていたことから、近代書き言葉の一現象として「あらない」を認めることができる。⑤木下杢太郎の近代戯曲の中に「あらない」の用例も見られる。これは木下が創作した表現で、古風でエキゾチシズムを感じさせる表現として採用したものと考えられる。文章の最後に、村上春樹氏が騎士団長の「あらない」をどのように着想したかという点について、近代以降の用例からこの語形の存在に気づき、小説に採用したとする仮説が最も蓋然性が高いと結論付けている。

また、Sven Sebastian Lindskog (2020) は、『騎士団長殺し』のスウェーデン語訳について考察を行った。スウェーデン語版の台詞は日本語の敬語システムに影響されていることや、翻訳者が翻訳するときに「騎士団長」の話し方を古めかしく感じさせるために採った方法についても述べた。

しかし、『騎士団長殺し』の中国語訳についての研究はまだ行われていないようである。本稿では、日本語と中国語の言語的特徴の違いも視野に入れて、原作にみる役割語・キャラクター言語の中国語への訳し方を考察する。

## 3 調査方法

原作から役割語・キャラクター言語にみられる特徴的な会話文を抽出し、それに対応する中国語訳文の表現を対照しながら分析を行う。考察する際、日本語側は主に「人称代名詞」「文末表現」に注目する<sup>3</sup>が、中国語側は言語構造などに違いがあるため台詞全体を見ることにする。

---

<sup>3</sup> 日本語の役割語にとって特に重要な指標は、人称代名詞またはそれに代わる表現、および文末表現である。(金水 2003: 205)

なお、中国語訳文の分析にあたっては、簡体字版（中国大陸版）の林少華氏の翻訳（《刺杀骑士团长》，2018，上海訳文出版社）を使用する。林少華氏は中国の著名な学者であり、翻訳家でもある。特に村上春樹作品の翻訳者として多くの人々に知られ、中国で最も人気のある作家の一人であると言われている。林氏の優美な筆致は特に中国の若者に歓迎され、氏の訳本を通して村上春樹作品を好きになった読者も少なくない。1989年に『ノルウェイの森』を翻訳してから、『騎士団長殺し』は林少華氏が翻訳した42作目の村上春樹作品となり、2018年3月に訳本が発売されて以来、多くの中国人読者の注目を集め、初版発行部数は70万部に達した<sup>4</sup>。

次に、作中の登場人物における発話の特徴及び訳し方を考察していく。

## 4 考察

### 1) 騎士団長(アイデア)

騎士団長の姿については小説の地の文で描写されている。「60センチばかり」の身長で、「古風な伝統的な衣装」を着ていて、「腰には柄に飾りのついた長剣」を帯びていて、全体的に「飛鳥時代の貴族階級」の格好をしている。一人称は「あたし」、二人称は「諸君」を単数形<sup>5</sup>として使用する。免色に対して「免色くん」か「免色氏」と呼んでいる。発話全体は非丁寧体の「だ」体を用い、文末には「ぜ」「ん」「～おる」などのものがあるが、最も特徴的なのは「あらない」という語形の使用である。

騎士団長の特徴的な言語表現及びその中国語訳を下記の表1にまとめた。

---

<sup>4</sup>徐晗溪「翻译家林少华谈文学翻译：如影随形，曲尽其妙」中国作家网，2018年04月18日。http://www.chinawriter.com.cn/n1/2018/0418/c405057-29932937.html

<sup>5</sup> 複数の場合は「諸君たち」「諸君ら」を用いる。それぞれ中国語の「诸君们」、「诸君等」と訳されている。例えば：①諸君たちがここでおこなっておることは、悪いとは思いますが、残らず見物させてもらっている。（第1部 p. 361）

訳文：諸君们在此的所作所为——抱歉——我从头到尾——看在眼里（第1部 p. 267）

②諸君らがあたしを地下の場所から出してくれた。（第2部 p. 305）

訳文：諸君等把我从地下场所放了出来。（第2部 p. 221）

表 1 騎士団長(アイデア)

	日本語	中国語訳	補注
一人称	あたし	我	
二人称	諸君 (複数「諸君たち」、「諸君ら」)	诸君 (「诸君们」、「诸君等」)	*例：①諸君たちがここでおこなっておくことは、悪いとは思いますが、残らず見物させてもらっている。(第1部 p. 361) ②諸君らがあたしを地下の場所から出してくれた。(第2部 p. 305)
呼称	～くん/氏	～君/氏	*例：「免色くん」、「免色氏」
打ち消し	～あらない	无有	*「～ではあらない」の場合、「不是/并非」と訳している
文末表現	だ、ぜ、ん、よ、ね、おる…	φ、哟、嘛…	*基本的に訳されないが、まれに「哟」「嘛」のような語気助詞を当てて訳す
四字成語・熟語	φ	面面相觑、不可或缺…	
古語・文語的な語彙	φ	乃(乃是)、孰、也、故而、何以、盖因、纵然…	

以下、騎士団長の話し方の具体例を示す。下線は引用者による。

#### ①人称代名詞、呼称及び文末表現

- (1) 「[…] ほら、あらないだろう？だらだら血を流しながら歩き回るのは、あたしとしてもいささか面倒だし、諸君にもさぞや迷惑だろうと思うんだ。[…]」(第1部 p. 349)

訳文：“[…] 喏，无有吧？拖拖拉拉流着血到处走，对于我也多少是个麻烦，对诸君想必也伤脑筋。[…]” (第1部 p. 258)

- (2) 「…」おまけに免色氏はご親切にもあたしを夕食会にまで招待してくれよった  
(第1部 p. 353)  
訳文：「…」而且被免色氏好意请去参加晚会。(第1部 p. 261)
- (3) 「諸君はこれから免色くんに電話をかけ、火曜日の夜の招待はまだ有効かどうかを確かめなくてはならない。…」(第1部 p. 363)  
訳文：“诸君必须这就给免色君打个电话，确认星期二晚上的招待还是否有效。…” 第1部 p. 268)
- (4) 「ああ、本物の剣だぜ」と騎士団長は私の心を読んだように言った。(第1部 p. 348)  
訳文：“啊，是真正的剑！” 骑士团长仿佛读懂我的心思。(第1部 p. 257)
- (5) 「あたしは何も絵の中から抜け出してきたわけではあらぬよ」と騎士団長はまた私の心を読んで言った。「あの絵は一なかなか興味深い絵だが—今でもあの絵のままになっている。騎士団長はしっかりあの絵の中で殺されかけておるよ。…」(第1部 p. 350)  
訳文：“我可不是从画上下来的哟！” 骑士团长又看出了我的心思，“那幅画——非常意味深长的画——现在也照样是那幅画。骑士团长在那幅画中分明惨遭刺杀。…” (第1部 p. 258)
- (6) 「…」次に何になっているかはわからぬ。…」(第1部 p. 351)  
訳文：“…」下次是什么无由得知。…」”(第1部 p. 259)

用例(1)のように、原作の騎士団長は、一人称を「あたし」、二人称を「諸君」と称する。金水(編)(2014)『<役割語>小辞典』では、「諸君」について、「複数の話し相手を指し示す二人称代名詞の用法を持つ。また「読者諸君」「代議士諸君」のように、属性を表す名詞の後ろに付加して二人称または三人称複数代名詞のように用いる用法もある。明治時代の学生言葉である<書生語>に起源を持つ。」としている。騎士団長は複数形の「諸君」を単数形として用いることはかなり特徴的である。

また、一般的には、「ある」の打ち消しは「ない」であるが、騎士団長は「ない」の代わりに「ならない」を用いる。『日本国語大辞典』<sup>6</sup>によれば、「ならない」には二つの用法がある。一つ目は「ある」が動詞の場合。用例としては「浄瑠璃・心中宵庚申〔1722〕上「せく事はならない」」を挙げている。二つ目は「ある」が補助動詞の場合。用例としては、「おあむ物語〔1661～73頃〕「しら歯の首は、おはぐろ付て給はれと、たのまれて、おじゃったが、くびもこはいものでは、ならない」などを挙げている。用例の最後に、「古くは「あらず」、現代語では「ない」を用いるから、この形の用例は極めて乏しい。」と補注している。この記述からわかるように、「ならない」は古くは使われていたが、使用率は極めて低く、現代ではもう使わなくなっていると考えられる。

用例(2)、(3)は「免色」に対する呼称で、用例(4)～(6)は文末表現の使用例である。「だ、ん、おる」は役割語の〈老人語〉(〈博士語〉)に属する。騎士団長の話し方については、金水(2020)は、「典型的な〈老人語〉あるいは〈博士語〉(金水2003)には合致しないものの、類似のものであるとは言える。(中略)また、「あたし」「ぜ」は、東京(主に下町)では男性がよく用いたもので、こんにちでは老人語化した印象も与える。全体として、騎士団長の話し方は、明治時代の東京における知識人の話し方を彷彿とさせるものがある。」と指摘している。

一方、中国語訳本では、一人称の「あたし」に誰にでも使用される一人称「我」を当て、文末表現の「だ、ぜ、ん、よ、ね、おる」はほとんど無視され、訳されていない。現代中国語では、一人称代名詞は「我」のみであるが、古代では「吾」「余」「予」「朕」など多くある。単数形として使われる二人称の「諸君」は中国語では「诸君」と訳されている。『超級クラウン中日辞典』(2008:1472)三省堂では、中国語の「诸君」を「複数の相手に対する敬称。皆さま。」と記述している。日本語の「諸君」は主に男性が対等かそれ以下の複数の相手に対して親しみを込めて使う言葉であるが、中国語の場合、むしろ敬語として使われている点は原作とイメージが異なるところである。また、呼称の「免色くん」「免色氏」を中国語ではそれぞれ「免色君」「免色氏」と訳している(例(2)

(3)訳文参照)。中国語では「君」「氏」共に人に対する尊称であるため、原作よりやや尊敬度が高いと考えられる。

訳本で最も特徴的なのは「ならない」に対する翻訳である。林少華氏は「无有」と訳している(例(1)参照)。「无有」は現代中国語ではほとんど使われず、その代わりに

---

<sup>6</sup> 『日本国語大辞典』JapanKnowledge Lib, <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=20020027a4430VDoB099>



「没有」を使用する。《古代汉语词典》（1998：1647）商务印书馆 によれば、「无有」<sup>7</sup>には四つの意味・用法がある。一つ目は古代哲学範疇で、「虚无之道」を指す。二つ目は「没有，无。（～ない）」の意味として使う。三つ目は「不论（たとえ～であろうと）」に相当する。四つ目は「莫不是（おそらく～ではないだろうか）」に相当し、反問を表す。本作の訳文では、「无有」は二番目の「没有，无。」の意味として使われている。古語「无有」を使用することで、騎士団長の台詞に古めかしい印象が与えられるため、騎士団長のイメージと一致すると考える。

## ②中国語訳文側から一四字成語・熟語及び古語・文語的な語彙の多用

次は、中国語訳本の表現に焦点を当てて考察する。考察の結果、中国語訳文側から見ると、四字成語・熟語及び古語・文語的な語彙の多用が主な特徴として認められ、キャラクターの話し方を古めかしく表現するために、訳者が敢えて文中に古文調の硬い語彙を採用していることがわかった。

(7) 「〔…〕 あたしはただあの人物の姿かたちをとりあえず借用しただけだ。こうして諸君と向かい合うためには、何かしらの姿かたちは必要だからね。だからあの騎士団長の形体を便宜上拝借したのだ。〔…〕」（第1部 p. 350）

訳文：“〔…〕我只不过是姑且借用他的外貌而已。毕竟这么和诸君面面相觑，某种外貌不可或缺。故而暂且拜借骑士团长的形体。〔…〕”（第1部 p. 258）

(8) 「〔…〕 それが宇宙の一般的な原則である」（第2部 p. 119）

訳文：“〔…〕此乃宇宙的普遍性规律。”（第2部 p. 83）

(9) 「そこでじっとしておればよろしい」と誰かが言った。（第2部 p. 473）

訳文：“在此静静不动可也！”有人说。（第2部 p. 345）

---

<sup>7</sup> 【无有】 wú yǒu ①古代哲学范畴。指虚无之道。《老子·四十三章》：“出于～～，入于无间吾是以知无为有益。”《庄子·应帝王》：“有莫举名，使物自喜。立乎不测，而游于～～者也。”②没有，无。《左传·成公二年》：“其竭力致死，～～二心。”《史记·陈丞相世家》：“有叔如此，不如～～。”③犹如“不论”。《左传·僖公二十八年》：“有渝此盟，明神殛之，俾队其师，无克祚国，及尔玄孙，～～老幼。”（队：即“坠”。）④犹言莫不是，表示反问。《战国策·赵策一》：“今臣使于秦，而三日不见，～～谓臣为铁钻者乎？”（《古代汉语词典》（1998）商务印书馆 p. 1647）

(10) 「酒も飲まない。だいいち消化器もついておらんしね。 […]」 (第1部 p. 353)

訳文: “酒也不喝。盖因不具备消化器官。 […]” (第1部 p. 261)

(11) 騎士団長は首を横に振った。「何が危機であるか、何が危機でないかを判断するのは人の役目であって、アイデアの役目ではあらない。 […]」 (第2部 p. 307)

訳文: 騎士团长摇摇头: “判断孰是危机孰不是危机是人的职责, 不是理念的职责。 […]” (第2部 p. 222)

用例 (7) の訳文の波線部分に注目すると、中国語版の騎士団長の発話は「面面相觑」(互いに顔を見合わせる. どうしたらよいかわからない<sup>8</sup>. )、「不可或缺」(不可欠、欠くことが出来ない)などの洗練され、かつ表現力の強い四字成語・熟語を使用していることがわかる。また、用例 (8) ~ (11) の訳文からわかるように、「乃<sup>9</sup> (...は...であ

---

<sup>8</sup> 『ポケットプログレッシブ中日辞典』 JapanKnowledge Lib , <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465503888300#3892700>

<sup>9</sup> 乃 [副詞] 【書面語・文章語】 1…は…である。 2そこで。 3…してはじめて。 (『ポケットプログレッシブ中日辞典』 JapanKnowledge Lib , <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465504019100> )

る)、也<sup>10</sup>(判断または解釈をあらわす)、孰<sup>11</sup>(なに、どちら)、故而<sup>12</sup>(ゆえに)、盖因<sup>13</sup>(…なので)」など中国語の古語や文語的な語彙も頻繁に用いられている。

河崎(2017)によれば、中国の言語文化においては、発話に成語を多用する、または古典や詩を引用するキャラクターは「知識人」として認識されている。訳本では、このような四字成語・熟語を多用することで、読者に「騎士団長」が文化教養の高い知識人であるという印象を与えていると考えられる。しかし、訳者の林少華氏は日中古典詩の比較研究をしていたことや、文章の審美を重視していることから、氏の翻訳作品では共通して四字成語・熟語を使用しており、これは「林氏の翻訳スタイルであり、格調である」(劉2018)とされている。

確かに四字成語・熟語は本作品においても、騎士団長だけでなく、他のキャラクター「免色」、「顔なが」、主人公の「私」などの発話にも見られ、さらに地の文の描写にも多々見られる。そのため林氏の翻訳スタイルがたまたま原作における騎士団長の知識人のイメージと一致したとも考えられるが、「騎士団長」の発話には現代中国語、特に口語では一般的に使われなくなっている古語(「无有」、虚詞「乃」、「也」のような中国文言文などの硬い文章で目にする古めかしい表現)なども使用されており、その点から見れば、「騎士団長」のキャラクター作りに訳者独自の工夫もしていることがうかがえる。全体的に見れば、敬称「诸君」、「~君/氏」や四字熟語の使用によって原作より丁寧で、キャラクターの文化教養が高いイメージが伝わると考える。

---

<sup>10</sup>也 II [助詞] 【古代に使われていた言葉・語義】《判断・解釈の語気や疑問・詰問の口調を表したり、停顿を表す》(『ポケットプログレッシブ中日辞典』JapanKnowledge Lib, <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465506459400>)

<sup>11</sup>孰 [疑問代詞] 【古代に使われていた言葉・語義】1 だれ. だれか. 2 《選択を表す》いずれ. どちら. 3 何. (『ポケットプログレッシブ中日辞典』JapanKnowledge Lib, <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465505103600>)

<sup>12</sup>【故而】 [接続詞] 【書面語・文章語】ゆえに (『ポケットプログレッシブ中日辞典』JapanKnowledge Lib, <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465502145400#2146200>)

<sup>13</sup>[盖因]gàiyīn [接] ㊦…なので. …のために. <~失其地利, 以至如此>地の利を失ったので、このようになってしまった; 《水滸・67》. (《現代漢日辞海(上、下巻)》(1999)北京大学出版社 p. 994) \*㊦: 旧白話語彙

## 2) 顔なが (メタファー)

「顔なが」の身長は70センチか80センチで、騎士団長より少しばかり高く、飛鳥時代の庶民のような格好をし、「しがない下級のメタファー」と自称する。主人公の「私」のみと会話をするが、一人称は「わたくし/わたくしども」、二人称は「あなた様」を使用し、文末には基本的に「です/ます、～であります、～ております」などの丁寧体を用い、非丁寧体「～た/なる/ない」の使用は稀である。依頼表現は「～しておくれ」のような古風な言い方を使用する。

「顔なが」の特徴的な言語表現及びその中国語訳を下記の表2にまとめた。

表2 顔なが (メタファー)

	日本語	中国語訳	補注
一人称	わたくし/ わたくしども	我/我等	
二人称	あなた様	大人您	
文末表現	基本的に丁寧体： ～であります/～て おります/～です/ます	φ	*非丁寧体も ある： ～た/なる/ない
	依頼表現： ～しておくれ	请、敬请、务请…	*他には、 「～て/ていた だけませんか」 などもある
四字熟語	φ	因人而异、匪夷所 思…	
文語的な語彙	φ	故而、敬请、务请…	

以下、「顔なが」の話し方の具体例を示しながら分析を行う。下線は引用者による。

### ①人称代名詞

- (12) 「いいえ、それは買いかぶりであります。わたくしにはそんな立派な実力は具わっておりません。概念とか観念とか呼べるのは、もっと上等なメタファーのことです」 (第2部 p. 338)

訳文：“不，那是高抬我了。我不具备那般非同寻常的能力。能称为概念观念的，都是上等隐喻的事。”（第2部 p. 245）

- (13) 「いいえ、わたくしどもはアイデアなどではありません。ただのメタファーであります」（第2部 p. 335）

訳文：“不，我等不是什么理念，仅仅是隐喻”（第2部 p. 243）

- (14) 「あなた様がメタファー通路に入ることはあまりに危険であります。〔…〕」（第2部 p. 336）

訳文：“大人您进入隐喻通道，那实在太危险了。〔…〕”（第2部 p. 244）

上記の用例のように、原作では「顔なが」は一人称「わたくし」「わたくしども」、二人称「あなた様」を使用している。金水（編）（2014）『〈役割語〉小辞典』では、「わたくし」について、「一人称代名詞の一つ。「わたし」よりさらに改まった、あるいはへりくだった場面で用いる表現。男女を問わず、自分より目上の人、客、主人などに対して用いる。」としている。また、『日本国語大辞典』<sup>14</sup>では「わたくしども」の用法について、「自称。単数・複数にかかわらず用いる。自分、または自分の家族・仲間などをへりくだってという話で、わたくしのような価値の低い者といった気持ちを表現する。てまえども。」と記述している。そこでどちらも謙譲的な言い方と見なすことができる。この「わたくし」「わたくしども」の使用で「顔なが」は地位が低く、「私」を敬う卑屈な人物と捉えることができる。これに対して、中国語訳本の場合は「わたくし」を「我」と訳し、「わたくしども」を「我等」<sup>15</sup>のような古めかしい表現を当てて訳している。

二人称の「あなた様」は、「あなた」より敬意が高く、主に上位者に用いる二人称代名詞であるが、訳本では、「大人您」と訳している。これは身分呼称の「大人」＋人称代名詞「您」の組み合わせである。中国語の「大人」は主に目下の間人が地位の高い長官に、または官僚同士が相手に尊敬の意を込めて呼ぶ際に用いられ、時代劇でよく現れる古風な

<sup>14</sup> 『日本国語大辞典』JapanKnowledge Lib , <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=2002048173735TetDUI4>

<sup>15</sup> 《現代漢日辞海（上、下巻）》（1999：3236）北京大学出版社によれば、「我等」は旧白話語彙で、「われら．我々」の意味である。

表現である。『ポケットプログレッシブ中日辞典』<sup>16</sup>では「【旧中国で使われていた言葉・語義】高官に対する敬称；高貴な人」と記述している。

「您」は二人称「你」の敬称である。呂叔湘（主編）、牛島徳次・菱沼透（監訳）（2003）は、「你」について「相手の名前や相手の身分を表す名詞と共に用いる。‘你’の位置はその前後いずれの場合もある。ある種の感情が加わる。」と指摘している。また、続（1989）は、人称代名詞と指示呼称語との組み合わせを、「Ⅰ．人称代名詞＋指示呼称語」と「Ⅱ．指示呼称語＋人称代名詞」の二種類に分け、敬語体系の面から分析し検討を行っている。特に「指示呼称語＋二人称」について、「先に指示呼称語を出し、その後人稱代名詞を示すのは、このⅡのタイプの共通の形式であるが、二人称の場合、先に相手の名前や身分呼称などの指示呼称語を出すというのは、相手をもちあげることになる。その人間の人柄や社会的地位を確認したうえで、二人称の「你・您」を補うわけである。これは、その人物の名前や社会的地位にふさわしい人間として評価を与え、その人に対する気配りの現われである。このタイプを「オモイヤリ・オダテ〔关心・恭維〕型」と呼ぶことにしよう。」としている。

以上の記述からわかるように、「大人您」の使用で古めかしさを表現しつつ、「顔なが」というキャラクターの恭しいというイメージも伝わってくる。

## ②文末表現

(15) 「すみません。わたくしはまだ見習いのようなものです。気の利いた比喻は思いつけないのです。許しておくれ。でも偽りなく、正真正銘のメタファーであります」（第2部 p. 336）

訳文：“对不住，我还类似见习工。好玩的比喻想不出来，敬请饶恕。可我是货真价实的地地道道的隐喻。”（第2部 p. 243）

(16) 「〔…〕そして二重メタファーがあちこちに身を潜めております」（第2部 p. 336）

訳文：“〔…〕那里到处有双重隐喻藏而不见。”（第2部 p. 244）

(17) 「からかわないでおくれ。わたくしだって傷つかないわけではないのだから」（第2部 p. 338）

---

<sup>16</sup> JapanKnowledge Lib ,<https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465501112500#1148600>

訳文：“请别奚落我，我也并非不受伤的。”（第2部 p. 245）

(18) 「それではお気をつけて」と顔ながは私に言った。（第2部 p. 339）

訳文：“那么，多保重！”长面人对我说（第2部 p. 246）

(19) 「この紐をほどいていただけませんか？このままここに残していかれるととても困ります」（第2部 p. 337）

訳文：“能把这带子解开吗？就这样留在这里，我可太伤脑筋了。”（第2部 p. 245）

用例 (15) ～ (19) で挙げたように、「顔なが」は基本的に「～であります/～ております/～です/ます」のような丁寧でへりくだった話し方をする。また、相手に頼む時に、依頼表現「～て/ていただけませんか」なども使用するが、最も特徴的なのは「～しておくれ」のような古風な表現の使用と言える。楊慧芳（2009：13）は「しておくれ」を「やや古風な言い方である」と指摘しているが、中国語の訳本では、文末表現はほぼ訳されていないのに対して「～しておくれ」のみ、「敬请<sup>17</sup>（謹んでお願い申し上げます）」「务请<sup>18</sup>（ぜひ…していただきたい）」といった硬い文語で訳されている。

### ③中国語訳文側から—四字成語及び文語的な語彙の使用

(20) 「ここまでわたくしの通ってきた道は<メタファー通路>であります。個々人によって道筋は異なってきます。ひとつとして同じ通路はありません。ですからわたくしがあなた様の道案内をすることはできないのだ」（第2部 p. 336）

訳文：“我来这里所走的路是‘隐喻通道’，路线因人而异，相同的道路一条没有。故而我不能为大人您带路。”（第2部 p. 244）

(21) 「[…] 生身の人間がそこに入って、順路をひとつあやまれば、とんでもないところに行き着くことになる。[…]」（第2部 p. 336）

訳文：“[…] 具有血肉之身的人进入那里，只要走错一条路，势必走到匪夷所思的地方。[…]”（第2部 p. 244）

<sup>17</sup> 『超級クラウン中日辞典』（2008）三省堂 p. 578

<sup>18</sup> 『ポケットプログレッシブ中日辞典』JapanKnowledge Lib , <https://japanknowledge-com.remote.library.osaka-u.ac.jp:8443/lib/display/?lid=465505809400#5810100>

中国語訳文側から見れば、四字成語及び硬い文語的な語彙の使用が主な特徴である。例えば用例(20)(21)に四字成語「因人而异(人によって異なる)」、「匪夷所思(言行が常軌を逸している)」、文語の「故而(ゆえに)」などの使用が見られる。

以上の内容を含め総合的に言えば、訳文における「顔なが」のイメージは原作のイメージと一致すると思われる。敬語の「大人您」、旧白話語彙の「我等」など古めかしい表現の使用、さらに硬い文語・書面語「敬请」(謹んでお願い申し上げます)、「务请」(ぜひ…していただきたい)、「故而」(ゆえに)の使用で、読者に身分・階層が低い、恭しい人物像を想起させる。また、訳者は古めかしく(時代感)感じさせるために、あえて時代劇でよく現れる「大人」を使用するというような工夫をした。これは訳者の林少華氏によるなるべく原作のイメージを表現しようとする意図が見て取れると言える。

## 5 さいごに

本稿では、『騎士団長殺し』におけるキャラクター「騎士団長」と「顔なが」の特徴的な言語表現の中国語訳について考察し、翻訳者の林少華氏がどのような手段や方法を使って翻訳しているかを明らかにした。今後の課題としては、本作に登場する他のキャラクターの言語表現及び翻訳状況を考察するとともに、繁体字版の翻訳と比較することを挙げたい。

### 調査資料

村上春樹(2017)『騎士団長殺し 第1部 顛れるアイデア編』新潮社

村上春樹(2017)『騎士団長殺し 第2部 遷ろうメタファー編』新潮社

村上春樹(著)林少華(译)(2018)《刺杀骑士团长 第1部 显形理念篇》上海译文出版社

村上春樹(著)林少華(译)(2018)《刺杀骑士团长 第2部 流变隐喻篇》上海译文出版社

### 参考文献

金水 敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店。

金水 敏(編)(2014)『〈役割語〉小辞典』研究社。

金水 敏(2016)「役割語とキャラクター言語」『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ報告論集』私家版 pp. 5-13.



- 金水 敏 (2020) 「村上春樹作品と日本語史の「共鳴」—『騎士団長殺し』騎士団長の「あらない」再考—」『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (3)』大阪大学大学院文学研究科.
- 続 三義 (1989) 「中国語の人称代名詞と指示呼称語との組み合わせについて」『中国語学』236号 pp. 70-78.
- 楊 慧芳 (2009) 「話し手の意図と言語表現に関する研究—依頼表現を中心に—」別府大学大学院 博士学位論文.
- 劉 翔 (2018) 「小説『海辺のカフカ』におけるキャラクターの言語表現及び翻訳の分析—中国語版の訳本との対照を通して—」『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (1)』大阪大学大学院文学研究科.
- 呂 叔湘 (主編)、牛島徳次・菱沼透 (監訳) (2003) 『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』東方書店.
- Sven Sebastian Lindskog (2020) 「『騎士団長殺し』のキャラクターのスウェーデン語への翻訳の仕方について」『村上春樹翻訳調査プロジェクト報告書 (3)』大阪大学大学院文学研究科.
- 河崎深雪 (2017) 《汉语“角色语言”研究》商务印书馆



# 村上春樹と関西方言について<sup>1</sup>

—遠心的／求心的な移動とポリフォニー—

金水 敏  
(大阪大学)

## 1 はじめに

村上春樹氏の小説作品の大部分は、東京在住の主人公が登場するが、その主人公がさまざまな地域へと旅行するケースがある。例えば、北海道、石川、香川、東北各県など。また、関西（とおぼしき地域）、愛知など東京以外の地域を出発点として設定する小説もある。しかしながら、その土地の方言が小説に登場することは、後に述べる関西方言を除いて、極めて少ない。方言が登場しないこと自体は、近代小説の特徴として何ら驚くに値しない。方言の使用・不使用は、小説のテーマや文体と大きく関わる問題であり、すべて基本的に作者の裁量・さじ加減に任されるのである（金水 2014）。また実はこの点は、インタビュー集、旅行記など、非フィクション系の文章でも、概ね同じ事が言える。作者は方言が必要と判断すれば用いるし、必要ないと思えば使わなくても成立するだろう。

方言が基本的に抑制される傾向にあるなかで、村上春樹作品における関西方言の扱いは、やはり注目に値する。それは村上春樹氏という作家にとっての母語に根ざす表現だからである。関西方言はさまざまなステレオタイプ的なイメージをまとった方言であるが、一方で、共通語あるいは東京方言では表せないエクリチュールを可能にする言語でもある。村上春樹氏が関西方言を本格的に小説に取り入れ始めた時期あるいは動機付けは、1995年の阪神淡路大震災やオウムによるサリン散布事件とも同期しているようであり、また実の父の死、および父と向き合うことを試みる作家の姿勢とも関連しているように見える。

以下、まず「ヴァーチャル方言」の概念を導入するところから議論を始めたい。

## 2 ヴァーチャル方言、役割語としての関西弁、大阪弁ブンガク

リアルな話し手が日常生活の中で使用する方言をリアル方言と呼ぶとすれば、特定の目的のために編集・加工した方言を「ヴァーチャル方言」と呼ぶ（田中 2011；金水・田中・岡室 2014；田中 2016）。ヴァーチャル方言は、リアル方言を成りたたせている要素

---

<sup>1</sup> 本稿は、中村・曾（2020）に収録されたものであるが、本報告書に収録するにあたり、加筆修正を施している。

から特定の要素が取捨選択されて用いられるのが通常である。また方言は音声言語であるから、書かれた方言は大なり小なり、ヴァーチャル方言としての性格を帯びやすい。

方言にはしばしば、その方言を話す話者のイメージを帯びやすく、そのようなステレオタイプ的なイメージを利用したヴァーチャル方言の使用は「役割語」（金水 2003; 2014）としての方言ということになる。例えば、方言イメージの調査として、田中（2016）に引かれた 2015 年全国方言意識 Web 調査（田中 2016: 103 頁）では、東北方言＝◎素朴、首都圏方言＝かつこいい、京都方言＝△かわいい・◎女らしい、大阪方言＝◎面白い・○怖い、九州方言＝○男らしい、沖縄方言＝○温かいといった評語がそれぞれ高得点を得ている。

大阪方言・関西方言話者のステレオタイプの例として、金水（2003）では、「冗談好き、笑わせ好き、おしゃべり好き」「けち、守銭奴」「食通、食いしん坊」「派手好き」「好色、下品」「ど根性」「やくざ、暴力団、こわい」といった特徴を挙げている。

こういったステレオタイプを超えて、大阪弁あるいは関西方言が、日本文学において果たしうる機能について江（2018）は次のように述べている。

- (1) さてこの本で採り上げているように、町田康さんや黒川博行さんなど大阪弁を駆使する現代作家は多く、ここ数年は芥川、直木賞の受賞連発のみならずその活躍振りは目を見はるものがある。谷崎潤一郎や司馬遼太郎、山崎豊子といった国民的作家も大阪弁による名作をたんまりと書いている。

そこに見られる言葉遣いのユニークさと、主人公や登場人物の頭のでっぺんからつま先までの「その人となり」を表す言語表現のリアリティは、標準語がベースになっているものとはまったく違う。「大阪弁ブンガク」の魅力は、標準語として国語教育的に制度化された言語表現を超えるエクリチュールの「突き抜け加減」にあるのだ。

（中略）

近代的な中央集権国家をつくる際の要請として出来た「標準語／共通語」は、日本語が「ひとつの公用語」であることを前提としているが、そこからどうしてもなくはみ出ているなにかが過剰にあるのが大阪弁だ（そのひとつが「おもろい」かどうかだ）。誰かが世界のうちのなにかの事物を表現しようとするとき、今起こりつつあることをありありと著すときの「エッジの立ったコトバ」は、よい言葉、正しい言葉、美しい言葉……といった座標軸とは違うところにある（江 2018: 1-3）

### 3 村上春樹氏作品における関西弁

#### 3.1 「関西弁について」 (1986)

比較的初期のエッセーとして、『村上朝日堂の逆襲』(1986)に収められた「関西弁について」を挙げておきたい。以下に、引用する。

- (2) 僕は関西生まれの関西育ちである。父親は京都の坊主の息子で母親は船場の画家の娘だから、まず100%の関西種と言ってもいいだろう。だから当然のことながら関西弁をつかって暮らしてきた。

(中略)

しかしどういうわけか早稲田に入ることになって(中略)あまり気が進まない東京に出てきたんだが、東京に出てきていちばん驚いたことは僕の使う言葉が一週間のうちにほぼ完全に標準語—というか、つまり東京弁です—に変わってしまったことだった。僕としてはそんな言葉これまで使ったこともないし、とくに変えようという意識はなかったのだが、ふと気がついたら変わってしまっていたのである。気がついたら「そんなこと言ったってさ、そりゃわかんないよ」という風になってしまっていたのである。

(中略)

関西弁に話を戻すと、僕はどうも関西では小説が書きづらいような気がする。これは関西にいとどうしても関西弁でものを考えてしまうからである。関西弁には関西弁独自の思考システムというものがあって、そのシステムの中にはまりこんでしまうと、東京で書く文章とはどうも文章の質やリズムや発想が変わってしまい、ひいては僕の書く小説のスタイルまでががらりと変わってしまうのである。僕が関西にずっと住んで小説を書いていたら、今とはかなり違ったかんじの小説を書いていたような気がする。その方が良かったんじゃないかと言われるとつらいですけど。(pp. 22-26)

最後の引用部分では、江氏の言う「エクリチュール」の問題が述べられていると解釈できる。村上春樹氏がどのように独自の文体を獲得したかという問題については、『職業としての小説家』(2015)その他多くの場面で述べられているが、初期の村上春樹氏は、自身の関西弁的な話法を棄てるところから出発したと解釈できる。

なお、山(2019)によれば、「村上春樹ロングインタビュー」(2010)(筆者は未見)で関連する発言を行っている。

- (3) もし関西の大学に行っていたら、かなりの確率で小説なんて書いていなかっただろうと思います。…… (p. 63)

僕は関西生まれの関西育ちだから、大学に入るまでは当然何の留保もなく関西弁をしゃべっていた。バイリンガルだからいまでもあっちに帰って、知ってる人に会うとするネイティブに戻っちゃうけど、東京では完全に東京の言葉でしゃべっています。それは結局のところ、第二言語なわけです。……第二言語を使って生活していると、頭が重層化する。……それで自然に言語性と言うことを意識するようになった。(p. 64) (以上、山 2019:36-37 より)

村上氏はここで、関西弁=母語、東京の言葉=非母語であり、自分の小説は、非母語である東京のことでしか書けなかったという認識を述べているものと解釈できる。

### 3.2 「ことわざ」(1995) 『海辺のカフカ』(2002)—ステレオタイプの利用

最初はパーカー万年筆の広告に添えるために書かれた「ことわざ」(『夜のくもぎる』所収)は、前文800字にも満たないショート・ショートであるが、全編関西弁で書かれている(冒頭のみ示す)。

- (4) 猿やがな。なんせ猿がおったんや。嘘(うそ)やあるかい、ほんまもんの猿が木の上におったんや。わしもそらびっくりしたわ。なんやおるなあと思ったら、猿がおるんやもんなあ。わあこいつ猿やで、いうようなもんやわ。そいでやな、わしずっと見とったんや。猿やなあ、思て。ほしたらやなその猿がやな、落ちよったんや。どこからいうてそら木の上からやがな。猿が足すべらせて、木からこて一いうて落ちよったんや。ほらよう言うやないか、猿も木から落ちよるいうてな。あれやがな。(p. 191)

全体として、上方落語を思わせる軽妙な話体で、今となってはやや古風な大阪弁であるが、なんら不自然なところはない。村上春樹氏が関西弁の書き手としても十分な力のあることを示しているが、内容的には「ことわざが実現する」ということのシュールなおかしさを軽妙な語り口で語っているのであり、「おもしろい」という関西弁のステレオタイプを踏まえた作品とみるべきである。

『海辺のカフカ』(2002)は、小説のかなりの部分が高松市で展開されるのにも関わらず、高松の方言とおぼしき表現は皆無である(村上が1998年に書いた「讃岐・超ディー

プうどん紀行」で高松市のタクシー運転手やうどん店店主が香川方言を話しているのと大きな違いである)。しかし、第5章で甲村記念図書館に現れた、大阪から来た夫婦連れの発話は、かなりステレオタイプのである。

- (5) 「そら、もったいないことしましたな」と大阪から来た奥さんが本当に惜しそうに言った。「山頭火、今やったらもうえらいお値打ちですのにねえ」  
「おっしゃるとおりですね。でも当時の山頭火はまったく無名の存在でしたから、やむを得ないことかもしれません。あとになってみないとわからないこともたくさんあります」と佐伯さんはにこやかに言った。  
「ほんまに、ほんまに」と夫は相づちを打った。(上 84 頁)

### 3.3 『アフターダーク』(2004) のコオロギ

『アフターダーク』には、故あって本名を捨てたというコオロギという女性が登場し、関西弁で、ラブホテルのカオル、コムギという仕事仲間たちと軽妙な会話を交わしている。

- (6) 「あっちの子はコオロギ」とカオルは言う。「これは本名じゃないけどね」  
「すいません。本名は捨てましてん」とコオロギは関西弁で言う。彼女はコムギよりいくつか年上に見える。(p. 52)
- (7) 「何してんすか、カオルさん？」とコムギが尋ねる。  
「えらいむずかしい顔して」とコオロギが言う。(中略)  
「カオルさん、生まれる時代をちょっと間違えはったんですわ」とコオロギが真剣な顔つきで言う。  
「二千年くらい」とコムギ。  
「言えてる」とコオロギが同意する。(p. 97)

コオロギは多弁で一見ユーモラスな口調で話し続けるので、関西弁話者の「お笑い」ステレオタイプに当てはまりそうにも見えるが、この作品におけるコオロギの位置づけは単なる笑わせ役、〈トリックスター〉という以上に、重要な発話を担わされている。それは、エクリチュールというより、新たなヴォイス (cf. バフチン 1995 “ポリフォニー小説”) が村上春樹氏の小説にもたらされたような新鮮さを感じさせる。なお、関西弁をしやべるコオロギが、「本名を捨てた人物として造形されている点に注目したい。ここで

「本名を捨て」とは、すなわち故郷である関西を捨てた人物であるということと同時に意味するからである。

### 3.4 「アイロンのある風景」(1999) 「クリーム」(2018)

『神の子どもたちはみな踊る』(2000)所収の「アイロンのある風景」において、鹿島灘の小さな町で、絵を描いて暮らしているという40代の三宅さんは、順子と、同棲相手の啓介をしょっちゅう呼び出して、海岸で焚き火をする。三宅さんは順子にとって〈メンター〉として立ち現れるが、三宅さん自身も心に闇を抱えている。重要なのは、三宅さんが神戸に家族を持つ関西人で、口の悪い関西弁を話しているという点である。この焚き火のエピソードは、『村上朝日堂の逆襲』に収められた「阪神間キッズ」と共通する。

- (8) 「三宅さん、出身は神戸のほうだっていつか言ってましたよね」、啓介がふと思い出したように明るい声で尋ねた。「先月の地震は大丈夫だったんですか？ 神戸には家族とかいなかったんですか？」

「さあ、ようわからん。オレな、あっちとはもう関係ないねん。昔のことや」

「昔のことやと言われても、そのわりに関西弁ぜんぜん抜けないですね」

「そうかな、抜けてへんか？ 自分ではようわからんけど」

「あのね三宅さん、それがもし関西弁やなかったら、わたの喋ってるのはいったいなんですねん。むちゃくちゃゆわはったら困りますがな」

「気色の悪い関西弁つかうな。イバラギの人間にけったいな関西弁つかわれたくないんや。お前らは農閑期にむしろ旗たてて暴走族やとったらええんや」

「ひでえよな。三宅さんっておとなしそうな顔をして、すげえこと言いますよね。まったく、なにかというとすぐに北関東の純朴ピープルのこといじめるんだから、参りますがな」と啓介は言った。(「アイロンのある風景」pp. 55-56)

- (9) ……芦屋について今でもいちばんよく覚えていることといえば、真夜中によく家を抜け出して海岸(今はもうなくなってしまったけれど)に行き、友だちと酒を飲んでたき火をしたことくらいだが、そんなのべつに芦屋じゃなくたって海があればどこでもできることだ。(「阪神間キッズ」pp. 213-214)

『文学界』(平成30年7月号)に収められた「三つの短い話」の一つ、「クリーム」では、神戸で浪人生活を送っていた作者とおぼしき少年が、学年が一つ下の女の子にピアノの発表会に誘われて会場に行ってみると、それがまったくでたらめであったという出来



事について書いている。女の子にかつがれたかと思ひ動転している「ぼく」の目の前に、一人の老人が現れて不思議な言葉で語りかける。

(10) 「中心がいくつもある円や」

ぼくはまっすぐ顔をあげて、相手の顔を見た。目と目が合った。額がいやに広く、鼻がとがっていることがわかった。まるで鶏のくちばしのように鋭く尖っている。ぼくが何も言えずにいると、老人は同じ言葉をやはり静かな声で繰り返した。「中心がいくつもある円や」

(中略)

「円ですか？」とぼくは仕方なく声に出して尋ねた。相手は年上の人だし、返事もせず黙り込んでいるわけにはいかない。

「中心がいくつもあるやな、いや、ときとして無数にあつてやな、しかも外周を持たない円のことや」と老人は額のしわを深めて言った。「そういう円を、君は思い浮かべられるか？」 (pp. 33-34)

老人は「中心がいくつもある」「外周のない」円について話し、また難しい課題を解く経験が「人生のクリーム」なのだとか解く。不可解ながら少年は、老人の言葉で落ち着きを取り戻す。この老人もまた〈メンター〉であるが、その話す内容は空疎きわまりない。にもかかわらず、少年は老人の言葉に救われる。ここでも、関西弁で書かれた老人の言葉に、特有の“ヴォイス”が込められていることに注目したい。

### 3.5 「イエスタデイ」(2014)

『女のいない男たち』(2014)所収の「イエスタデイ」は、『村上朝日堂の逆襲』の「関西弁について」「阪神間キッズ」と重なる内容が多いが、興味深いのは、僕の友人の木樽が田園調布の生まれ・育ちであるにも関わらず、阪神タイガースのファンであるがゆえに大阪弁を自力でマスターしたという点である。これはすなわち、ヴァーチャル方言の一種である「方言コスプレ」(田中 2011)そのものである。逆に、「僕」は、関西の生まれであるにも関わらず、東京に出てきて1ヶ月で東京の言葉に変わってしまう。言語とは何か、母語とは何かという問題について作者の鋭い感覚が小説として面白くまとめられている。

(11) 「おれは子供の頃から熱狂的な阪神タイガースのファンでな、東京で阪神の試合があったらよう見に行ってたんやけど、縦縞のユニフォーム着て外野の応援席に行つて

も、東京弁しゃべってたら、みんなぜんぜん相手にしてくれへんねん。そのコミュニティーに入れへんわけや。それで、こら関西弁習わな思て、それこそ血の滲むような苦勞をして勉学に励んだわけや」

「それだけの動機で関西弁を身につけた？」と僕はあきれて尋ねた。

「そうや。それくらいおれにとっては、阪神タイガースがすべてやったんや。それ以来、学校でも家でもいっさい関西弁しかしゃべらんことにしてる。寝言かて関西弁や」と木樽は言った。

「どや、おれの関西弁はほぼ完璧やろ？」

「たしかに関西の出身者としか思えない」と僕は言った。「ただそれは阪神間の関西弁じゃないよね。大阪市内の、それもかなりディープな地域のしゃべり方だ」

「おお、ようわかっとなるな。高校の夏休みに、大阪の天王寺区にしばらくホームステイしとったんや。おもしろいところやったぞ。動物園にも歩いていけたしな」(pp. 69-79)

#### 4 考察

2019年6月に『文藝春秋』誌上で公開された「猫を棄てる-父親について語る時に僕の語ること」(pp. 240-267)では、長らく不和が続いていた父の生涯と死に向き合い、人の生のつながりについて内省的に記している。ここに引いてきた、村上春樹氏の関西弁の(不)使用の問題についても示唆を与えるところが大変大きい。この点に関連して、小説の文体の問題、海外志向の問題、プロ野球のファン・チームの問題、日本古典文学の問題に触れておきたい。

彼は、父に反抗して生まれ育った関西を飛び出し、同時に関西弁をいわば封印して(引用2参照)自分の文体を作った。村上は、処女小説「風の歌を聴け」の文体を決めるために、冒頭部分を一旦英語で書き、それを日本語に翻訳あるいは「移植」するように書き直して、文体の調子をつかんだと述べている(『職業としての小説家』45-47)。そもそも村上春樹の小説文体は一種の翻訳調であると言われ、また例えばリチャード・ブローティガンの翻訳で知られる藤本和子の文体に影響を受けていると指摘されることもある(『本当の翻訳の話をしよう』214頁)が、そのことについて本人は「ある意味ではあたっているし、ある意味でははずれている」と述べ、さらに次のように続けている。

- (12) 僕が求めたのは「日本語性」を薄めた日本語」の文章を書くことではなく、いわゆる「小説言語」「純文学体制」みたいなものからできるだけ遠ざかったところにある日本語を用いて、自分自身のナチュラルなヴォイスでもって小説を「語る」こ

とだったのです。そのためには捨て身になる必要がありました。極言すればそのときの僕にとって、日本語とはただの機能的なツールに過ぎなかったということになるかもしれません。（『職業としての小説家』48頁）。

彼が棄てたかったものは関西弁的な呼吸であり、また純文学的な伝統的文体であって、体制から外に出ること、遠ざかるそのことによって何かしらの自由を得て、作家としての第一歩を含みだした。というのである。

また彼は物理的にも日本を離れての海外居住生活が長かった（1986年から1990年までヨーロッパに、また1991年から1995年までアメリカに居住）。その過程で、「ねじ巻き鳥クロニクル」その他の執筆活動を続けていた。また自らの作品の翻訳を積極的にプロモートするなど、日本人作家の中では飛び抜けてグローバルな展開に力を入れてきた（『職業としての小説家』第11回「海外へ出て行く。あたらしいフロンティア」）。すなわち、関西という原点から、東京へ、そして世界へと活動の範囲を遠心的に広げていくとともに、言語面でも、関西弁から離れて標準語へ、そして各国語への翻訳へと媒体を変えながらその勢力範囲を外へ、外へと広げていった。

また彼はヤクルト・スワローズのファンであることを公言している。そもそも小説を書くことと決意したのが、1978年4月のよく晴れた日の午後に神宮球場にヤクルト-広島戦を見に行き、外野席に寝転んでビールを飲んでいてヒルトンが二塁打を打ったときに、何の脈絡もなく「そうだ、僕にも小説が書けるかもしれない」と思ったのだとしている（『職業としての小説家』41-42頁）。ここまでヤクルト・スワローズに肩入れをすることの背景には、やはり父が阪神ファンであったことの反動があったのではないか。「猫を棄てる……」では、次のように書いている。

(13) 甲子園球場によく一緒に野球の試合も見に行った。父は死ぬときまで熱心な阪神タイガース・ファンで、阪神が負けるとひどく不機嫌になった。僕が途中でタイガースを応援するのをやめてしまったのは、そのせいもあったかもしれない。（263頁）

「イエスタデイ」で木樽が阪神ファンであるが故に大阪弁を身につけたというエピソードは、作者の中で阪神ファン＝関西弁話者であり、また阪神ファンと聞けば反射的に父を想起するという公式が成立していることを暗示している。またこの小説では、木樽は田園調布の生まれ・育ちであるにも関わらず、阪神タイガースのファンであるがゆえに大阪弁を自力でマスターした男として描かれている。逆に、「僕」は、関西の生まれであるにも関わらず、東京に出てきて1ヶ月で東京の言葉に変わってしまう。「僕」は、実際に関西

から東京に出て関西弁を捨てたという作者自身の分身であるとする、「木樽」は「僕」とまったく逆のベクトルをたどった人物として提示されている。つまり作者は、完全に自分の移動が郷里から遠心的な動きをたどっていることを自覚しており、その対照形としての「木樽」を造形していることになる。

次に、日本古典文学の引用の問題について考えたい。村上春樹の父の村上千秋氏は高等学校で古典を教える教師であり、春樹に対して幼少時から古典文学の手ほどきをしていたが、春樹はむしろ父に反発し、自身は海外、特にアメリカの文学に傾倒していった。

(14) **村上** 僕は、父親の専門が日本の古典だったので、鬱陶しいから日本のものには近づかなかったというのが大きい。

**柴田** 近づかなくてもなんとなく入ってきてしまうくらい近くにあったんですか。

**村上** 昔から親にいわゆる日本の古典を勉強で読まされたので、よく読んでいるんだけど、出たくないから逃げている（笑）。僕のところにも『雨月物語』を現代語訳しないかという話がなくてはいいけど、英語からの翻訳の方が楽でいいです。

（『本当の翻訳の話をしよう』62-63頁）

ところが、日本古典文学を踏まえたエピソードや、それどころか古典の詞章の直接引用が、一時期から村上春樹の小説に目立つようになる。『海辺のカフカ』では「生き霊」について、源氏物語の例を引いて語られる（第8章、第23章）。『1Q84』では、平家物語の「壇ノ浦の合戦」の場が延々と引用される（第23章）。『騎士団長殺し』では、祠の石の隙間から聞こえる鈴の音が何物であるかという点について、上田秋成の春雨物語に収められた「二世の縁（えにし）」を踏まえて免色によって語られる（「14 しかしここまで奇妙な出来事は初めてだ」）。

ステレオタイプ的な関西弁の使用にとどまらず、関西弁のエクリチュール、あるいは父のヴォイスと思しき発話が作品の随所に響き始めていること、日本古典文学の影響や引用が生々しく現れ始めたことと、村上春樹氏が自らの父について真摯に語り始めたこととは、決して無縁ではあるまい。阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件を契機として“デタッチメント”から“コミットメント”へと作風をシフトさせたこと、あるいは人生のメンターとして河合隼雄氏に出会われたこととも一連の動きと捉えられる。

## 5 さいごに

村上春樹は、作家としての出発点から以降、関西から、そして日本から遠ざかり続けるという遠心的な移動を物理的にも象徴的にも続けてきた。そこでは、関西弁的な文体的呼

吸を棄て、外国文学のフィルターを借りて日本文学の伝統から自由になり、また日本そのものを脱出して文壇的土壌から遠く離れたところで作家としての営為を続けてきた。そこで作家が遠ざかろうとしたものの核心には、国文学者で阪神タイガース・ファンであった父・村上千秋のヴォイスというべきものがあつたと想像してみよう。しかし1995年以降、彼の作品には関西弁が、そして日本古典文学の詞章がかなり明瞭に響き始める。それは“原点回帰”というような単純な往還運動と見るべきではなく、彼の文学にさらに豊かなポリフォニーがもたらされたということであり、その契機に例えば阪神淡路大震災を通じての父との交流ということもあつたと想像される。この点については、さらに「戦争」「中国」といったテーマとも絡み合わせながら、村上春樹にとっての父子関係という視点で考察を深めていく必要があるのだろう。

付記：本稿の執筆にあたって、山木戸浩子氏より資料のご教示等有益な情報をいただきました（山木戸 2018）。記して感謝いたします。

#### 使用テキスト

『村上朝日堂の逆襲』朝日新聞社刊（1986）；「ことわざ」『村上春樹全作品 1990～2000① 短編集 I』講談社刊（2002）；『海辺のカフカ 上』新潮文庫（2005）；『アフターダーク』講談社刊（2004）；『神の子どもたちはみな踊る』新潮文庫（2002）；『女のいない男たち』文藝春秋（2002）；「村上春樹ロングインタビュー」『考える人』No. 33, 2010年夏号, 新潮社（2010）；『1Q84』新潮文庫（2012）；『職業としての小説家』スイッチ・パブリッシング（2015）；『騎士団長殺し』新潮文庫（2019）；「猫を棄てる—父親について語る時に僕の語ること」『文藝春秋』令和元年六月号（2019）；村上春樹・柴田元幸『本当の翻訳の話をしよう』スイッチ・パブリッシング（2019）

#### 参考文献

金水 敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店。  
金水 敏（編）（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社。  
金水 敏・田中ゆかり・岡室美奈子（編著）（2014）『ドラマと方言の新しい関係—「カーネーション」から「八重の桜」、そして「あまちゃん」へ—』笠間書院。  
金水 敏（2020）「村上春樹と関西方言について —遠心的／求心的な移動とポリフォニー—」中村・曾（2020）pp. 23-40。  
江 弘毅（2018）『K氏の大阪弁ブンガク論』ミシマ社。  
田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代』岩波書店。

田中ゆかり (2016) 『方言萌え!? ヴァーチャル方言を読み解く』岩波ジュニア新書.  
中村三春 (監修)・曾秋桂 (編集) (2020) 『村上春樹における移動』淡江大学出版中  
心.  
バフチン、ミハイル (著) 望月哲男・鈴木淳一 (訳) (1995) 『ドストエフスキーの詩  
学』ちくま学芸文庫 [ (原著) М. М. Бахтин.  
Проблемы поэтики Достоевского, Изд. 2-е. Мос  
ква, 1963. ]  
山 愛美 (2019) 『村上春樹、方法としての小説—記憶の古層へ—』新曜社.  
山木戸浩子 (2018) 「村上春樹作品における方言の翻訳」 「役割語研究会」発表要旨 (大  
阪大学、2018/7/28) .

#### 【補記】

本稿で使用したテキストのうち、「猫を棄てる—父親について語る時に僕の語ること」は、  
下記書籍として刊行された。

村上春樹『猫を棄てる 父について語るとき』文春 e-book (2020)

また、「クリーム」は下記書籍に収録された (25-48 頁)。

村上春樹『一人称単数』文藝春秋 (2020)

なお、上記の短編小説週に収録された「ウィズ・ザ・ビートルズ」 (71-122 頁)、「ヤク  
ルト・スワローズ詩集」 (123-150 頁) にも、関西弁の使用例が見られた。

#### ・ウィズ・ザ・ビートルズ

「僕」の初めてのガールフレンドと約束をして彼女の家に行くと、彼女は不在で、彼女の兄  
しかいなかった。ガールフレンドの兄は記憶に関わる病気を持っていて、時折、数時間の記  
憶がすっぱり抜け落ちるという話を関西弁で「僕」に話す。

「うちには今、誰もおらんみたいや」と彼は言った。「さっき起きたら、ぼくの他に  
は誰もいなかった。みんなどこかに行ってしまったみたいやけど、どこに行ったの  
か、ようわからん」 (92 頁)

#### ・「ヤクルト・スワローズ詩集」

「僕」は東京在住の小説家で、ヤクルト・スワローズ・ファンである。母親の記憶が次第に  
あやふやになり、一人暮らしが覚束なくなってきたとき、「僕」は彼女のすまいを整理する  
ために関西に帰った。大きな菓子箱に、阪神タイガースの選手の写真が付いたテレフォン・  
カードがぎっしり詰め込まれていたのを問いただすと、彼女は、自分が購入したことを真っ  
向から否定した。

「変なことを言うねえ。そんなもの私が買うわけないやないの」と彼女は言った。

「お父さんに聞いてくれたらわかると思うけど」 (141 頁) (以上)

## 著者情報

イーヴァソン房枝 (いーうあそん ふさえ)

ヨーテボリ大学・言語文学科・上級講師

FUSAE IVARSSON (Senior Lecturer, Department of Languages & Literatures,  
University of Gothenburg, Sweden)

セバスティアン・リンドソグ (Sebastian Lindskog)

大阪大学・大学院文学研究科・博士後期課程

劉 翔 (りゅう しょう)

大阪大学・大学院文学研究科・招聘研究員

金水 敏 (きんすい さとし)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

『村上春樹翻訳調査プロジェクト 報告書 (4)』

2021年3月25日発行

編集：金水 敏（大阪大学大学院文学研究科）

[kinsui@let.osaka-u.ac.jp](mailto:kinsui@let.osaka-u.ac.jp)

発行所：大阪大学大学院文学研究科

編集補助：後藤 睦

※この報告書の刊行は、科学研究費助成事業「「役割語・キャラクター言語の翻訳可能性・翻訳手法についての研究」（研究代表者：金水 敏、期間：2019年度～2021年度、課題番号：19K00574）に基づいて行われました。



